金融庁　御中

国民のNISAの利用状況等に関するアンケート調査（2016年2月）

- 結果報告書 -

2016年3月31日

株式会社インテージ　www.intage.co.jp/

Copyright© 2016 INTAGE Inc. All Rights Reserved.

CONTENTS

	Page
Ⅰ. 調査概要	2 ～
Ⅱ. 対象者特性	4 ～
Ⅲ. 調査結果	8 ～

Copyright© 2016 INTAGE Inc. All Rights Reserved.

Ⅰ. 調査概要

Ⅰ. 調査概要

調査目的	①平成26年1月のNISAの開始から2年が経過し、更にジュニアNISAが開始したことを踏まえ、NISAが国民にどのように利用されているか、また、どのような属性の者が利用しているか等について、情報の収集を行うこと。 ②家計金融資産の過半が現預金で保有されている現状を踏まえ、「貯蓄から投資へ」の流れを促進させ、より安定的な資産形成を実現させる為の施策の検討に活用する観点から、NISAに関する事項にとどまらず、現在投資を行っていない層まで広く調査対象に含めた上で、投資全般に関する事項についても調査する事で、幅広い情報の収集を行うこと。 ③上記の調査により得られた情報の分析を通じて、政策推進に向けた課題等の抽出を行うこと。
調査手法	インターネット調査（抽出フレーム：インテージネットモニター）
調査地域	全国
調査対象・サンプル設計	・ 20～79歳の男女10000サンプル ＊ 性・年代・エリアで割付を実施（割付は平成26年10月1日総務省による人口推計（都道府県別）に準拠） ＊ 職業条件による除外は実施していない。
質問数／呈示物	本調査　42問（弊社カウント方法にて）　／　分散・長期投資によるリスク軽減説明文呈示（画像呈示）
実施時期	2016年2月8日（月）～2月11日（木）
調査実施機関	株式会社　インテージ

＜ 性・年代ごとの回収人数詳細＞

	男性						女性					
	20代	30代	40代	50代	60代	70代	20代	30代	40代	50代	60代	70代
北海道	27	33	38	35	42	29	27	34	40	38	48	38
東北・北関東	81	104	113	110	125	84	73	98	108	109	129	105
首都圏（南関東）	221	275	315	229	244	187	207	258	295	218	254	214
甲信越・北陸	39	51	58	55	65	46	38	50	58	54	66	54
東海	83	105	121	95	106	80	77	97	113	93	111	92
近畿	114	133	160	124	148	115	114	137	166	130	162	137
中四国	54	69	77	71	89	62	51	68	78	72	94	79
九州・沖縄	74	91	94	92	108	71	75	93	99	99	115	93
	男性 4,942サンプル						女性 5,058サンプル					
	総計 10,000サンプル											

Copyright© 2016 INTAGE Inc. All Rights Reserved.

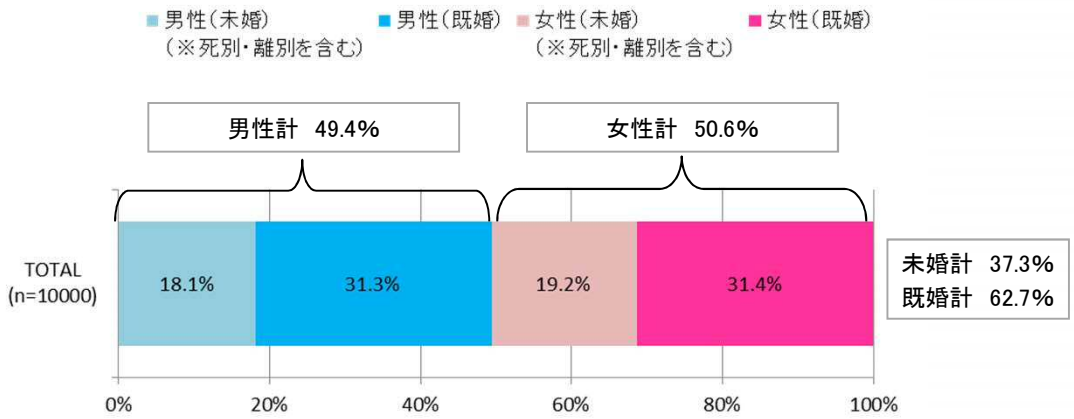
Ⅱ．対象者特性

各ページに掲載している質問文における
〔SA〕は単一回答質問を、〔MA〕は複数回答質問を指す。

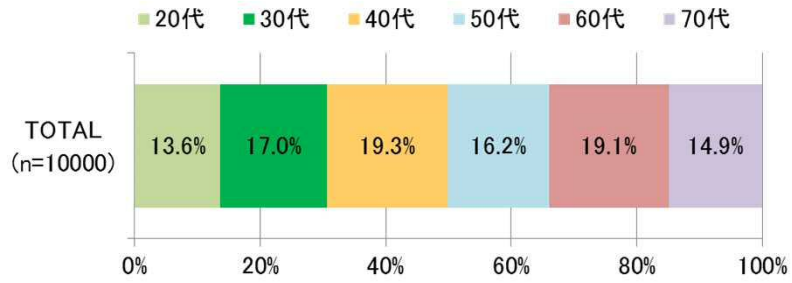
II. 対象者特性

Q. あなたの性別をお答えください。[SA]
Q. あなたの年齢をお答えください。[SA]
Q. あなたの職業を教えてください。[SA]

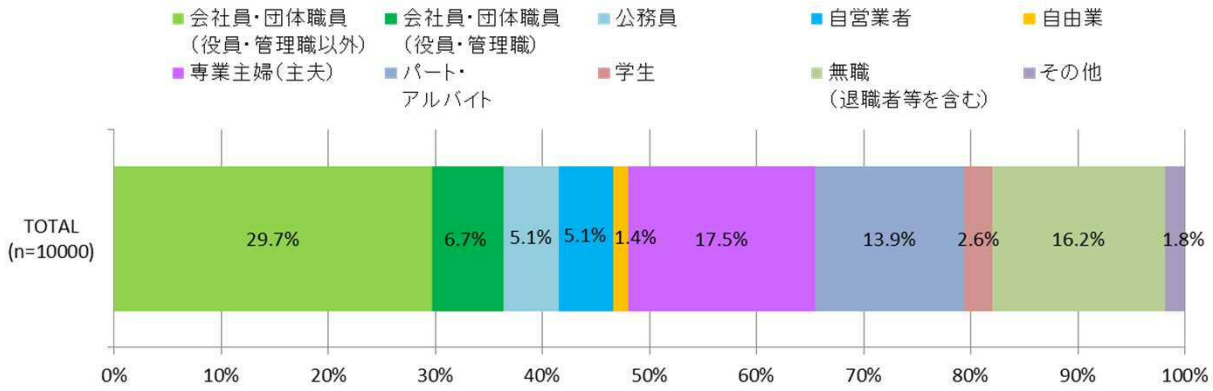
＜性別・未既婚＞



＜年齢＞



＜職業＞

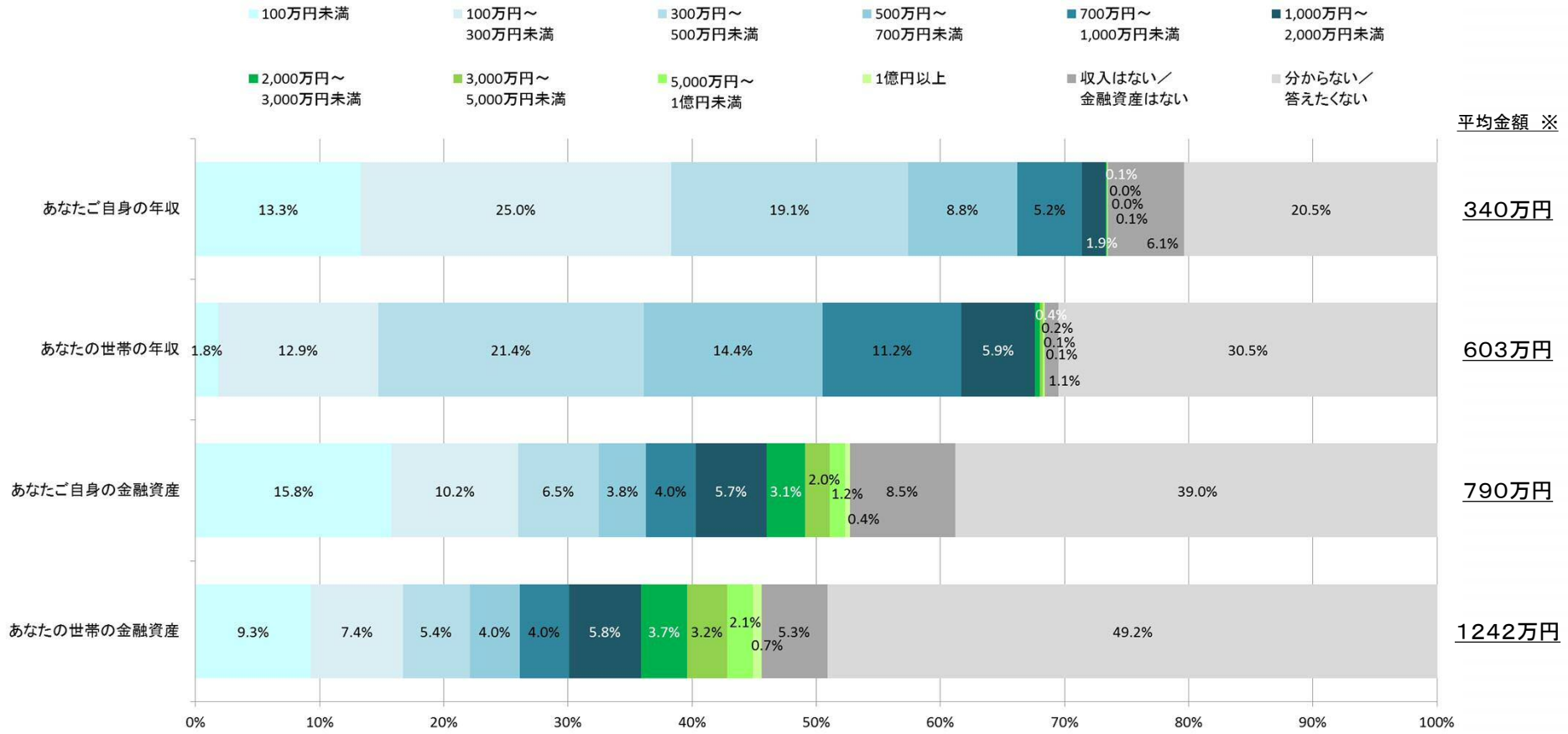


Copyright© 2016 INTAGE Inc. All Rights Reserved.

II. 対象者特性

Q. 最近1年間の、あなたご自身および世帯の年収を教えてください。また、現在のあなたの世帯およびあなたご自身の金融資産を教えてください。〔SA〕
※金融資産・・・現金（タンス預金など）や預貯金（円・外貨）、株式、国債などの債券、投資信託、FX、ETF、REIT など。土地や不動産、保険は除きます。

＜年収・金融資産状況＞



※ 平均金額は、「分からない／答えたくない」との回答者を除いて算出。また平均金額算出にあたっての各選択肢のウエイト値は以下の通り。
100万円未満:49.5万円／100万円～300万円未満:199.5万円／300万円～500万円未満:399.5万円／500万円～700万円未満:599.5万円／700万円～1,000万円未満:849.5万円／1,000万円～2,000万円未満:1,499.5万円／2,000万円～3,000万円未満:2,499.5万円／3,000万円～5,000万円未満:3,999.5万円／5,000万円～1億円未満:7,499.5万円／1億円以上:10,000万円／収入はない・金融資産はない:0円

Copyright© 2016 INTAGE Inc. All Rights Reserved.

II. 対象者特性

Q. あなたの親族に20歳未満の人はいますか。あてはまるもの全てを選んでください。〔SA〕
Q. あなたの20歳未満の親族について、あてはまるもの全てを選んでください。〔SA〕

＜20歳未満の親族人数　自身との関係別＞

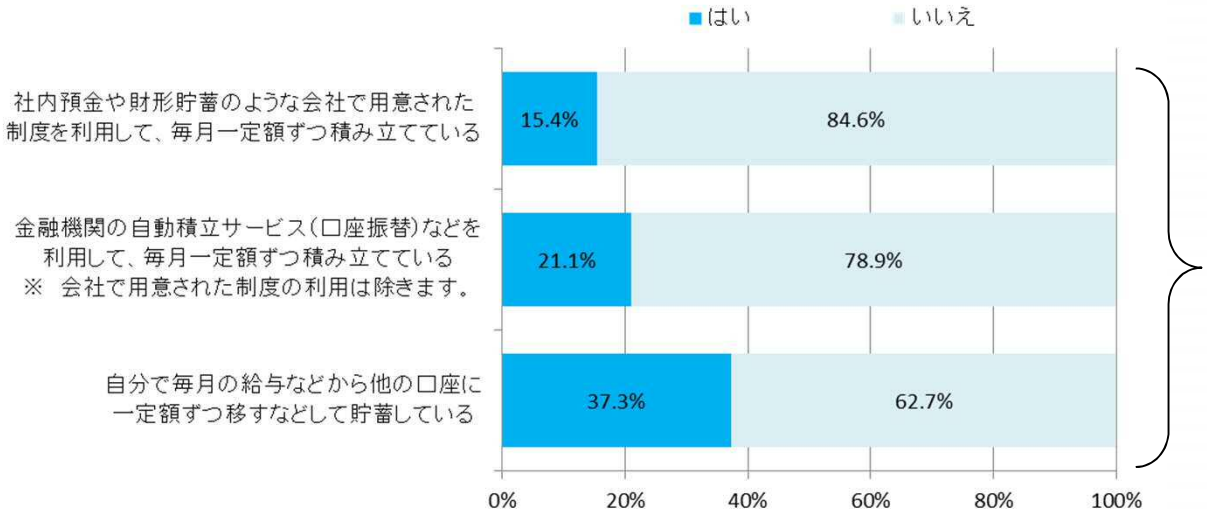
	n	1人	2人	3人	4人	5人以上	20歳未満の親族は該当するいない
あなたの子供（20歳未満）	(10000)	11.4%	11.8%	4.0%	0.7%	0.6%	71.4%
あなたの孫（20歳未満）	(10000)	5.7%	6.8%	4.7%	3.0%	3.4%	76.5%
あなたの甥・姪（20歳未満）	(10000)	8.7%	10.5%	6.0%	3.8%	7.8%	63.2%
その他（20歳未満）	(10000)	3.6%	3.6%	2.6%	2.0%	7.7%	80.5%

＜20歳未満の親族人数　学齢別＞

	n	1人	2人	3人	4人	5人以上	親族は該当するいない
未就学児（小学校入学前）	(10000)	16.7%	11.1%	5.3%	2.3%	3.2%	61.4%
就学児（小学生～高校生を含む）	(10000)	16.0%	14.3%	7.4%	4.0%	5.7%	52.6%
大学・短大・専門学校生等	(10000)	9.2%	3.2%	0.9%	0.4%	0.3%	86.0%
その他（20歳未満）	(10000)	4.4%	2.5%	1.7%	1.0%	2.5%	88.0%

Q. あなたは積立での預貯金をしたり、財形貯蓄を利用したりしていますか。〔SA〕

＜積立貯蓄の実施状況＞　n=10000



積立貯蓄実施率（*）
42.5%

＊積立貯蓄実施率
・・・「会社で用意された制度の利用」、「金融機関の自動積立サービスなどの利用」、「自分で他の口座に一定額ずつ移すなど」のいずれかの方法で積立貯蓄を実施している者の割合。

Copyright© 2016 INTAGE Inc. All Rights Reserved.

Ⅲ. 調査結果

各ページに掲載している質問文における
〔SA〕は単一回答質問を、〔MA〕は複数回答質問を指す。

Ⅲ. 調査結果

金融資産保有経験率／有価証券保有状況

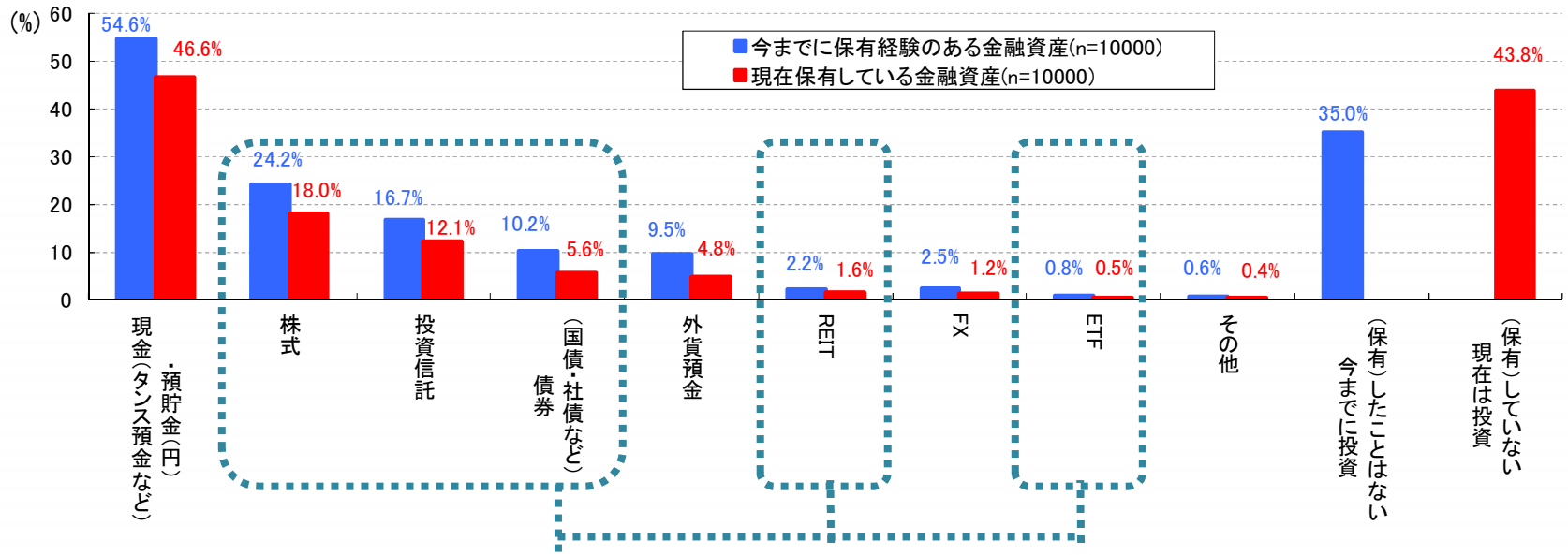
・有価証券保有経験は全体の3割強に留まる。

・金融資産ごとの現保有率をみると、「株式」は2割弱、「投資信託」は1割強に留まっている。

Q. 今までに、あなたが投資（保有）したことのある金融資産（※）を教えてください。また、現在あなたが保有している金融資産を教えてください。
〔MA 「今までに投資（保有）したことはない」「現在は投資（保有）していない」は排他〕
※ 金融資産・・・現金（タンス預金など）や預貯金（円・外貨）、株式、国債などの債券、投資信託、FX（外国為替証拠金取引）、ETF（上場投資信託）、REIT（不動産投資信託）など。土地や不動産、保険は除きます。

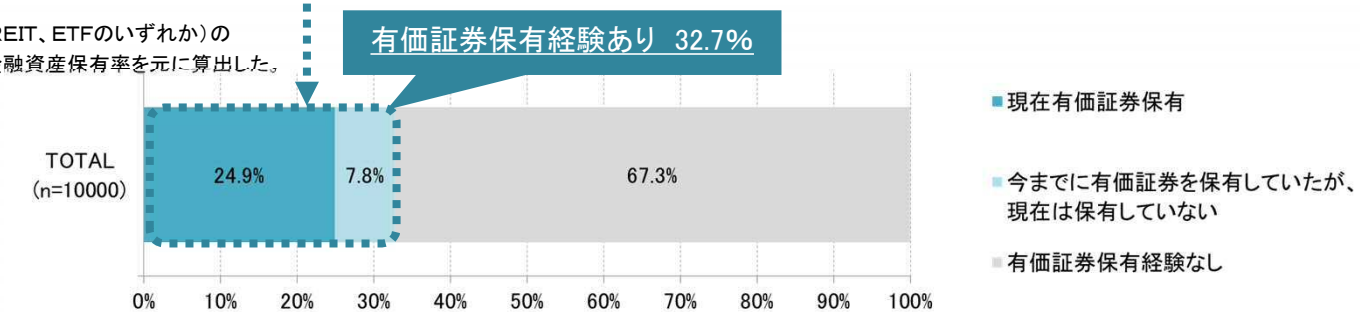
＜国民全体の金融資産別保有状況＞ ※ 現在保有率で降順にソート実施

＊ 「金融資産」としての保有経験有無を聴取している為、「現金・預貯金」などは金融資産として認識していない場合がある。



＜国民全体の有価証券保有状況＞

＊ 有価証券（＝株式、投資信託、債券、REIT、ETFのいずれか）の
今まで及び現在の保有率を、上記各金融資産保有率を元に算出した。



Copyright© 2016 INTAGE Inc. All Rights Reserved.

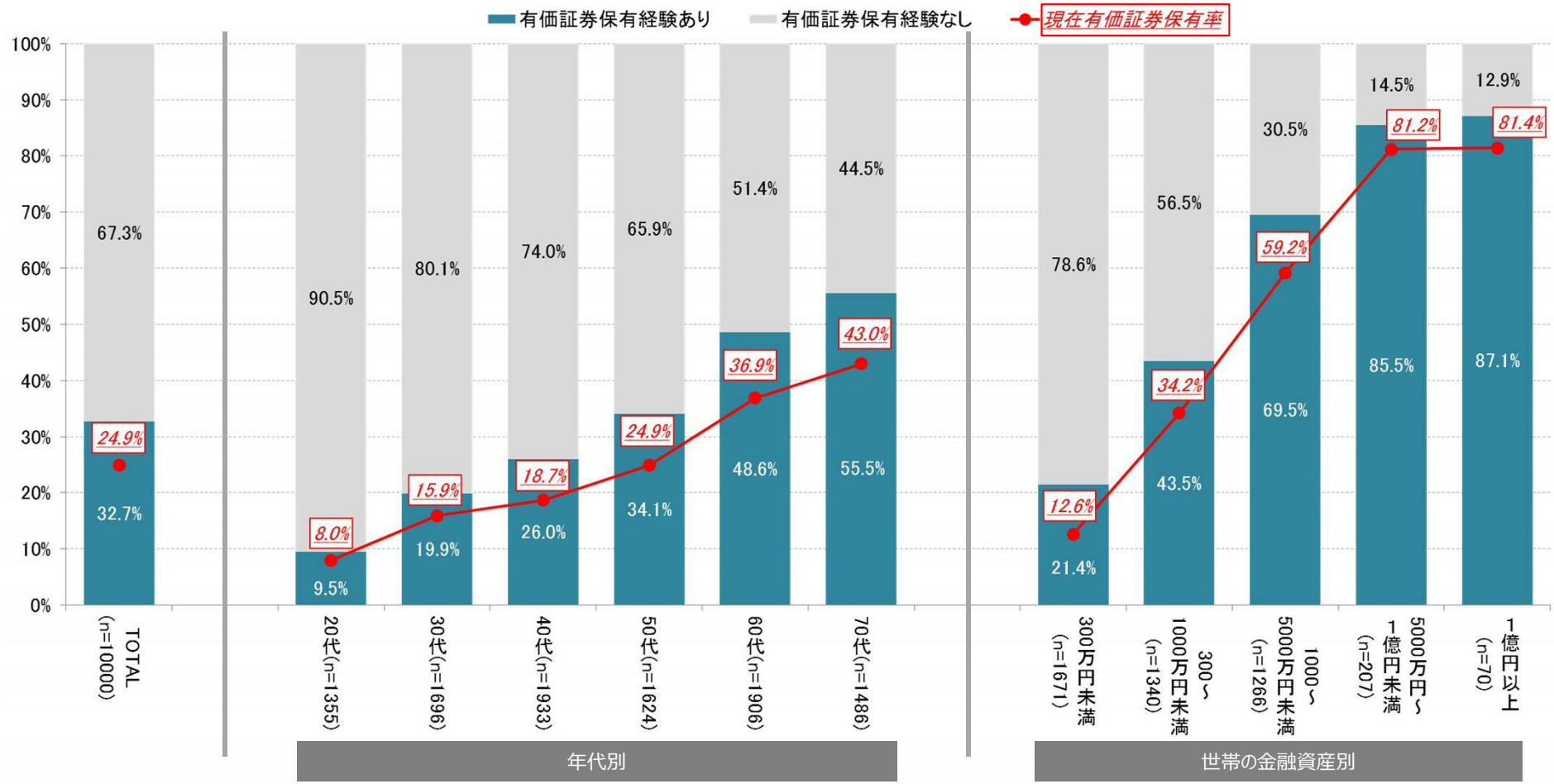
Ⅲ. 調査結果

有価証券保有状況　－属性別－

・年代別にみると、60代以上のシニア層では、約半数が投資経験を有しているが、30代以下の若年層では1～2割程度の経験に留まっており、若年層における投資家の拡大が課題。また世帯金融資産階級別にみると、300万円未満での投資経験が低い。

Q. 今までに、あなたが投資（保有）したことのある金融資産（※）を教えてください。また、現在あなたが保有している金融資産を教えてください。
〔MA　「今までに投資（保有）したことはない」「現在は投資（保有）していない」は排他〕
※　金融資産・・・現金（タンス預金など）や預貯金（円・外貨）、株式、国債などの債券、投資信託、FX、ETF、REIT　など。土地や不動産、保険は除きます。

＜国民の有価証券保有状況　性別・世帯の金融資産別＞



Copyright© 2016 INTAGE Inc. All Rights Reserved.

Ⅲ. 調査結果

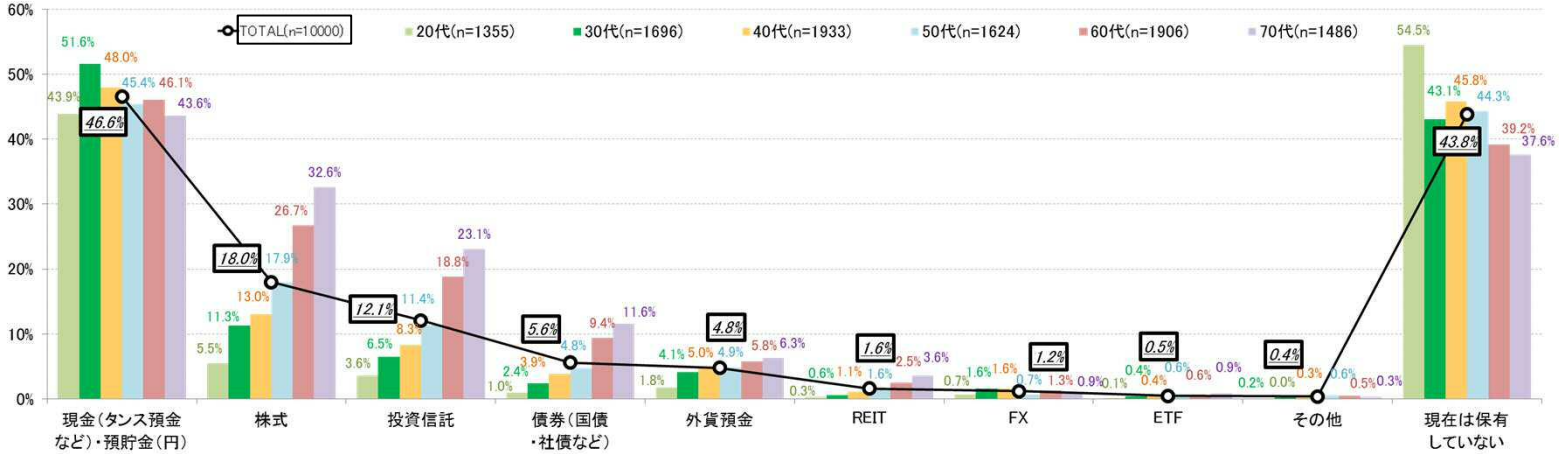
金融資産現在保有率　－属性別－

・年代があがるほど、有価証券の現在保有率が高くなる。投資信託は30代以下の若年層で低く、身近な存在になっていない様子。

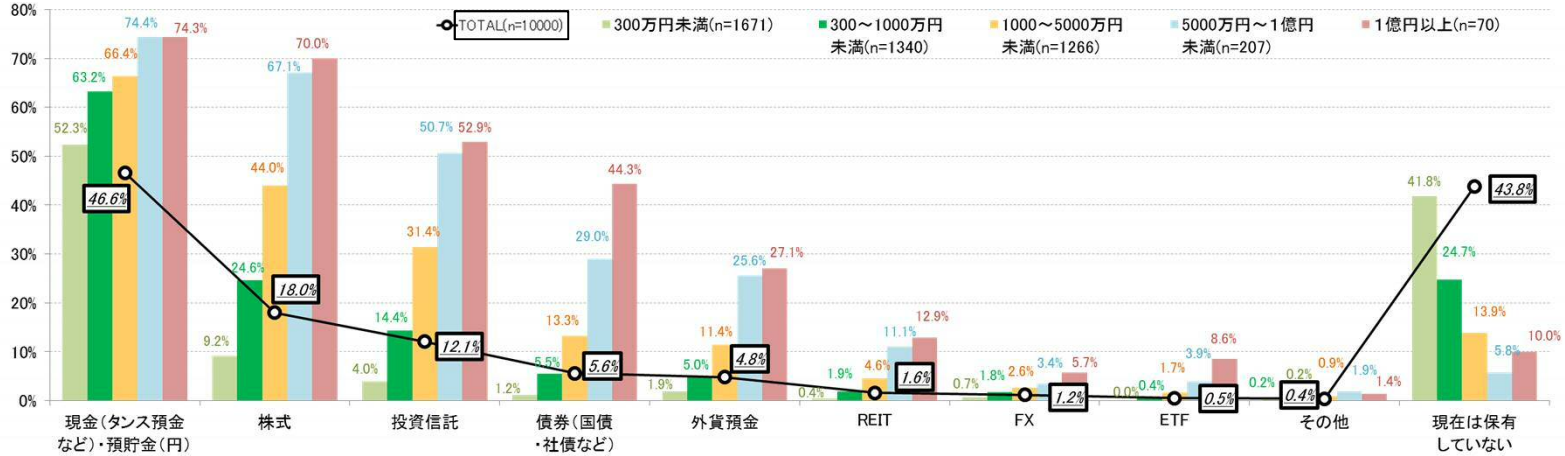
・金融資産別では、300万円以上の世帯で各金融資産の現在保有率が上昇する。

Q. 今までに、あなたが投資（保有）したことのある金融資産（※）を教えてください。また、現在あなたが保有している金融資産を教えてください。〔MA 「現在は投資（保有）していない」は排他〕
※　金融資産・・・現金（タンス預金など）や預貯金（円・外貨）、株式、国債などの債券、投資信託、FX、ETF、REIT　など。土地や不動産、保険は除きます。

＜国民の金融資産別現在保有状況　年代別＞



＜国民の金融資産別現在保有状況　世帯の金融資産別＞　※　世帯の金融資産が「分からない」層は、非掲載



Copyright© 2016 INTAGE Inc. All Rights Reserved.

Ⅲ. 調査結果

各金融商品のイメージ

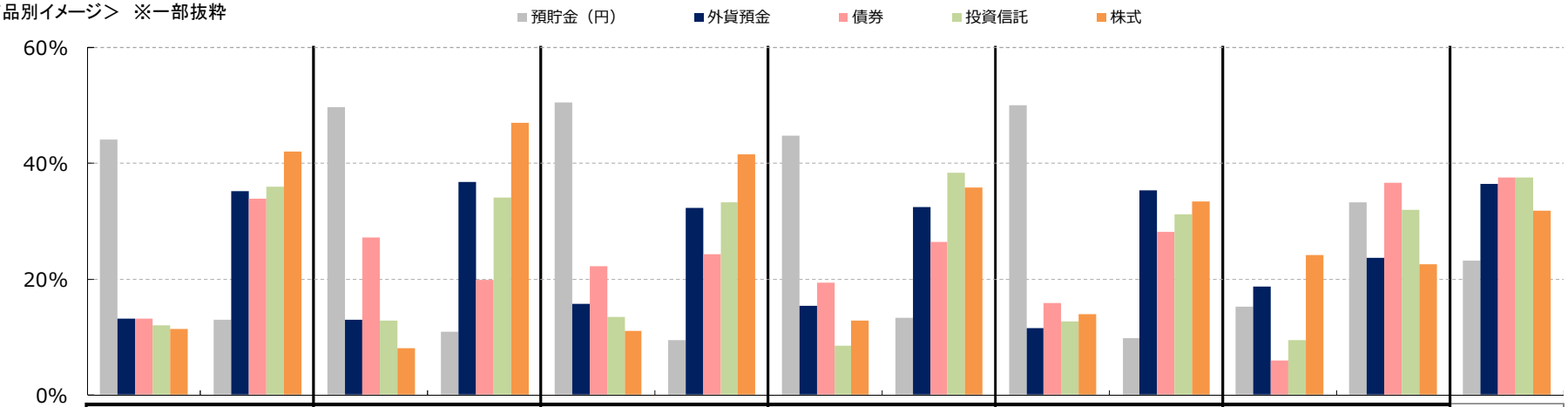
・株式、投資信託、外貨預金といった投資性商品全般で、「リスクが高く危険」「高度な知識が必要」「仕組みが複雑で分かりにくい」「一般の人には必要ない」とのイメージが強い。

・特に株式は「少額からでも資産形成に役立つ」とのイメージが低く、「お金持ちがやるもの」との印象が強い。

・また株式は「短期売買」のイメージが高いが、「投資信託」や「債券」は、「中長期の資産形成に適する」イメージが高くなる模様。

Q. あなたは、以下の金融商品・資産形態についてどのような印象をお持ちですか。あてはまるものをすべてお選びください。〔MA 「あてはまるものはない」は排他〕

＜金融商品別イメージ＞ ※一部抜粋



	n	資金面		リスク認識		知識		仕組み		必要性		活用法		あてはまるものはない
		少額からでも資産形成に役立つもの	資金にゆとりがある程度のお金持ちがやるもの	リスクが比較的低く、素人でも十分に活用できるもの	リスクが比較的高く、素人には危険なもの	高度な知識は必ずしも必要なく、素人でも十分に活用できるもの	高度な知識が必要で、専門家向けのもの	商品やサービスの仕組みがシンプルで、分かりやすい	商品やサービスの仕組みが複雑で、分からない	いわゆる一般の投資家にも限らず一般の人にも必要なもの	一般の人には必要ないもの	短期の売買を繰り返すことに適して利益を出すもの	短期の値動きを気にせず、中長期の資産形成を行うのに適している	
預貯金（円）	(10000)	44.1%	13.0%	49.7%	10.9%	50.4%	9.4%	44.7%	13.3%	49.9%	9.8%	15.2%	33.2%	23.2%
外貨預金	(10000)	13.2%	35.1%	13.0%	36.7%	15.7%	32.2%	15.4%	32.4%	11.6%	35.3%	18.7%	23.7%	36.5%
債券	(10000)	13.2%	33.8%	27.1%	19.9%	22.3%	24.3%	19.3%	26.4%	15.9%	28.2%	6.0%	36.6%	37.5%
投資信託	(10000)	12.0%	35.9%	12.8%	34.0%	13.4%	33.3%	8.6%	38.4%	12.6%	31.2%	9.4%	32.0%	37.6%
株式	(10000)	11.4%	42.0%	8.0%	46.9%	11.0%	41.5%	12.9%	35.8%	14.0%	33.4%	24.1%	22.6%	31.8%

・・・他金融商品に比べ最も高い　・・・他金融商品に比べ最も低い

Copyright© 2016 INTAGE Inc. All Rights Reserved.

Ⅲ. 調査結果

各金融商品のイメージ　－有価証券保有状況別－

・現在有価証券保有層（現投資家層）、保有中止・休止層（売却層）、保有未経験層の「投資信託」と「株式」のイメージを比較すると、「株式」は各層共通で「お金持ちがやるもの」「リスク高」「高度な知識が必要」が高く、投資信託は現投資家層で「中長期」のイメージが高い。また現投資家層と売却層では「仕組みが複雑」とのイメージが高くなる。

・保有未経験層は、全般的に「あてはまるものがない」が高く、金融商品に対して具体的なイメージが希薄。特に投資信託で「少額で資産形成」「仕組みがシンプル」「一般的なもの」とのイメージが低く、身近なものとは感じていない様子。

Q. あなたは、以下の金融商品・資産形態についてどのような印象をお持ちですか。あてはまるものをすべてお選びください。〔MA 「あてはまるものはない」は排他〕

＜金融商品別イメージ　有価証券保有状況別＞　※一部抜粋

		n	少額からでも資産形成に役立つもの	資金にゆとりがある程度の人やお金持ちがやるもの	リスクが比較的低く、素人でも十分に活用できるもの	リスクが比較的高く、素人には危険なもの	高度な知識は必ずしも必要なく、素人でも十分に活用できるもの	高度な知識が必要で、専門家向けのもの	商品やサービスの仕組みがシンプルで、分かりやすい	商品やサービスの仕組みが複雑で、よく分からない	いわゆる投資家に限らず一般の人にも必要なもの	一般の人には必要のないもの	短期の売買を繰り返して利益を出すことに適しているもの	短期の値動きを気にせず、中長期の資産形成を行うのに適しているもの	あてはまるものはない
			資金面		リスク認識		知識		仕組み		必要性		活用法		
現在有価証券保有層	預貯金（円）	(2486)	62.6%	9.1%	71.9%	6.1%	72.3%	4.3%	65.1%	7.4%	71.0%	5.0%	16.3%	45.8%	6.6%
	外貨預金	(2486)	22.3%	40.8%	20.1%	45.7%	27.0%	35.0%	28.4%	33.4%	18.7%	42.8%	27.6%	30.1%	19.4%
	債券	(2486)	27.5%	34.6%	52.5%	12.9%	45.0%	16.8%	40.9%	19.2%	31.9%	26.4%	7.4%	52.3%	19.0%
	投資信託	(2486)	28.7%	37.7%	27.1%	38.2%	30.3%	32.5%	19.1%	44.0%	27.7%	31.5%	12.1%	48.2%	16.3%
	株式	(2486)	26.0%	47.5%	17.0%	55.9%	25.9%	43.4%	32.3%	32.2%	28.1%	35.2%	37.5%	30.3%	9.5%
			資金面		リスク認識		知識		仕組み		必要性		活用法		
有価証券保有中止・休止層	預貯金（円）	(786)	58.1%	11.3%	64.8%	7.8%	66.7%	6.2%	60.3%	11.2%	63.2%	7.0%	17.7%	40.3%	11.7%
	外貨預金	(786)	16.0%	40.7%	17.2%	43.3%	20.9%	35.1%	21.2%	35.4%	15.1%	39.6%	24.6%	26.8%	26.7%
	債券	(786)	19.2%	40.1%	45.8%	14.9%	36.8%	20.4%	31.3%	22.8%	25.7%	27.5%	7.4%	49.2%	24.4%
	投資信託	(786)	16.5%	43.4%	22.6%	36.8%	21.9%	34.9%	13.6%	42.1%	18.7%	33.7%	13.6%	39.3%	25.8%
	株式	(786)	13.1%	53.7%	9.5%	58.1%	12.7%	51.1%	16.9%	39.8%	17.9%	38.4%	32.6%	24.8%	18.6%
			資金面		リスク認識		知識		仕組み		必要性		活用法		
有価証券保有未経験層	預貯金（円）	(6728)	35.6%	14.6%	39.7%	13.0%	40.4%	11.7%	35.3%	15.8%	40.6%	11.8%	14.6%	27.7%	30.7%
	外貨預金	(6728)	9.4%	32.3%	9.9%	32.6%	11.0%	30.8%	9.8%	31.6%	8.6%	32.0%	14.8%	21.0%	43.9%
	債券	(6728)	7.2%	32.8%	15.5%	23.1%	12.2%	27.5%	9.9%	29.4%	8.9%	29.0%	5.3%	29.4%	45.9%
	投資信託	(6728)	5.3%	34.3%	6.3%	32.2%	6.2%	33.4%	4.2%	35.9%	6.3%	30.7%	7.9%	25.1%	46.8%
	株式	(6728)	5.8%	38.6%	4.4%	42.2%	5.3%	39.7%	5.3%	36.7%	8.3%	32.1%	18.1%	19.5%	41.5%

・・・他金融商品に比べ最も高い　・・・他金融商品に比べ最も低い

Copyright© 2016 INTAGE Inc. All Rights Reserved.

Ⅲ. 調査結果

金融商品「投資信託」「株式」のイメージ －属性別－

・金融・投資教育経験別や金融リテラシーの程度別、マネープラン作成経験別にみると、経験がある層やリテラシーが高い層は、
投資信託や株式に対して「当てはまるものはない」が低く、何らかのイメージを持っている様子。
また上記の層では、特に投資信託の「中長期」イメージが、他の層に比べ高くなる。

Q. あなたは、以下の金融商品・資産形態についてどのような印象をお持ちですか。あてはまるものをすべてお選びください。〔MA 「あてはまるものはない」は排他〕

＜金融商品「投資信託」のイメージ 属性別＞ ＊ 一部抜粋

		n	資金面		リスク認識		知識		仕組み		必要性		活用法		
			少額からでも資産形成に役に立つもの	資金にある程度のゆとりがある人やお金持ちがやるもの	リスクが比較的低く、素人でも十分に活用できるもの	リスクが比較的高く、素人には危険なもの	高度な知識は必ずしも必要なく、素人でも十分に活用できるもの	高度な知識が必要で、専門家向けのもの	商品やサービスの仕組みがシンプルで、分かりやすい	商品やサービスの仕組みが複雑で、よく分からない	いわゆる投資家に限らず一般の人にも必要なもの	一般の人には必要のないもの	短期の売買を繰り返して利益を出すことに適しているもの	短期の値動きを気にせずに、中長期の資産形成を行うのに適しているもの	あてはまるものはない
TOTAL		(10000)	12.0%	35.9%	12.8%	34.0%	13.4%	33.3%	8.6%	38.4%	12.6%	31.2%	9.4%	32.0%	37.6%
金融・投資教育経験有無別	教育・勉強経験あり	(2898)	24.3%	42.2%	23.3%	42.1%	25.2%	39.2%	17.2%	47.1%	24.7%	35.1%	13.9%	45.9%	17.5%
	教育・勉強経験なし	(7102)	7.0%	33.3%	8.5%	30.8%	8.6%	30.9%	5.2%	34.8%	7.7%	29.6%	7.5%	26.3%	45.8%
金融リテラシー程度別(※)	金融リテラシー高	(2809)	17.8%	39.1%	17.2%	38.3%	19.2%	36.0%	11.5%	43.0%	17.7%	33.8%	10.2%	40.3%	27.5%
	金融リテラシー中	(4007)	10.4%	33.8%	12.1%	30.8%	11.9%	30.8%	8.0%	35.9%	11.6%	28.8%	9.2%	28.7%	42.9%
	金融リテラシー低	(3184)	7.8%	35.1%	8.7%	33.8%	9.1%	33.7%	6.3%	36.6%	8.3%	31.5%	8.8%	27.3%	41.5%
将来のマネープラン検討・作成経験有無別	検討・作成経験あり	(3047)	22.1%	44.3%	22.0%	43.0%	24.0%	40.0%	15.4%	48.2%	23.5%	36.0%	14.5%	44.2%	17.0%
	検討・作成経験なし	(6953)	7.6%	32.2%	8.8%	30.1%	8.8%	30.3%	5.7%	34.1%	7.9%	29.0%	7.1%	26.7%	46.6%

＜金融商品「株式」のイメージ 属性別＞ ＊ 一部抜粋

・・・各TOTALより5%以上高い

・・・各TOTALより5%以上低い

		n	資金面		リスク認識		知識		仕組み		必要性		活用法		
			少額からでも資産形成に役に立つもの	資金にある程度のゆとりがある人やお金持ちがやるもの	リスクが比較的低く、素人でも十分に活用できるもの	リスクが比較的高く、素人には危険なもの	高度な知識は必ずしも必要なく、素人でも十分に活用できるもの	高度な知識が必要で、専門家向けのもの	商品やサービスの仕組みがシンプルで、分かりやすい	商品やサービスの仕組みが複雑で、よく分からない	いわゆる投資家に限らず一般の人にも必要なもの	一般の人には必要のないもの	短期の売買を繰り返して利益を出すことに適しているもの	短期の値動きを気にせずに、中長期の資産形成を行うのに適しているもの	あてはまるものはない
TOTAL		(10000)	11.4%	42.0%	8.0%	46.9%	11.0%	41.5%	12.9%	35.8%	14.0%	33.4%	24.1%	22.6%	31.8%
金融・投資教育経験有無別	教育・勉強経験あり	(2898)	20.4%	52.1%	14.1%	58.1%	20.0%	49.9%	24.9%	40.4%	24.8%	38.0%	35.1%	30.3%	12.8%
	教育・勉強経験なし	(7102)	7.7%	37.9%	5.4%	42.3%	7.3%	38.1%	8.0%	34.0%	9.6%	31.5%	19.6%	19.5%	39.5%
金融リテラシー程度別(※)	金融リテラシー高	(2809)	15.3%	47.9%	9.2%	54.6%	14.8%	45.6%	18.6%	37.3%	18.3%	36.5%	29.7%	26.5%	21.5%
	金融リテラシー中	(4007)	10.1%	38.7%	7.7%	42.7%	9.4%	38.5%	11.2%	33.7%	12.4%	31.3%	22.4%	20.4%	37.6%
	金融リテラシー低	(3184)	8.8%	40.1%	6.9%	44.2%	8.8%	41.1%	8.9%	37.2%	11.4%	32.9%	19.9%	21.4%	35.1%
将来のマネープラン検討・作成経験有無別	検討・作成経験あり	(3047)	19.5%	52.1%	12.7%	59.6%	18.6%	51.0%	22.8%	41.9%	23.3%	39.7%	34.3%	30.6%	11.5%
	検討・作成経験なし	(6953)	7.8%	37.6%	5.9%	41.3%	7.6%	37.3%	8.6%	33.2%	9.9%	30.6%	19.6%	19.1%	40.6%

※金融リテラシー別 ・・・ 5問の金融・投資知識確認質問(P.21参照)の回答結果を分類。「4～5問正解」= 金融リテラシー高／「3問正解」=金融リテラシー中／「0～2問正解」=金融リテラシー低 と定義した。

Copyright© 2016 INTAGE Inc. All Rights Reserved.

Ⅲ. 調査結果

有価証券保有総額／株式・投資信託の保有期間

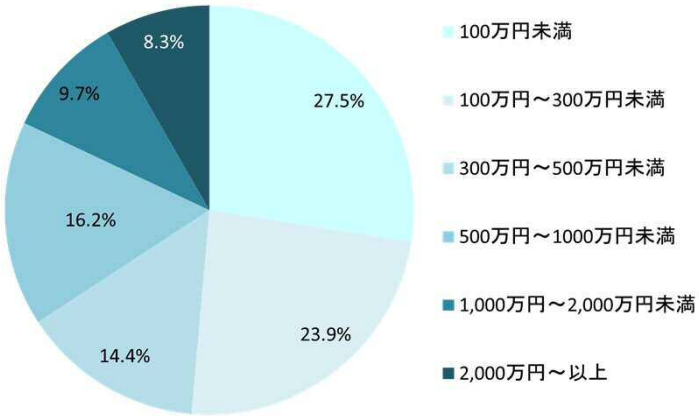
・有価証券の保有額をみると、平均で758万円。100万円未満で3割弱、300万円未満を合わせて、全体の過半数を占める。

・株式と投資信託の保有期間をみると、平均で3年を超えている。「5年以上」の保有実績の割合が、株式で半数、投資信託でも4割を占める。
投資経験者の多くは、比較的長期投資を実践している様子がうかがわれる。

※ NISA制度を既存投資家の投資状況に仮に当てはめると、非課税投資総額（120万円×5年；600万円）に収まる比率は、保有額500万円未満までの65%をカバー。
非課税期間との比較では、全体の半数から6割を占める5年未満の投資家をカバーできるが、5年以上という長期投資の実践をしているものに対しては、非課税期間が短い。

Q. ＜現在、有価証券保有者に＞ あなたが保有している有価証券（※）の総額を教えてください。〔SA〕
※ 有価証券・・・株式、国債などの債券、投資信託、REIT、ETFを指します。預貯金や不動産、FX等は含みません。
Q. ＜現在あるいは過去に株式・投信を保有していた者にのみ＞ 現在、下記の金融商品を保有している方、及び保有していたことのある方におうかがいします。
あなたはご自身で購入した下記金融商品を、売却までの間、概ねどの程度の期間保有していますか。または保有していましたか。〔SA〕

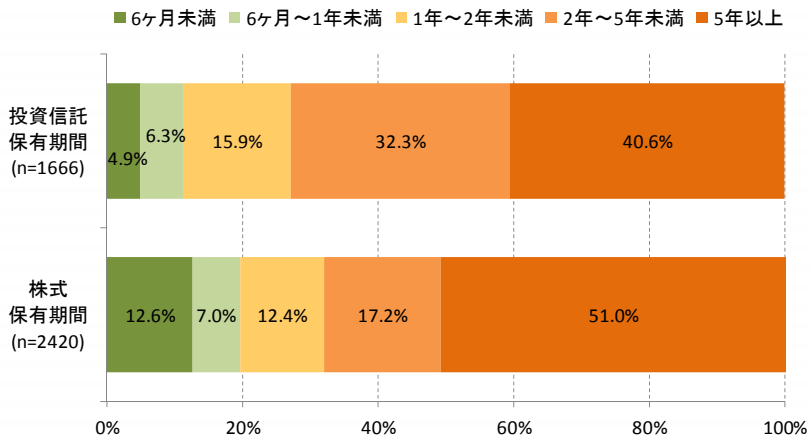
＜有価証券保有総額＞ ※ 現在有価証券保有者ベース（n=2486）
＊ 一部の価格帯を括って掲載



平均保有総額 758万円

【平均金額の算出におけるウエイト値は以下の通り】
100万円未満:49.5万円／100万円～300万円未満:199.5万円
／300万円～500万円未満:399.5万円／500万円～700万円未満:599.5万円
／700万円～1,000万円未満:849.5万円／1,000万円～2,000万円未満:1,499.5万円
／2,000万円～3,000万円未満:2,499.5万円／3,000万円～5,000万円未満:3,999.5万円
／5,000万円～1億円未満:7,499.5万円／1億円以上:10,000万円

＜株式・投資信託の保有期間＞ ※各今までの保有経験者ベース
＊ 一部の保有期間を括って掲載



平均保有期間
42ヶ月
41ヶ月

【平均保有期間の算出におけるウエイト値は以下の通り】
1ヶ月未満:0.5ヶ月／1ヶ月～3ヶ月未満:2ヶ月／3ヶ月～6ヶ月未満:4.5ヶ月／6ヶ月～9ヶ月未満:7.5ヶ月
／9ヶ月～1年未満:10.5ヶ月／1年～1年6ヶ月未満:15ヶ月／1年6ヶ月～1年9ヶ月未満:19.5ヶ月
／1年9ヶ月～2年未満:22.5ヶ月／2年～5年未満:42ヶ月／5年以上:60ヶ月

Copyright© 2016 INTAGE Inc. All Rights Reserved.

Ⅲ. 調査結果

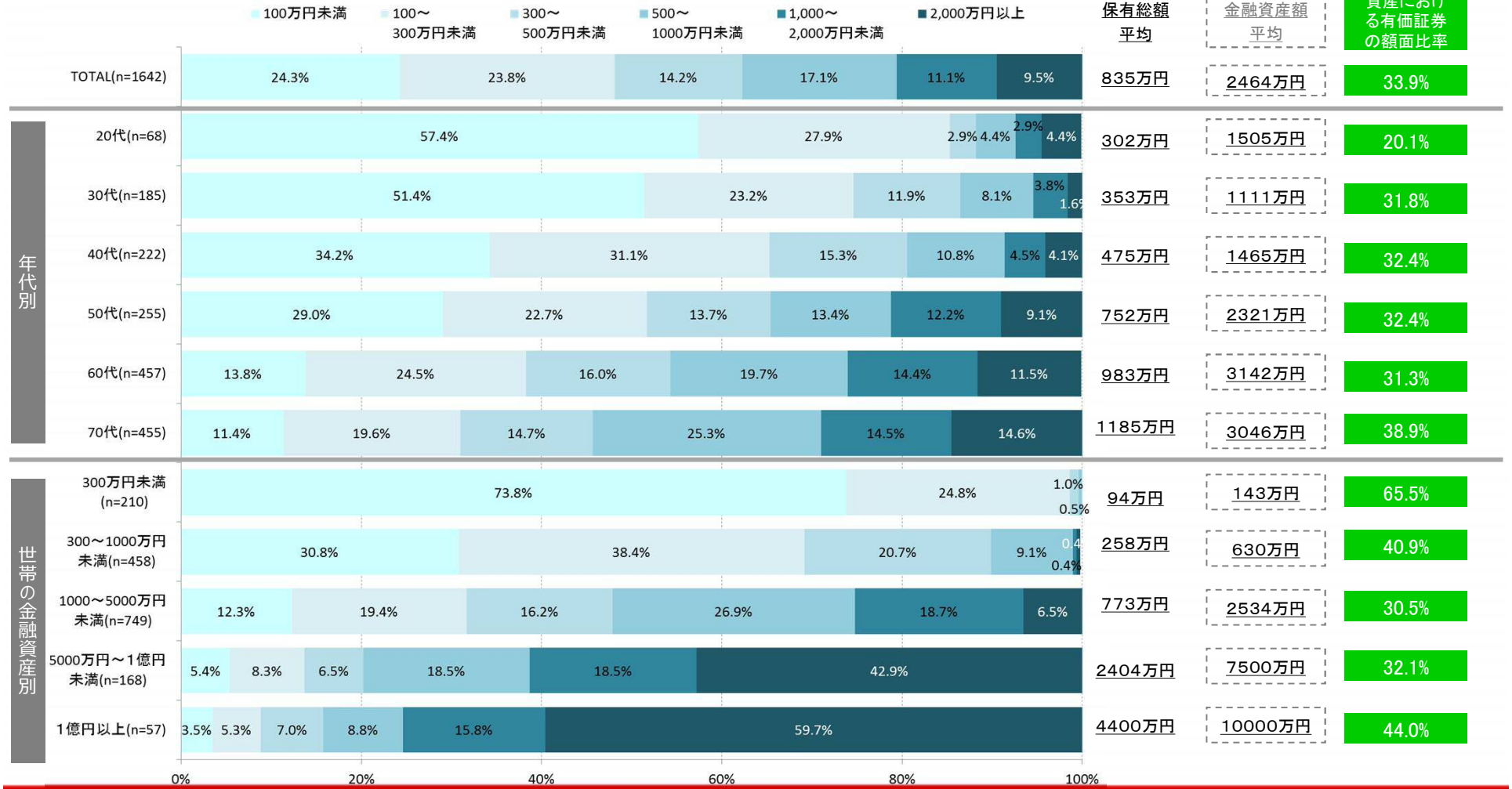
有価証券保有総額（世帯の金融資産回答者ベース） －属性別－

・有価証券保有層における、有価証券保有額の金融資産額に占める比率は、全体平均で3割強。年代別では70代で最も高く、20代では2割となっている。

※資金循環統計ベース（平成27年12月末）では、有価証券比率は16．6%。これは非保有者も合わせたマクロベースであり、アンケート調査は保有者対象であるため、高い比率となっている。

Q. ＜現在有価証券保有者に＞あなたが保有している有価証券（※）の総額を教えてください。〔SA〕　※有価証券・・・株式、国債などの債券、投資信託、REIT、ETFを指します。預貯金や不動産、FX等は含みません。

＜ 有価証券保有総額　年代別＞　※　世帯の金融資産が「ない」者や、不明の者は除いて掲載



Copyright© 2016 INTAGE Inc. All Rights Reserved.

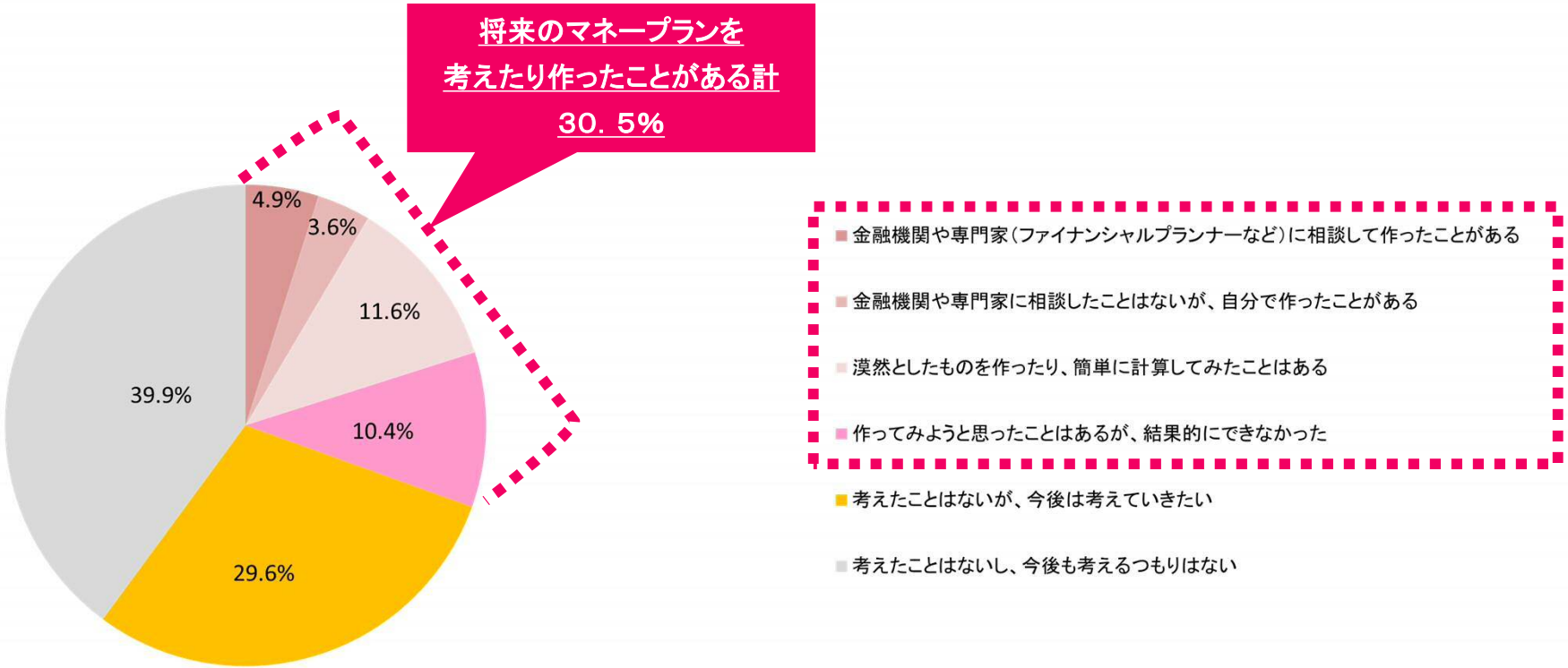
Ⅲ. 調査結果

将来のマネープラン作成状況

・将来のマネープランの作成経験者の割合は、全体の3割程度に留まっている。このうち、金融機関等の専門家の相談によるものは、全体の5%。
「作ってみたができなかった」割合は1割程度を占め、マネープランの作成に難しさを感じている層もいる様子。
・また「作成経験はないが今後の作成意向はある」といった、潜在的にマネープランの必要性を感じている層が3割程度いる模様。

Q. あなたは、将来のマネープランについて考えたり作ったりしたことはありますか。あてはまるものを一つだけお答えください。〔SA〕

＜将来のマネープラン作成状況＞　n=10000



Copyright© 2016 INTAGE Inc. All Rights Reserved.

Ⅲ. 調査結果

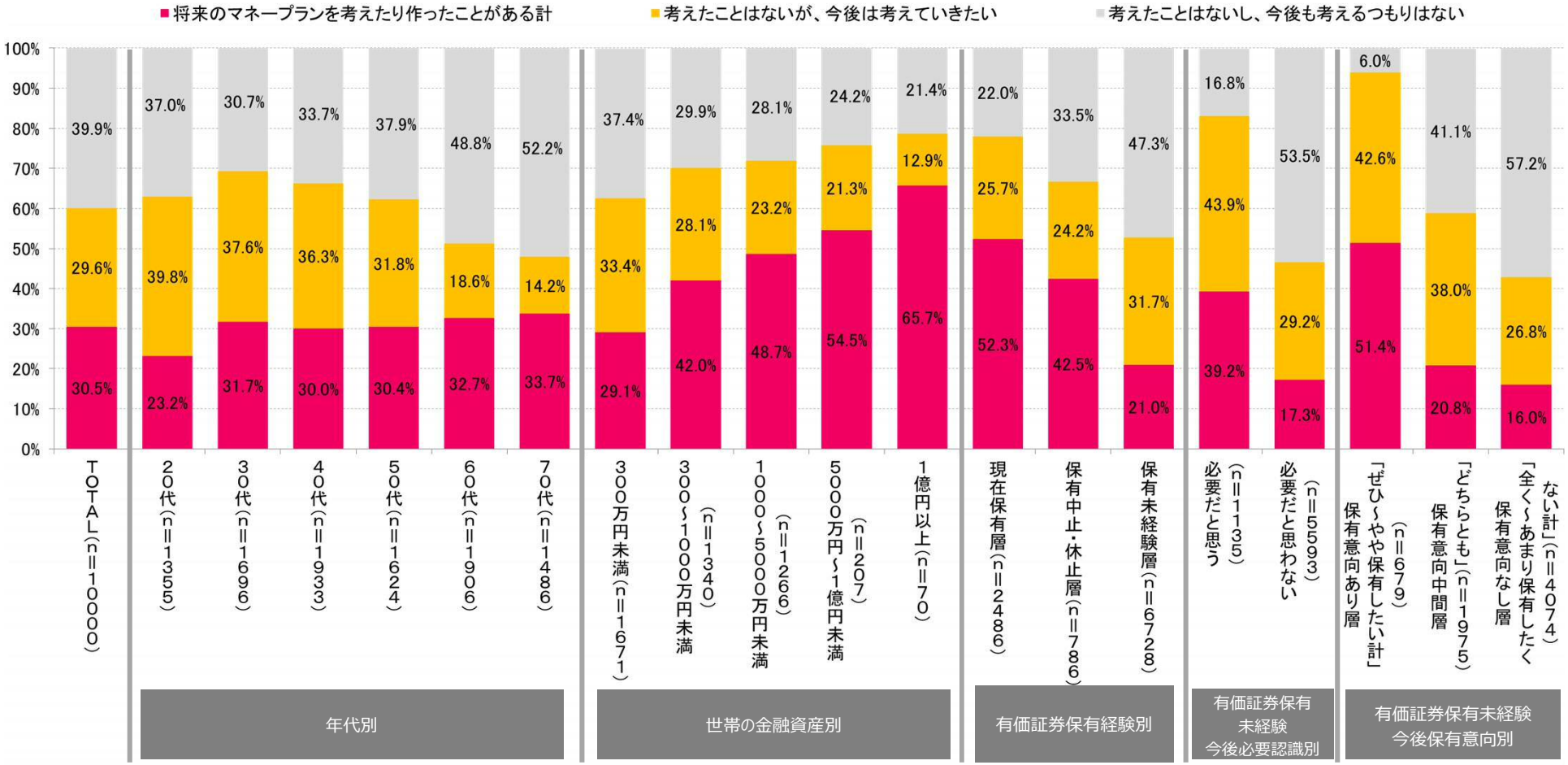
将来のマネープラン作成状況　－属性別－

・マネープラン作成経験率について年代別にみると、20代で2割強、30代以上で3割強となっており、年代に大きな差は見られない。
また有価証券現在保有層では作成経験率は5割にのぼる。

・有価証券保有未経験層のうち、「今後保有が必要」層や「今後の保有意向あり」層では、「今後の作成意向あり」を含めると8～9割にのぼり、マネープランへの関心が高い様子。
また「今後保有意向がない」層でも、4割強が「作成経験または今後作成意向あり」と回答しており、投資の意向がない者の中にも資産形成への関心が高い層がある程度存在する様子がうかがえる。

Q. あなたは、将来のマネープランについて考えたり作ったりしたことはありますか。あてはまるものを一つだけお答えください。〔SA〕

＜将来のマネープラン作成状況＞



Copyright© 2016 INTAGE Inc. All Rights Reserved.

Ⅲ. 調査結果

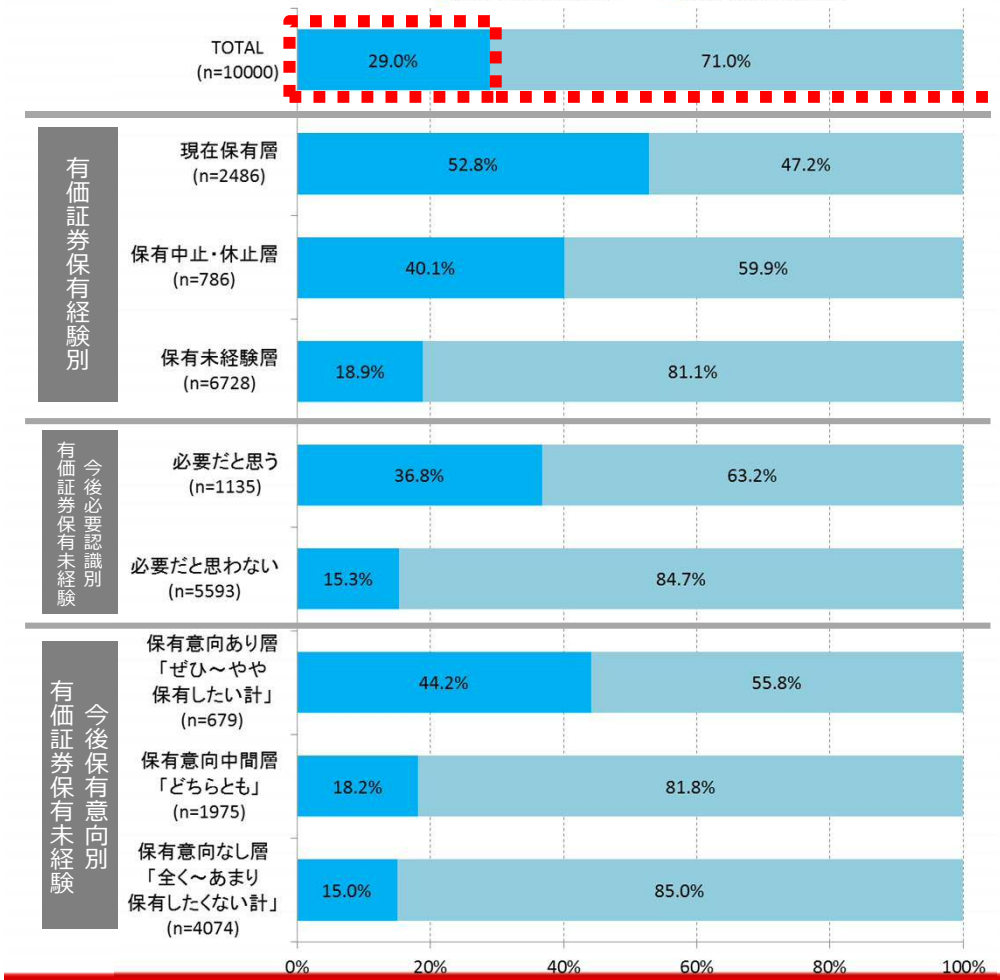
金融・投資教育の経験

・金融・投資教育の経験がある割合は、全体の3割程度。そのチャネルをみると、「ネットを通じて自分で学習」が3割ともっとも高く、次いで「金融機関の担当者からの説明」、「職場」となり、「学校教育」での経験は相対的に低い。

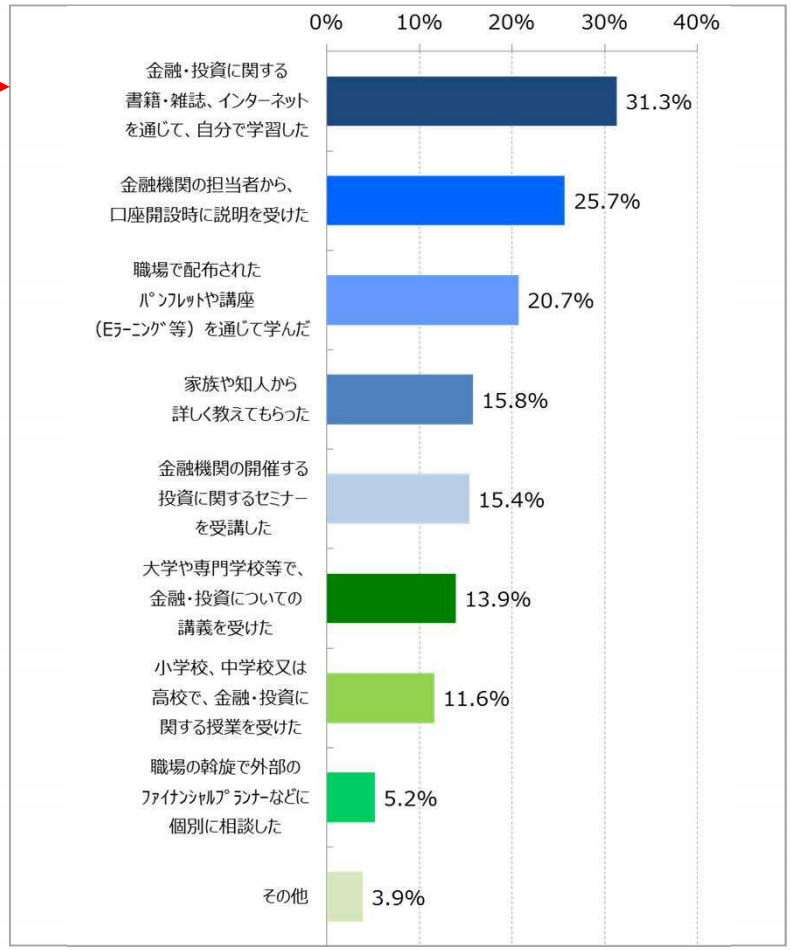
・有価証券保有経験別でみると、現在保有者では過半数が教育経験がある。保有未経験者でも、今後必要とする層や保有意向のある者で4割前後が教育を経験しており、関心の高さがうかがえる。

Q. あなたはこれまでに、学校や職場で金融や投資に関する教育を受けたり、勉強したことがありますか。あてはまるものをすべてお答えください。〔MA 「金融・投資について教育を受けたり勉強したことはない」は排他〕

＜金融・投資教育の経験＞



＜金融・投資教育の経験チャネル＞ n=2898 ※教育経験ありベース



Copyright© 2016 INTAGE Inc. All Rights Reserved.

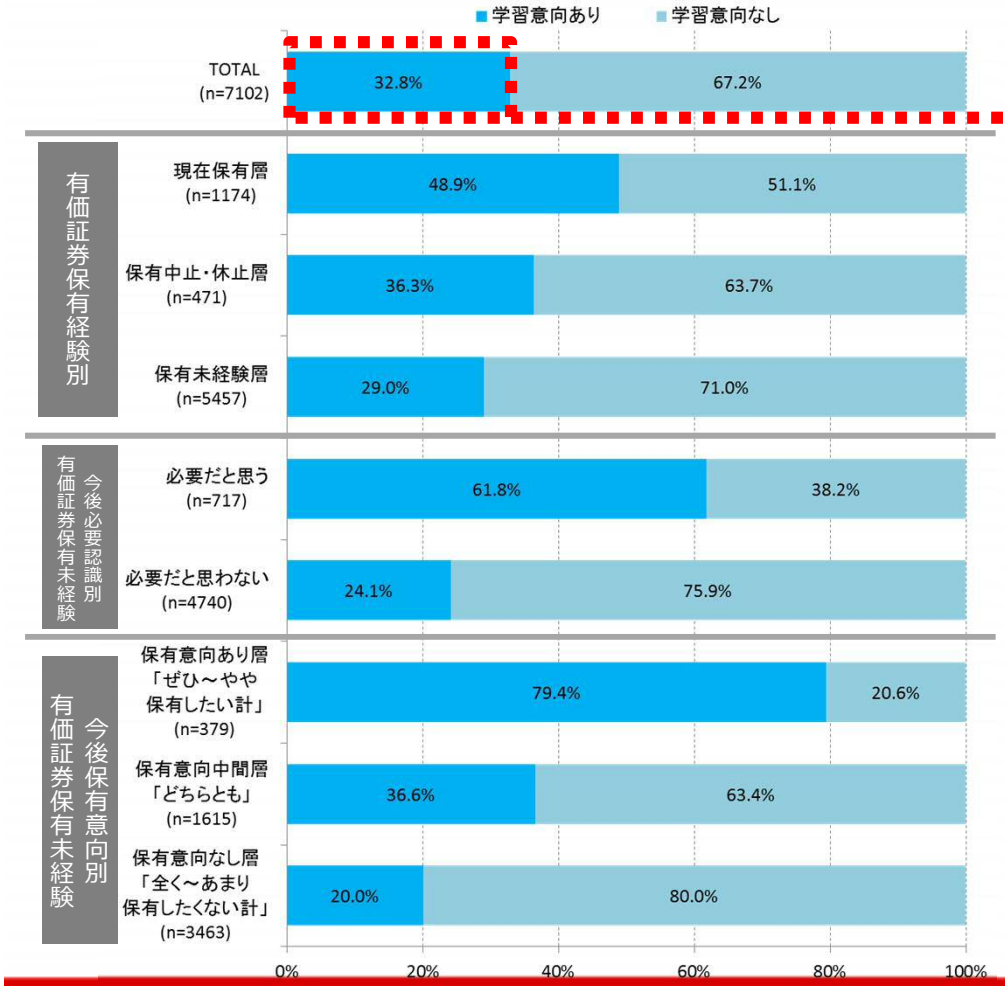
Ⅲ. 調査結果

金融・投資知識学習意向

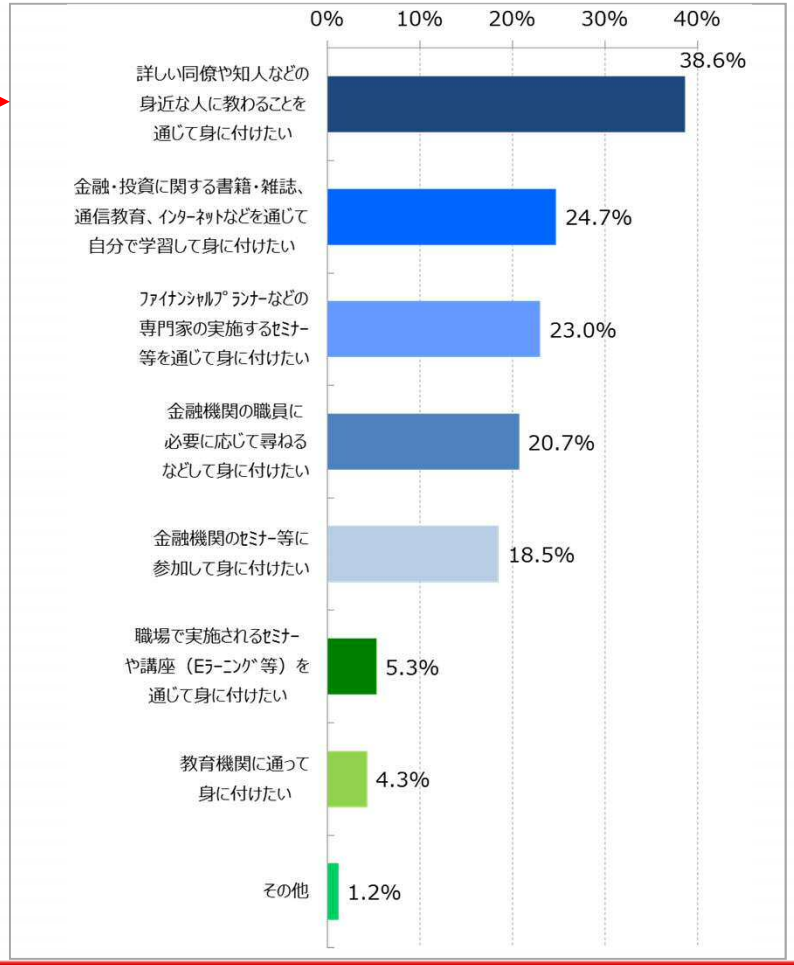
・教育・勉強経験のない者のうち、学習意向があるものは3割強。その学習意向者が希望するチャネルは、「身近な人」「ネットで自分で学習」「FP等の専門家」が上位三項目。
・有価証券現在保有層の約半数が学習意向を示している。また保有未経験層で今後保有が必要と思う層や保有意向のある層の約6～8割が学習意向を示しており、金融・投資知識のニーズは非常に高い。

Q. ＜今までに、金融・投資について教育を受けたり勉強をしたことはない方に＞ 今後、金融や投資に関する知識を身に付けたいと思いますか。また、どのように身に付けたいと思いますか。手段を含めて、あてはまるものをすべてお答えください。〔MA 「金融や投資に関する知識を身に付けたいとは思わない」は排他〕

＜金融・投資知識学習意向＞ ※ 金融・投資教育の経験なしベース



＜金融・投資知識学習意向チャネル＞ n=2330 ※学習意向ありベース



Copyright© 2016 INTAGE Inc. All Rights Reserved.

Ⅲ. 調査結果

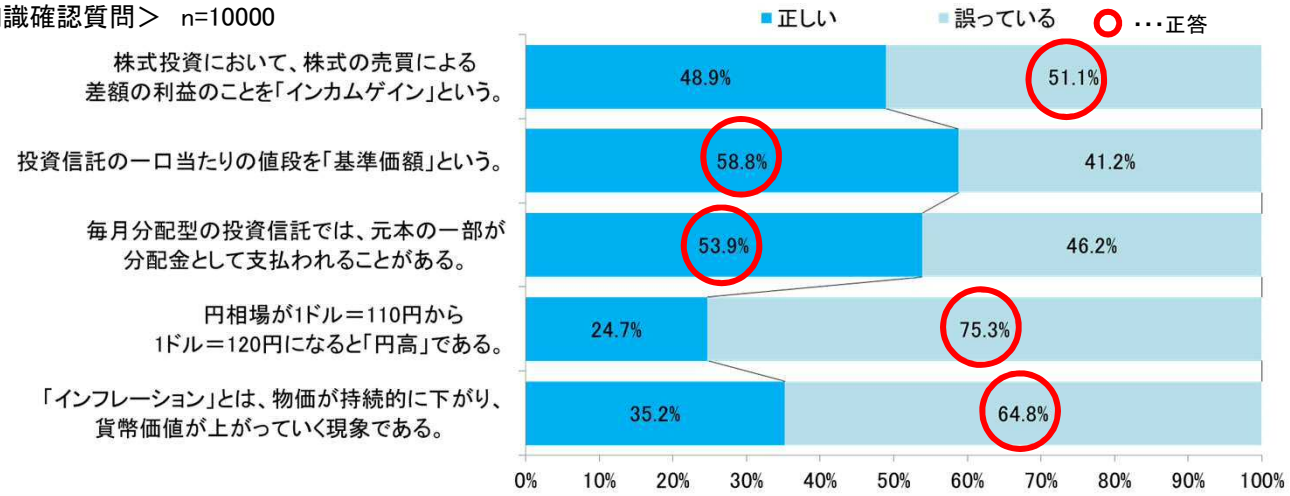
金融・投資知識確認質問

・金融・投資の基礎知識を5問のテスト形式による質問で確認した。たとえば為替相場に対しては、「1ドル＝110円から120円になると円高」と誤答した割合が2割以上に達しており、証券投資では基本的な事象であっても、一般では必ずしも正しく理解されていない様子がうかがえる。

・有価証券の保有状況別に金融リテラシーの程度（5問のテスト形式問題の結果から算出）をみると、現在保有者層、保有中止・休止層、保有未経験層の順にリテラシーが高く、投資行動と金融リテラシーの程度に関係性がみられる。

Q. 投資や金融に関する次の記載について、正しいと思うか、誤っていると思うか、それぞれお聞かせください。〔SA〕

＜金融・投資知識確認質問＞　n=10000



■平均正答問数

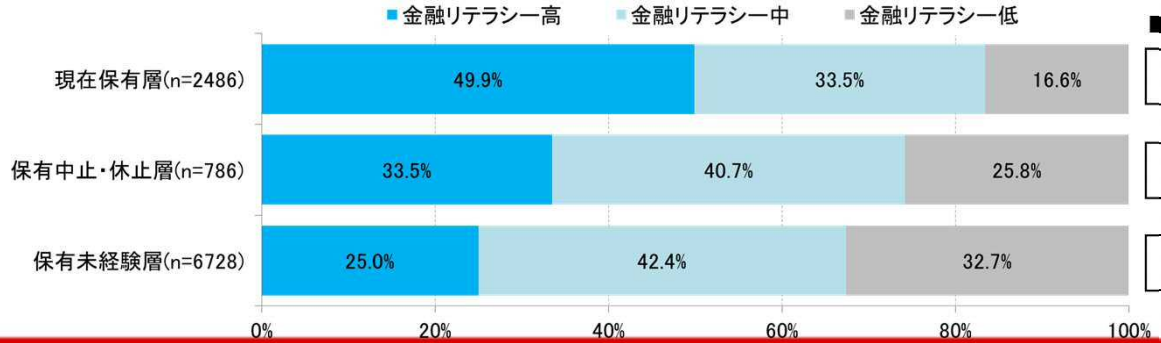
3.0問

■問数別正答率

5問：6.9%
4問：25.0%
3問：40.1%
2問：21.8%
1問：5.9%
0問：0.4%

＜有価証券保有経験有無別の金融リテラシー度＞

※　金融・投資知識確認質問で「4～5問正解」 ＝　金融リテラシー高／「3問正解」 ＝　金融リテラシー中／「0～2問正解」 ＝　金融リテラシー低　と定義した。



■平均正答問数

3.4問

3.1問

2.9問

Copyright© 2016 INTAGE Inc. All Rights Reserved.

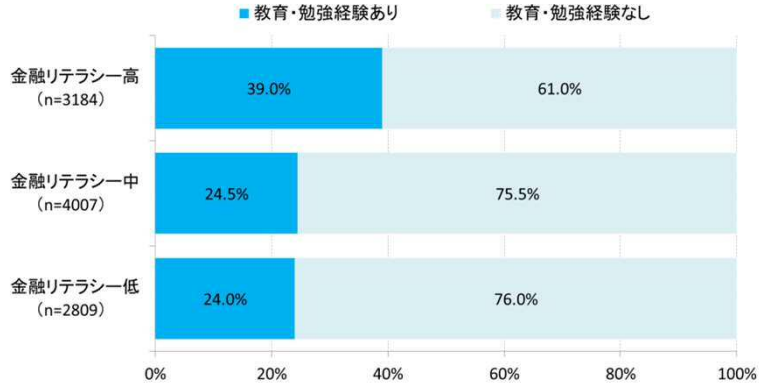
Ⅲ. 調査結果

金融リテラシー別での金融・投資教育の経験／金融・投資知識学習意向

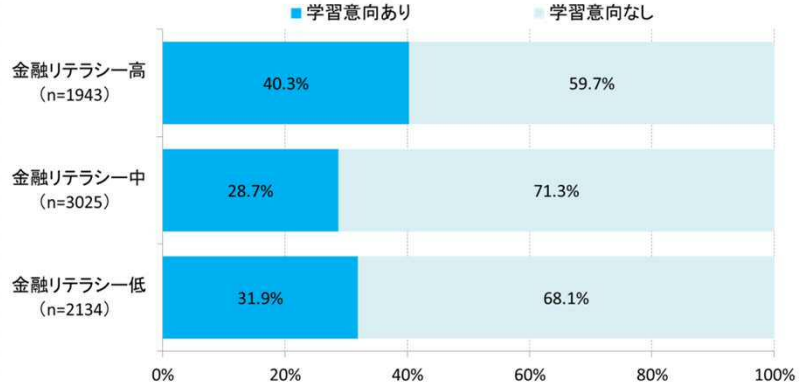
・金融リテラシーが高い層では、「金融・投資の教育経験あり」が約4割、「学習意向あり」も4割と、他層に比べて高い。
・教育・勉強チャネルをみると、金融リテラシーが高い層では「ネットで自己学習」が最も高く、自身で関心を持って知識を身に付けていった様子がうかがえる。

Q. あなたはこれまでに、学校や職場で金融や投資に関する教育を受けたり、勉強したことがありますか。あてはまるものをすべてお答えください。〔MA 「金融・投資について教育を受けたり勉強したことはない」は排他〕
Q. ＜金融・投資について教育・勉強をしたことない方に＞今後、金融や投資に関する知識を身に付けたいと思いますか。また、どのように身に付けたいと思いますか。手段を含めて、あてはまるものをすべてお答えください。〔MA 「金融や投資に関する知識を身に付けたいとは思わない」は排他〕

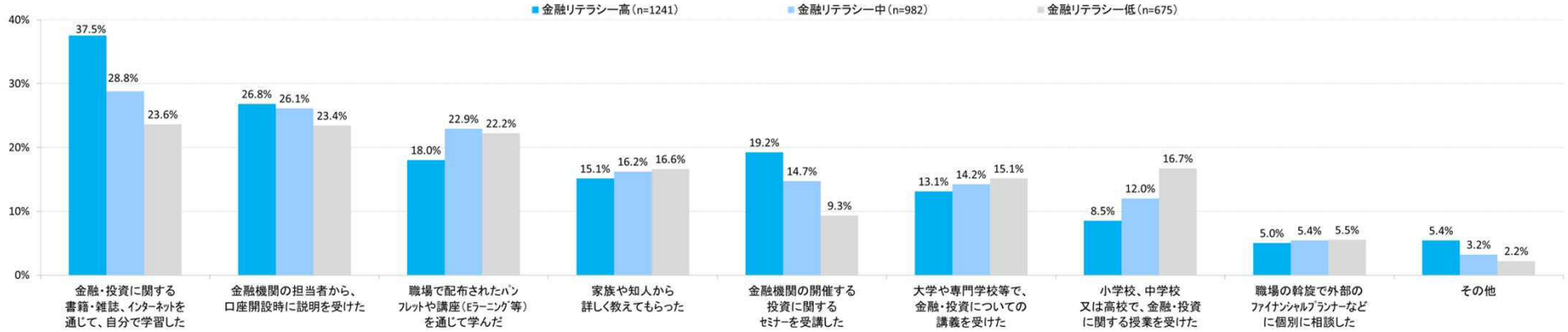
＜金融・投資教育の経験有無＞



＜金融・投資知識学習意向＞



＜金融・投資教育チャネル＞ ※ 「金融・投資教育経験あり」ベース



※ 金融リテラシー高 ・・・ 金融・投資知識確認質問の正答数4～5問 ／ 金融リテラシー中 ・・・ 正答数3問 ／ 金融リテラシー低 ・・・ 正答数0～2問

Copyright© 2016 INTAGE Inc. All Rights Reserved.

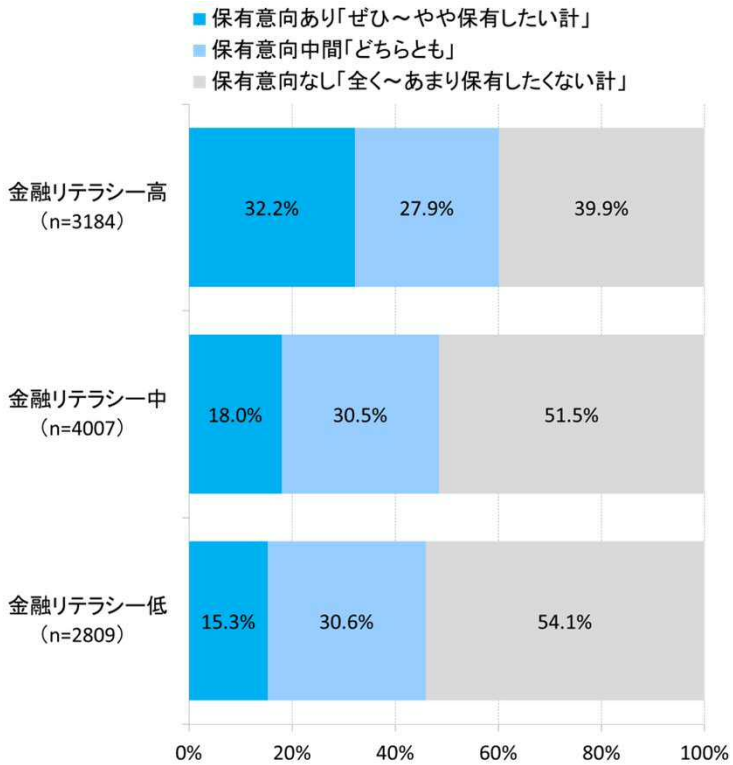
Ⅲ. 調査結果

金融リテラシー別での今後の有価証券保有意向／将来のマネープラン作成状況

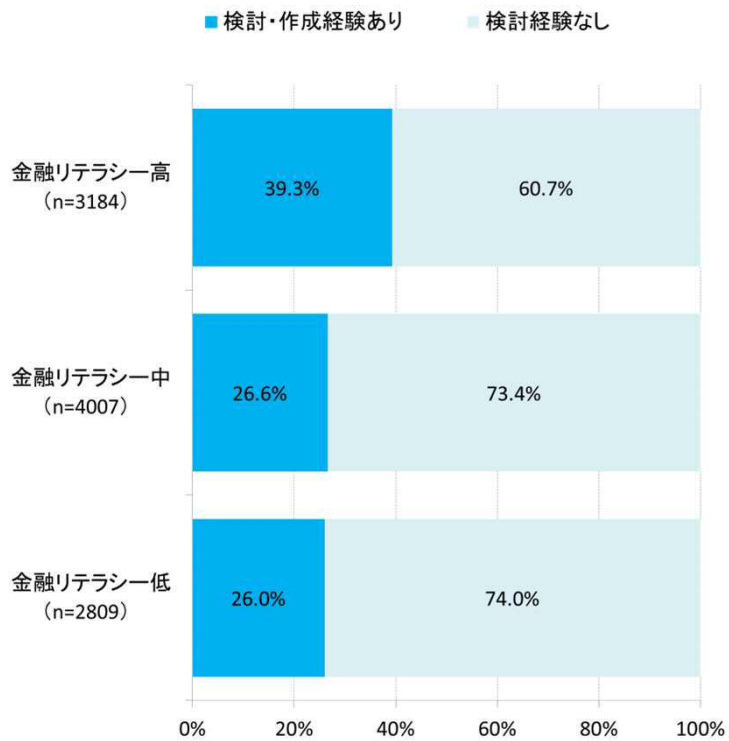
・金融リテラシー別に投資意向をみると、高いリテラシー層では今後の有価証券保有意向が他層に比べ高い。
また将来のマネープラン作成の経験も高く、将来に対する人生設計にも関心が高いものと見られ、投資に対しても積極的に考えている様子。

Q. あなたは今後、有価証券（※）を保有したいと、どの程度思いますか。また、既に保有している方は、どの程度保有し続けたいとお考えですか。あてはまるものを一つだけお答えください。〔SA〕
※ 有価証券・・・株式、国債などの債券、投資信託、REIT、ETFを指します。預貯金や不動産、FX等は含みません。
Q. あなたは、将来のマネープランについて考えたり作ったりしたことはありますか。あてはまるものを一つだけお答えください。〔SA〕

＜今後の有価証券保有意向＞



＜将来のマネープラン作成状況＞



※ 金融リテラシー高 ・・・ 金融・投資知識確認質問の正答数4～5問 ／ 金融リテラシー中 ・・・ 正答数3問 ／ 金融リテラシー低 ・・・ 正答数0～2問

Copyright© 2016 INTAGE Inc. All Rights Reserved.

Ⅲ. 調査結果

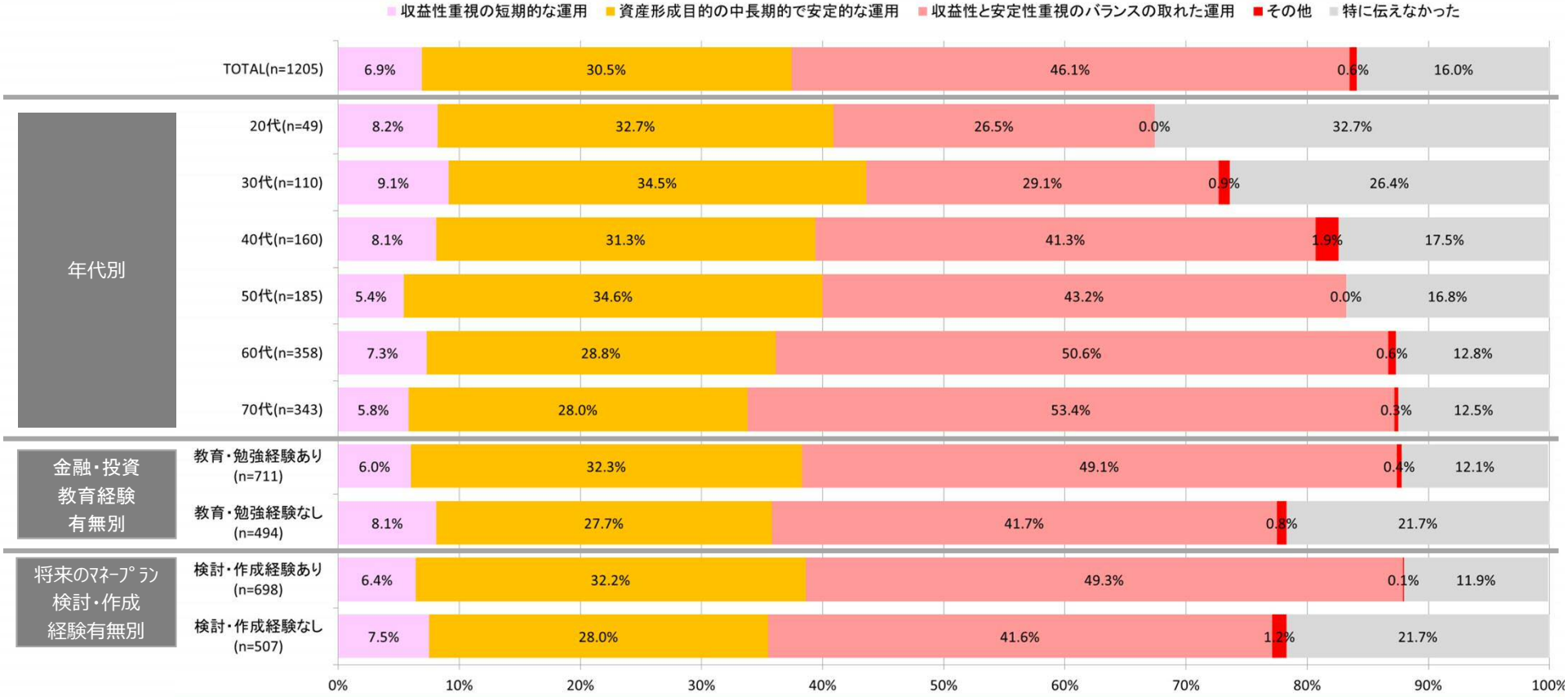
金融機関に伝えた投資信託の目的

・投資信託の目的（運用ニーズ）をみると、全体では「収益性重視の短期運用」は1割以下に留まっており、3割が「資産形成目的の中長期的で安定的運用」、5割弱が「収益性と安定性重視のバランス運用」となった。「特に伝えなかった」も2割弱みられたが、ネット取引による目的非通知が含まれている影響と思われる。

・年代別にみると、30代以下の若年層ではネット取引の利用を背景に「特に伝えなかった」との割合が高いが、各年代ともに「安定的運用」「バランスのとれた運用」が大層を占めている。また金融・投資教育機会のある層や、マネープランの作成経験のある層では、その半数が「バランスの取れた運用」を望んでおり、「収益性重視の短期運用」は平均より低い。

＜現在、投信保有者にのみ＞現在、投資信託を保有している方におうかがいします。
Q. 主に取引を行っている金融機関で投資信託を購入した際に、金融機関の窓口等で、投資の目的をどのように伝えましたか。もっともあてはまるものをお答え下さい。〔SA〕

＜金融機関に伝えた投資信託の目的＞



Copyright© 2016 INTAGE Inc. All Rights Reserved.

Ⅲ. 調査結果

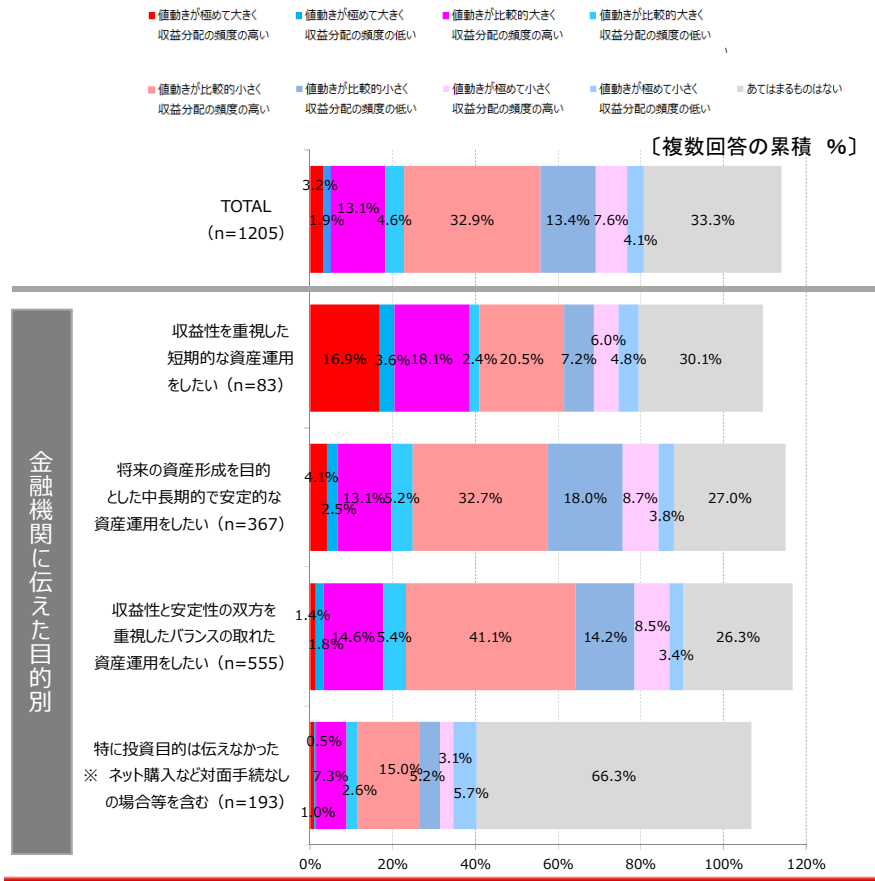
金融機関からの投資信託の商品提案

・投資信託の目的別に金融機関からの商品提案をみると、「収益性重視の短期運用」に対して「値動きが大きい」商品の比率が高い。また「中長期で安定運用」や「収益性と安定性のバランスがとれた運用」に対しては、「値動きが小さい」商品が提案されており、概ね顧客の運用ニーズに沿った商品が提案されている様子。

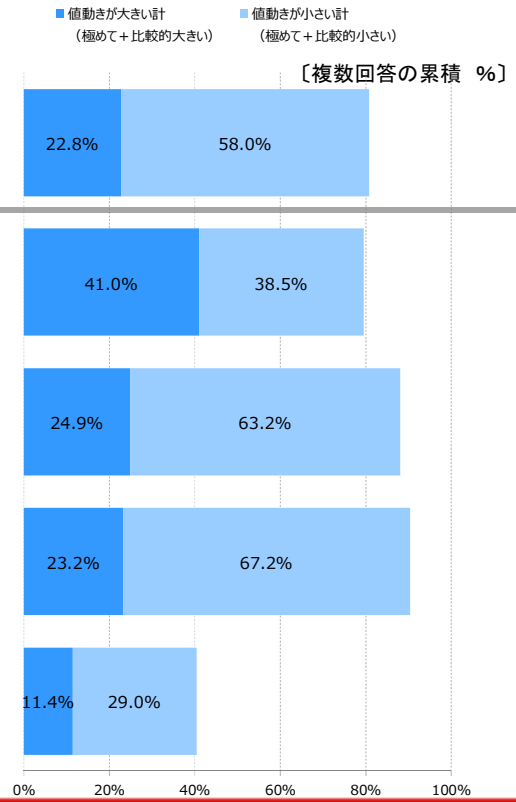
・その一方で収益分配の頻度をみると、どの運用ニーズに対しても、「頻度の高い商品」が提案されている。資産形成を目指した「中長期で安定運用」のニーズに対しても、「頻度の高い商品」が提案されており、顧客ニーズに沿った商品提案が十分になされていない。

＜現在、投信保有者にのみ＞現在、投資信託を保有している方におうかがいします。
Q. 主に取引を行っている金融機関から、投資信託についてどのような提案を受けましたか。あてはまるものをすべてお答え下さい。〔MA 「あてはまるものはない」は排他〕

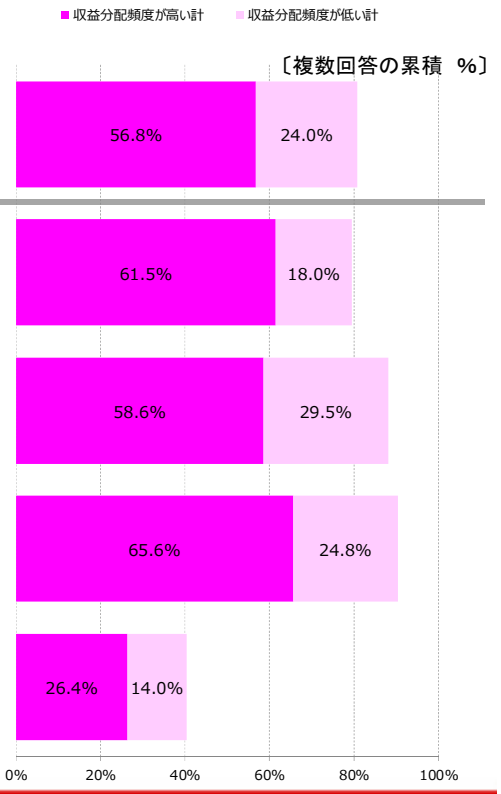
＜投資信託の商品提案　詳細＞



＜投資信託の商品提案　値動き分類＞



＜投資信託の商品提案　分配頻度分類＞



Copyright© 2016 INTAGE Inc. All Rights Reserved.

Ⅲ. 調査結果

今後の有価証券保有意向

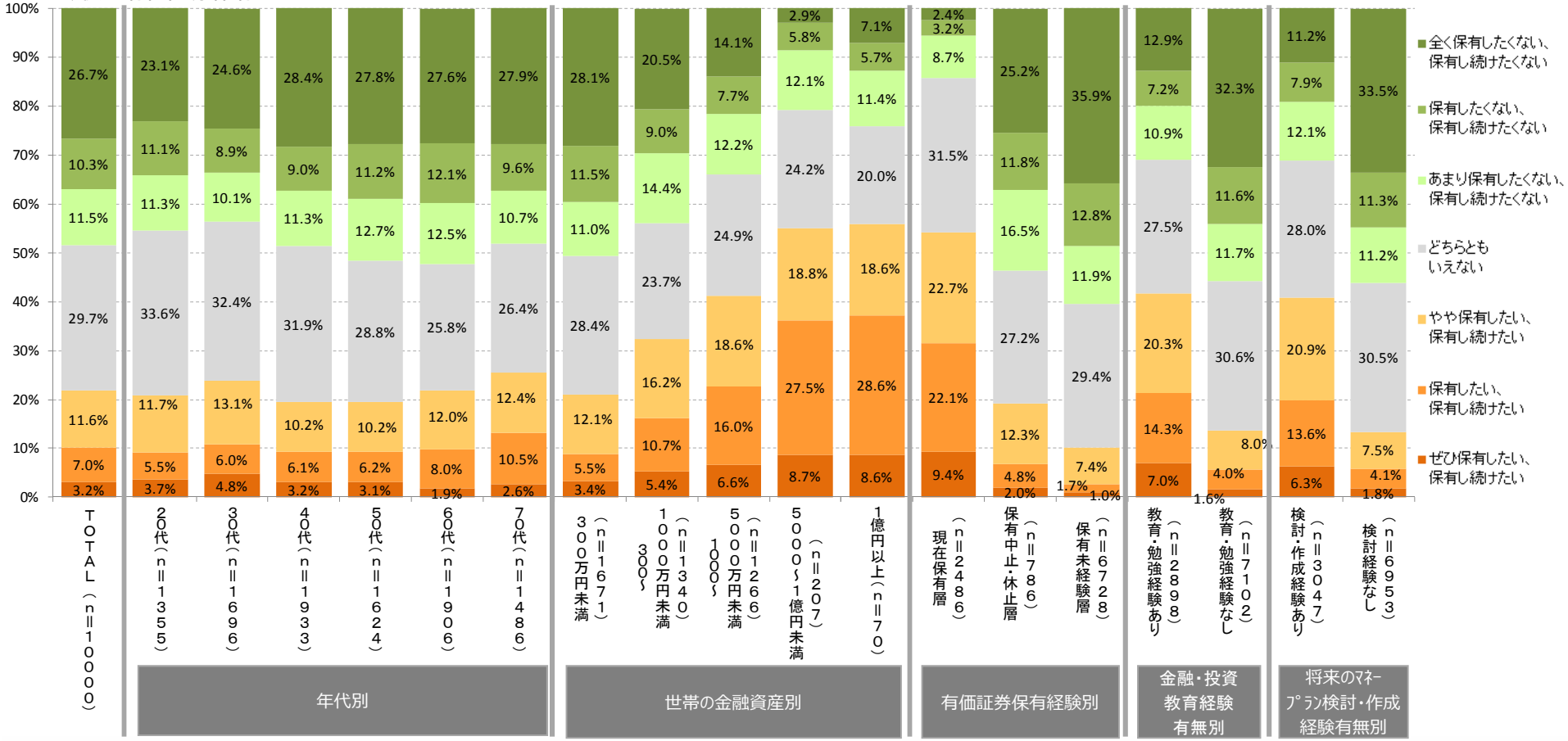
・今後の有価証券の保有意向をみると、全体では「ぜひ～やや保有したい」を合わせて2割程度の保有意向に留まる。現在の有価証券保有割合（P.9参照 25%）よりも低く、保有に対する積極的な姿勢は見られない。

・年代別の保有意向をみると、20・30・40代は現保有割合（P.10参照 8．0%・15．9%・18．7%）よりも高いが、50代以上は現保有割合よりも低く、保有意向が低い。

・金融資産別では300万円以上の世帯で全体よりも保有意向が高くなる。 金融・投資教育経験や、マネープラン作成経験がある層では、保有意向が高い。

Q. あなたは今後、有価証券（※）を保有したいと、どの程度思いますか。また、既に保有している方は、どの程度保有し続けたいとお考えですか。あてはまるものを一つだけお答えください。〔SA〕
※ 有価証券・・・株式、国債などの債券、投資信託、REIT、ETFを指します。預貯金や不動産、FX等は含みません。

＜今後の有価証券保有意向＞



Copyright© 2016 INTAGE Inc. All Rights Reserved.

Ⅲ. 調査結果

「分散・長期投資」説明文呈示での投資関心度変化

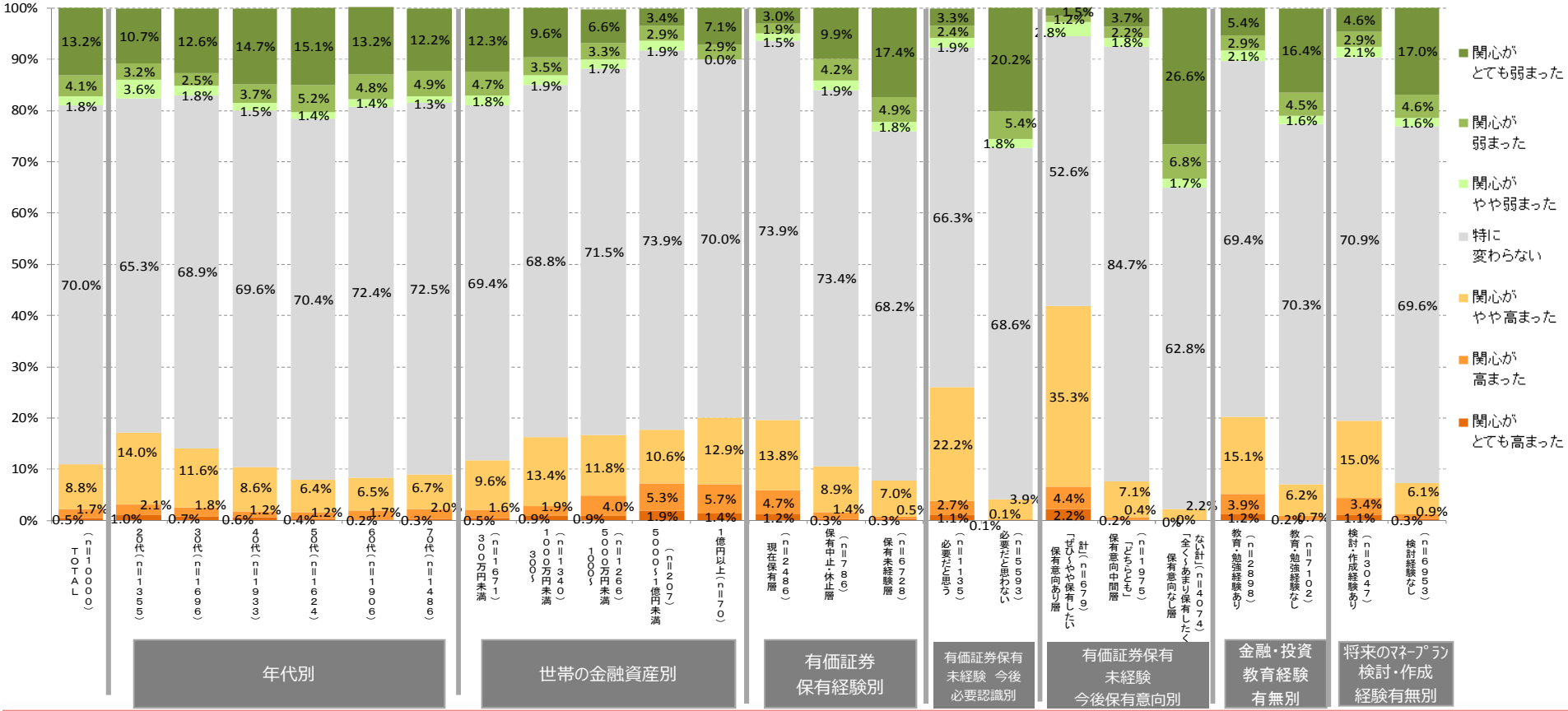
・分散・長期投資の説明文を呈示した上で、投資に対する関心の変化をみると、若年層の1割強で関心の高まりが見られる。有価証券保有未経験層で今後保有の必要性を感じる層や、今後保有意向のある層で、投資への関心が高まる結果となり、分散・長期投資に関する情報提供は有用と思われる。

Q. 以下は、有価証券（※）へ投資する際の、リスクを軽減する方法について説明したものです。

1. 分散投資は、相場下落の影響を小さくします。
投資商品の種類により、運用結果（期待できる利益や発生する可能性のある損失の大小）は様々です。1種類の商品にまとめて投資するのではなく、様々な商品に分散して投資すること（分散投資）で、リスクも分散できます。
2. 長期投資は、相場の変動幅を小さくします（平均化します）。
1年程度の短期間では、投資商品の値段（価値）の上下する幅は大きくなります。一方、10年・20年といった長期間では、値段（価値）の上下する幅は小さくなる傾向にあることが知られています。
3. 定期的な一定金額で投資商品を購入することで、購入コスト（の平均）を小さくすることができます。
投資商品の価格は常に変動しているので、高い時もあれば低い時もあります。定期的に一定の金額で少しずつ購入すれば、商品の価格が高い時は少ない量を、低い時はより多い量を買うことになり、長期的にみると、平均購入単価を低く抑えることができます。

投資にはこのようなリスク軽減の方法があります。あなたは上記の説明を読んで、投資に対する関心がどの程度高まりましたか。あてはまるものを一つだけお答えください。〔SA〕
※　有価証券・・・株式、国債などの債券、投資信託、REIT、ETFを指します。預貯金や不動産、FX等は含みません。

＜「分散・長期投資」説明文呈示での投資関心度変化＞



Copyright© 2016 INTAGE Inc. All Rights Reserved.

Ⅲ. 調査結果

有価証券保有条件（今後有価証券保有意向の無い者ベース）

・今後有価証券の保有意向のない者の保有条件をみると、「どんな条件でも投資したくない」との回答が5割に達している。

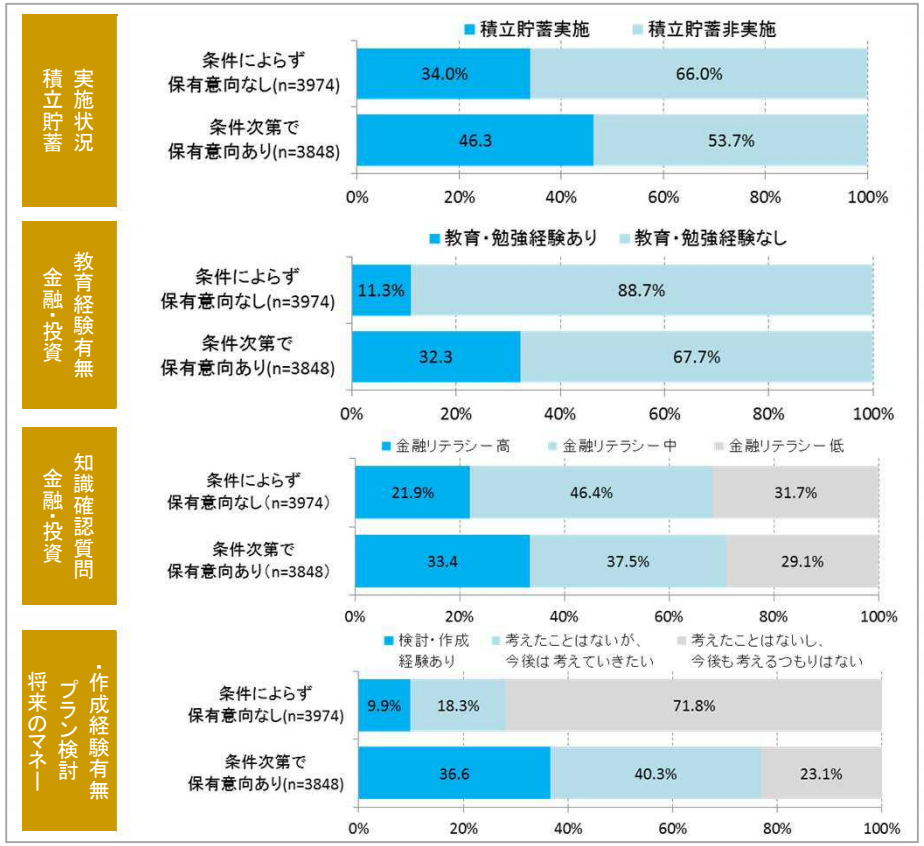
・その「保有意向のない層」は、金融・投資教育経験やマネープラン作成経験が1割程度に留まっており、金融リテラシーも高くはない。

一方で、積立貯蓄の現在実施率が3割を超えており、積立による資産形成をきっかけに投資に関心が広がる可能性が考えられる。

Q. ＜今後、有価証券を「保有したくない、保有し続けたくない」とお答えの方に＞
あなたは、どのような条件が整えば、今後、投資を行って有価証券（※）を保有したいと思いますか。また、既に保有している方は保有し続けたいと思いますか。あてはまるものをすべてお答えください。
〔MA 「どんな条件でも保有したくない、保有し続けたくない」は排他〕　※ 有価証券・・・株式、国債などの債券、投資信託、REIT、ETFを指します。預貯金や不動産、FX等は含みません。

＜有価証券保有条件＞ ※今後の有価証券保有意向の無い者ベース(n=7822)

＜「どんな条件でも保有したくない、保有し続けたくない」（条件によらず保有意向なし）と回答した者の積立貯蓄実施状況／金融・投資教育経験有無／金融リテラシー度／将来のﾏﾈｰﾌﾟﾗﾝ検討・作成経験有無＞



Copyright© 2016 INTAGE Inc. All Rights Reserved.

Ⅲ. 調査結果

有価証券保有中止・休止理由

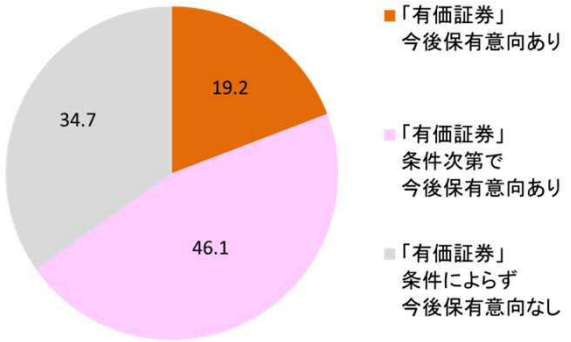
・保有中止・休止層における「今後の有価証券保有意向」をみると、「保有意向あり」が「条件次第」も含めて約6割半となる。
残り3割半は「条件によらず保有意向なし」との反応。

・「条件によらず保有意向なし」層では他層に比べ「債券」「投資信託」の保有経験がやや高く、また保有中止・休止理由として「損失経験」が4割を超え特に高い。
その経験を踏まえれば、損失が大きくならないような低リスク商品への投資、投資資金が多額にならないような少額投資を提案する必要があるものと考えられる。

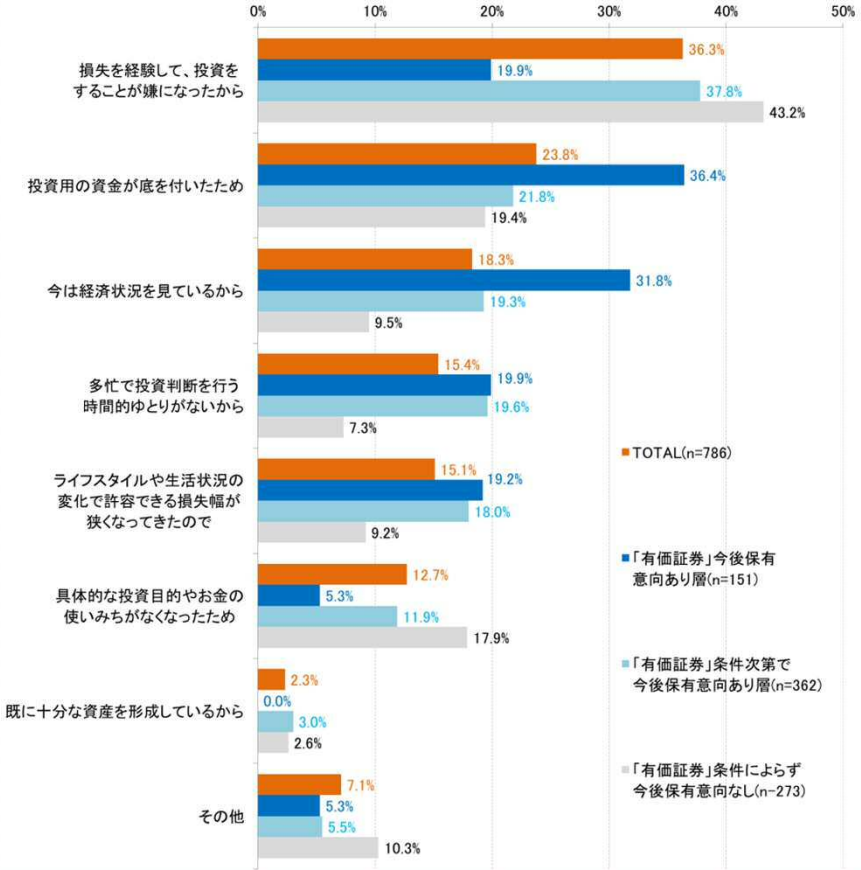
Q. ＜過去に有価証券を保有していたが、現在は保有していないとお答えの方に＞ あなたが現在、有価証券（※）を保有していない理由として、あてはまるものをすべてお答えください。〔MA〕
※ 有価証券・・・株式、国債などの債券、投資信託、REIT、ETFを指します。預貯金や不動産、FX等は含みません。

＜有価証券保有中止・休止層の、今後の有価証券保有意向＞ n=786

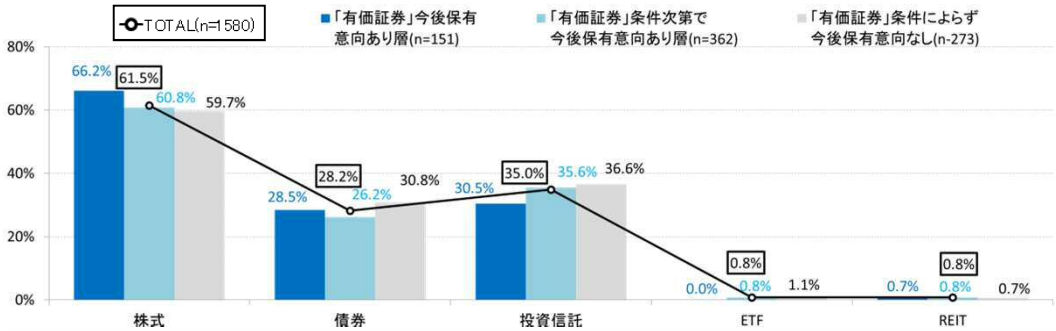
※「今後の有価証券保有意向」と「有価証券保有条件」を組み合わせて作成。
「有価証券」今後保有意向あり ：「今後の有価証券保有意向 = ぜひ～やや保有したい」
「有価証券」条件次第で今後保有意向あり
：「今後の有価証券保有意向 = どちらとも～全く保有したくない」且つ「有価証券保有条件 = どんな条件でも保有したくない」以外の回答者
「有価証券」条件によらず今後保有意向なし
：「今後有価証券保有意向 = どちらとも～全く保有したくない」且つ「有価証券保有条件 = どんな条件でも保有したくない」回答者



＜有価証券保有中止・休止理由＞



＜有価証券保有中止・休止層の、今までの金融資産保有率＞ ※ 有価証券のみ掲載



Copyright© 2016 INTAGE Inc. All Rights Reserved.

Ⅲ. 調査結果

有価証券保有必要性認識（有価証券保有未経験者ベース）

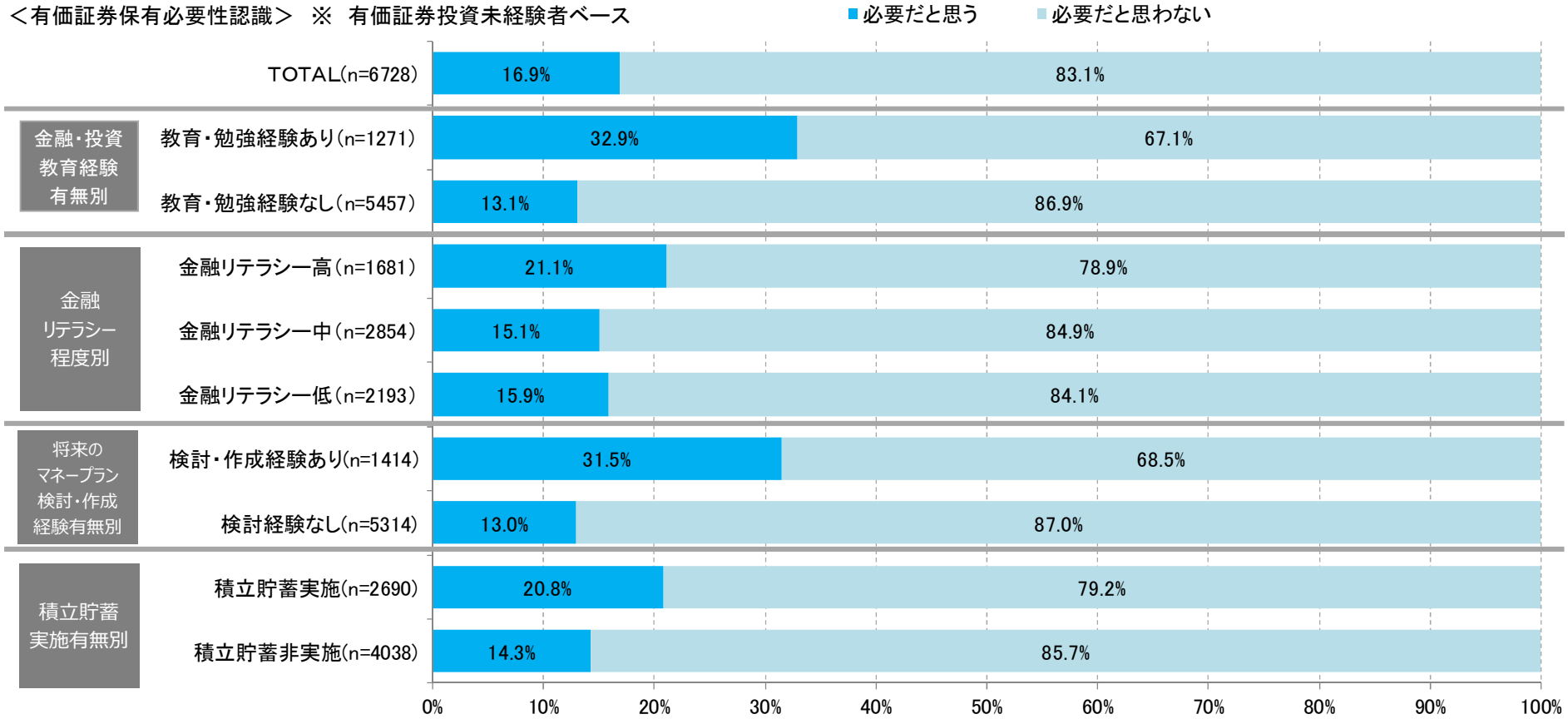
・有価証券保有未経験者のうち、資産形成のために有価証券への投資が必要と考える層は全体の2割弱に留まる。

・金融・投資教育経験やマネープラン作成経験のある層、金融リテラシーが高い層や現在積立貯蓄実施層では、「資産形成のための投資」に対する必要性を感じている割合が高い。

・ただしいずれの層でも、「必要だと思わない」が7～9割弱と多く、投資がなぜ必要なのかが十分に理解されていない様子がうかがわれる。

Q. ＜今までに、有価証券を保有したことがないとお答えの方に＞ あなたは有価証券（※）への投資は、資産形成のために必要だと思いますか。〔SA〕
※ 有価証券・・・株式、国債などの債券、投資信託、REIT、ETFを指します。預貯金や不動産、FX等は含みません。

＜有価証券保有必要性認識＞ ※ 有価証券投資未経験者ベース



※ 金融リテラシー高 ・・・ 金融・投資知識確認質問の正答数4～5問 ／ 金融リテラシー中 ・・・ 正答数3問 ／ 金融リテラシー低 ・・・ 正答数0～2問

Copyright© 2016 INTAGE Inc. All Rights Reserved.

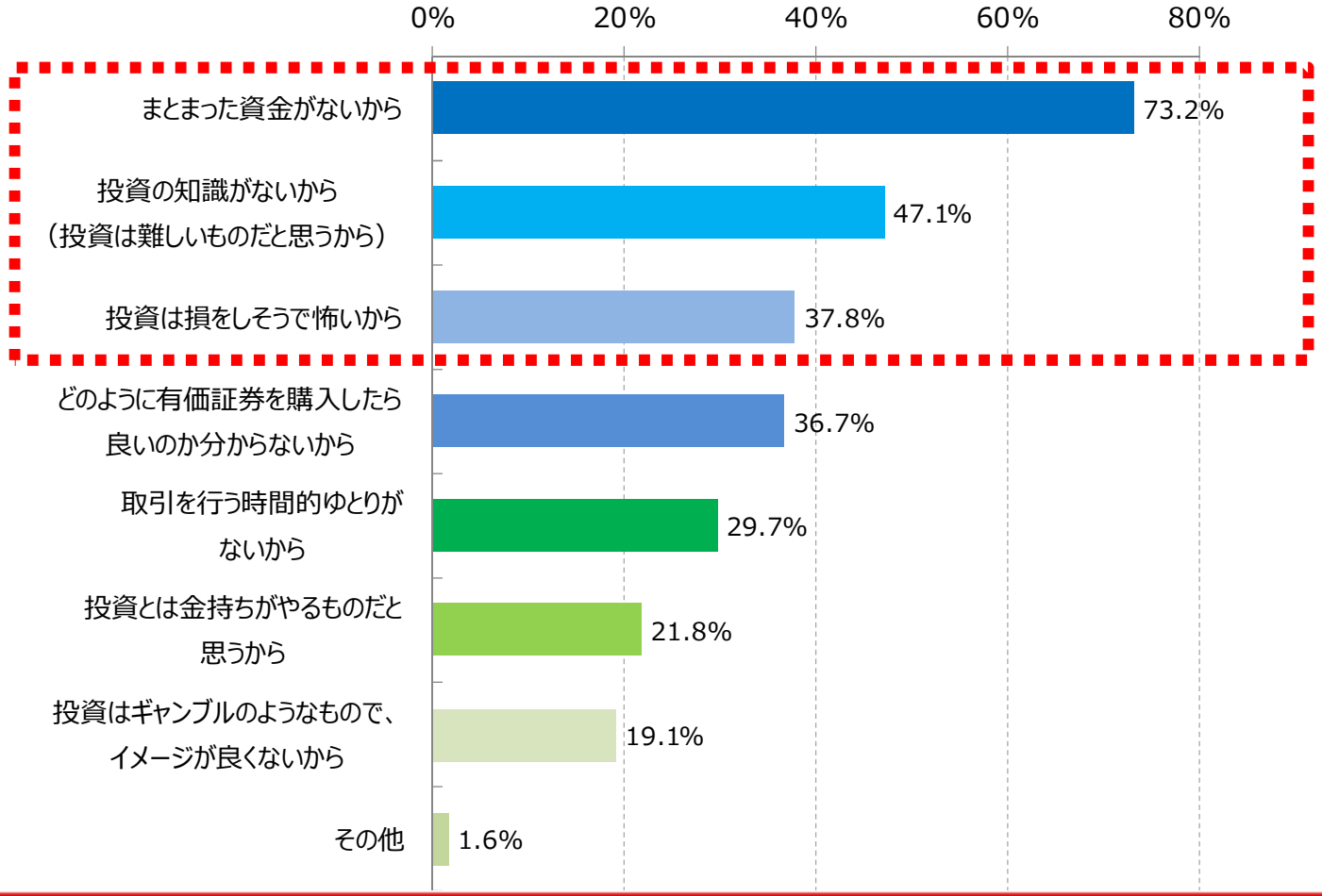
有価証券投資は必要だが、保有経験がない理由（有価証券投資未経験者ベース）

・有価証券保有未経験だが、今後は投資は必要と認識している層が投資していない理由をみると、「まとまった資金がない」が7割と突出しており、「知識がない」が5割弱、「損をしそうで怖い」が4割弱で続く。

「資金面」が、投資行動に至るまでの大きな壁となっている様子がうかがえる。

Q. ＜今までに有価証券を保有したことがないが、今後は投資は必要とお答えの方に＞ 有価証券（※）への投資は資産形成のために必要だと思うのに、実際に有価証券を保有したことがないのは何故ですか。あなたのお気持ちにあてはまるものをすべてお答えください。〔MA〕 ※ 有価証券・・・株式、国債などの債券、投資信託、REIT、ETFを指します。預貯金や不動産、FX等は含みません。

＜有価証券投資は必要だが、保有経験がない理由＞ n=1135



Copyright© 2016 INTAGE Inc. All Rights Reserved.

Ⅲ. 調査結果

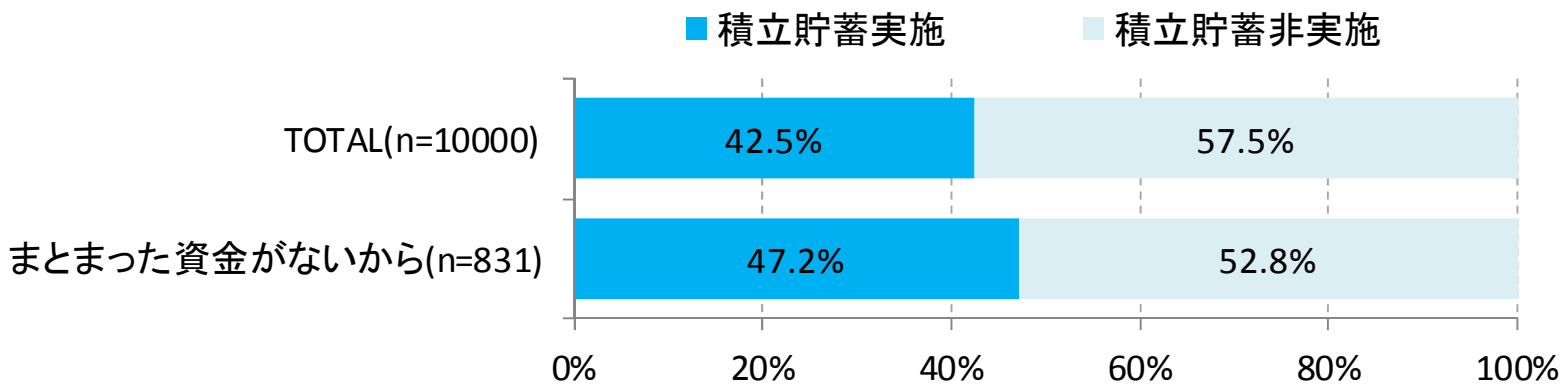
有価証券投資は必要だが、保有経験がない理由で「まとまった資金がないから」と回答した者の特徴

・「まとまった資金がない」と回答した層での現在積立貯蓄実施率は半数近くに及んでおり、全体に比べやや高い。また同層は30代以下の若年層が多くなることを考慮すると、同層には（毎月の給料からなど）少額からの積立投資の利用機会を提供することで、投資に対する「資金面」のハードルを引き下げられる可能性が考えられる。

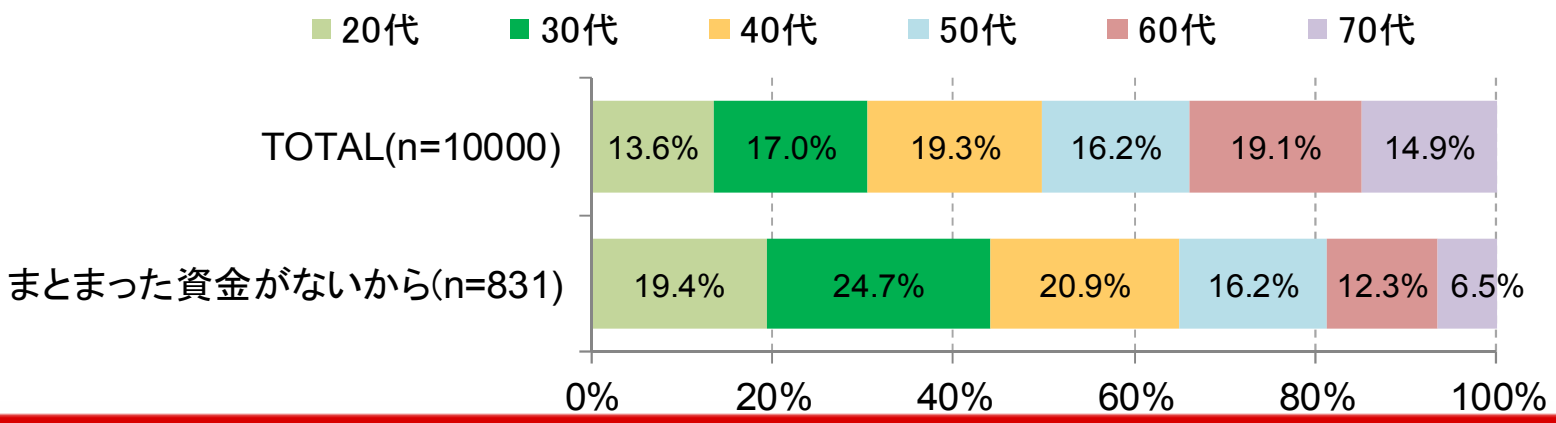
Q. ＜今までに有価証券を保有したことがないが、今後は投資は必要とお答えの方に＞ 有価証券（※）への投資は資産形成のために必要だと思うのに、実際に有価証券を保有したことがないのは何故ですか。あなたのお気持ちにあてはまるものをすべてお答えください。〔MA〕 ※ 有価証券・・・株式、国債などの債券、投資信託、REIT、ETFを指します。預貯金や不動産、FX等は含みません。

＜「まとまった資金がないから」と回答した者の、積立貯蓄実施状況／年代構成＞

積立貯蓄実施状況



年代構成



Copyright© 2016 INTAGE Inc. All Rights Reserved.

Ⅲ. 調査結果

有価証券投資は必要だが、保有経験がない理由で「投資の知識がないから」と回答した者の特徴

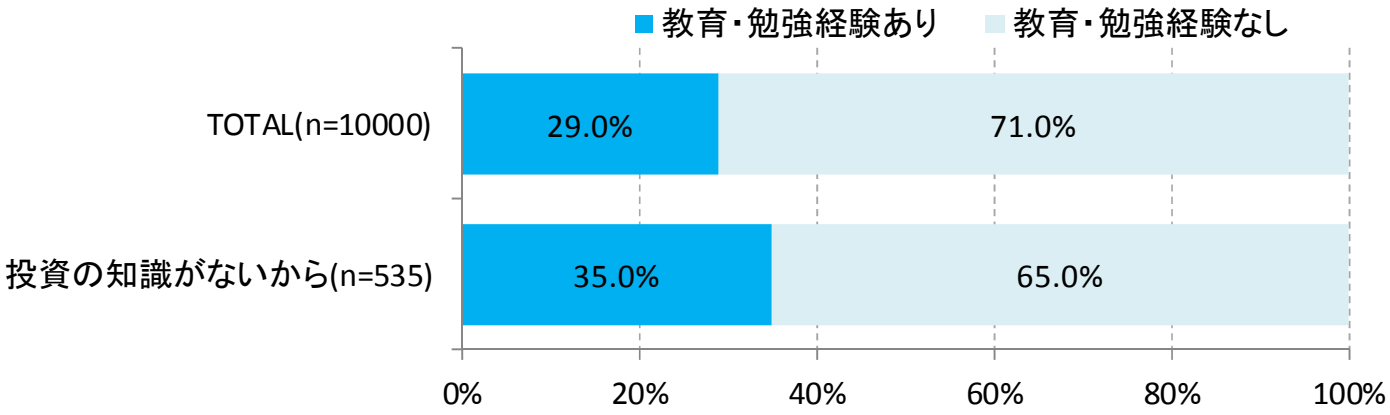
・「知識面」を理由にしている投資未経験者のうち、多くが投資教育の機会がない様子。まずは、基礎的な知識を得ることで、投資の実践にむけて関心を高める必要があると思われる。一方、投資教育機会がある者が35%を占めるが、実践するためには、より具体的な投資商品情報など、投資未経験者向けの商品やサービスが望まれる。

・マネープランの作成経験も同様な傾向がみられる。マネープランの作成とともに、投資の利用に落とし込めるシームレスなサービスが必要と思われる。

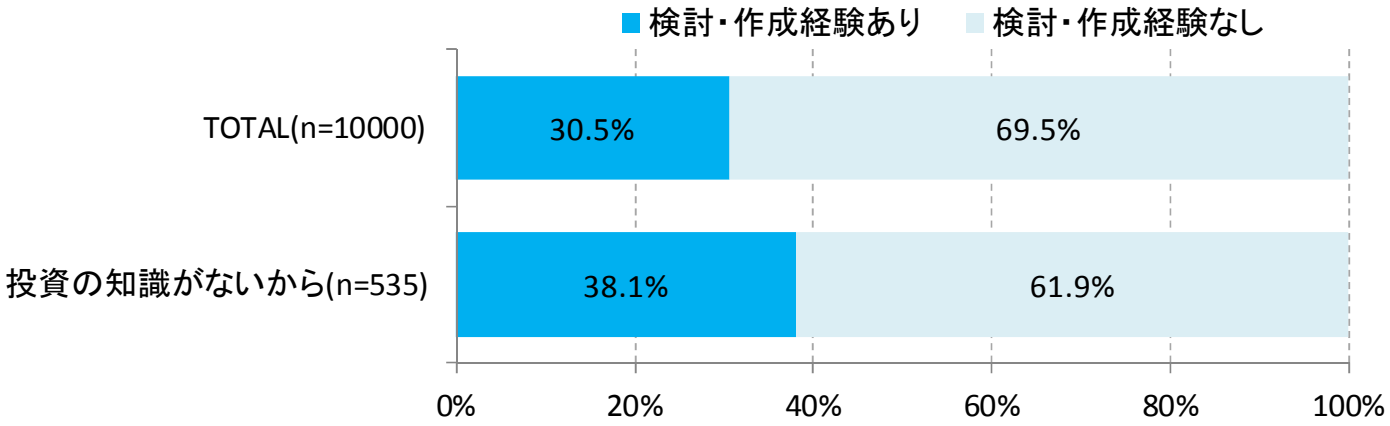
Q. ＜今までに有価証券を保有したことがないが、今後は投資は必要とお答えの方に＞ 有価証券（※）への投資は資産形成のために必要だと思うのに、実際に有価証券を保有したことがないのは何故ですか。あなたのお気持ちにあてはまるものをすべてお答えください。〔MA〕 ※ 有価証券・・・株式、国債などの債券、投資信託、REIT、ETFを指します。預貯金や不動産、FX等は含みません。

＜「投資の知識がないから」と回答した者の、金融・投資教育経験有無／将来のﾏﾈｰﾌﾟﾗﾝ検討・作成経験有無＞

金融・投資教育経験有無



検討・作成経験有無 将来のマネープラン



Copyright© 2016 INTAGE Inc. All Rights Reserved.

Ⅲ. 調査結果

有価証券投資は必要だが、保有経験がない理由で「投資は損をしそうで怖いから」と回答した者の特徴

・「投資は損をしそうで怖いから」を理由にしている層は、「投資信託」や「株式」に対して「お金持ちがやるもの」「リスクが高く危険なもの」であり、「仕組みが複雑で」「高度な知識が必要で専門家」が行うものであり、「一般の人には必要ない」とのイメージを持っている。

・投資に対して、偏ったイメージが形成されており、投資教育などで正しい知識を得ることで、投資に対して関心が高まる余地があるものと思われる。

Q. ＜今までに有価証券を保有したことがないが、今後は投資は必要とお答えの方に＞ 有価証券（※）への投資は資産形成のために必要だと思うのに、実際に有価証券を保有したことがないのは何故ですか。あなたのお気持ちにあてはまるものをすべてお答えください。〔MA〕 ※ 有価証券・・・株式、国債などの債券、投資信託、REIT、ETFを指します。預貯金や不動産、FX等は含みません。

＜「投資は損をしそうで怖いから」と回答した者の、金融商品イメージ／世帯年収＞

		n	資金面		リスク認識		知識		仕組み		必要性		活用法	
			少額からでも資産形成に役立つもの	資金にある程度のゆとりがある人やお金持ちがやるもの	リスクが比較的低く、素人でも十分に活用できるもの	リスクが比較的高く、素人には危険なもの	高度な知識は必ずしも必要なく、素人でも十分に活用できるもの	高度な知識が必要で、専門家向けのもの	商品やサービスの仕組みが複雑で、よく分からないもの	商品やサービスの仕組みがシンプルで、分かりやすい	いわゆる投資家に限らず一般の人にも必要なもの	一般の人には必要のないもの	短期の売買を繰り返して利益を出すことに適しているもの	短期の値動きを気にせず、中長期の資産形成を行うのに適しているもの
投資信託	TOTAL	(10000)	12.0%	35.9%	12.8%	34.0%	13.4%	33.3%	8.6%	38.4%	12.6%	31.2%	9.4%	32.0%
	投資は損をしそうで怖いから	(429)	13.3%	55.2%	12.1%	50.1%	15.6%	52.9%	10.0%	59.4%	20.0%	40.6%	14.0%	45.7%
株式	TOTAL	(10000)	11.4%	42.0%	8.0%	46.9%	11.0%	41.5%	12.9%	35.8%	14.0%	33.4%	24.1%	22.6%
	投資は損をしそうで怖いから	(429)	11.2%	62.7%	6.1%	69.5%	9.6%	65.5%	8.2%	63.4%	23.8%	42.4%	37.1%	31.2%

・・・各TOTALより15%以上高い

Copyright© 2016 INTAGE Inc. All Rights Reserved.

Ⅲ. 調査結果

有価証券投資は必要ない理由（有価証券保有未経験者ベース）

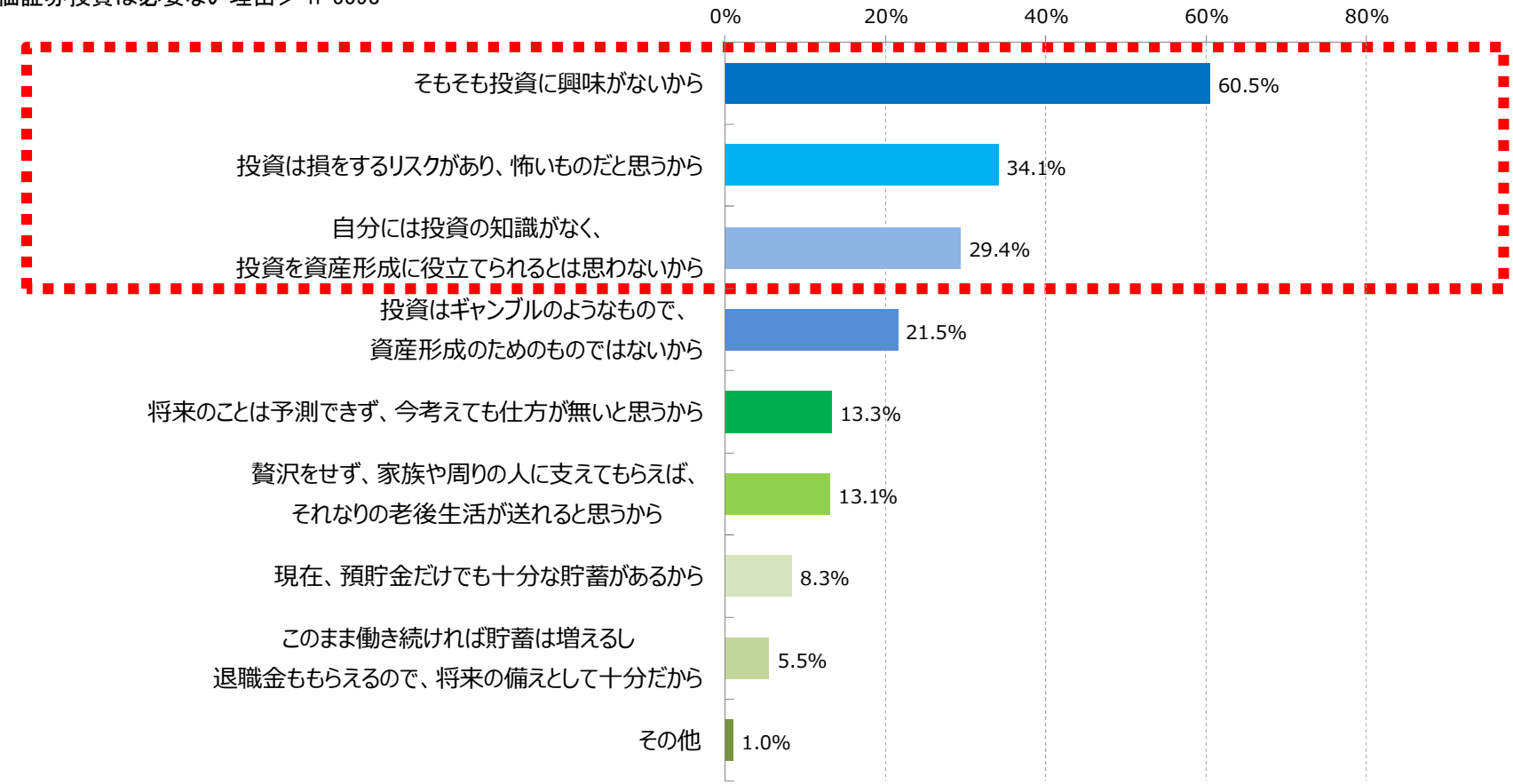
・有価証券保有未経験者で、今後も投資は必要ない層では、必要がない理由として、「そもそも投資に興味がないから」との無関心な姿勢が6割で突出する。

・「リスクがあり、怖いものだと思うから」は、「知識がないから」を上回る結果となっており、損をしそうで怖いイメージが投資必要性の認識そのものを阻害している状況が示されている。

・また、「現在の預貯金だけでも十分な貯蓄がある」「貯蓄・退職金で将来の備えとして十分」は、それぞれ1割以下に留まっており、貯蓄だけでは十分ではないと認識している様子。

Q. ＜今までに有価証券を保有したことがなく、今後も投資は必要ないとお答えの方に＞ 有価証券（※）への投資は資産形成のために必要ないと思うのは何故ですか。あなたのお気持ちにあてはまるものをすべてお答えください。〔MA〕 ※ 有価証券・・・株式、国債などの債券、投資信託、REIT、ETFを指します。預貯金や不動産、FX等は含みません。

＜有価証券投資は必要ない理由＞ n=5593



Copyright© 2016 INTAGE Inc. All Rights Reserved.

Ⅲ. 調査結果

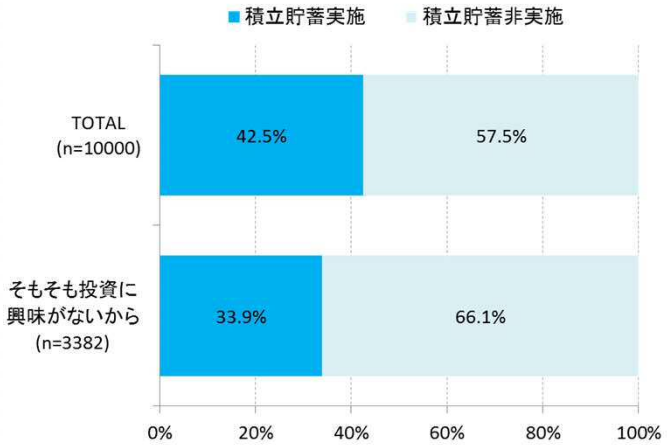
有価証券投資は必要ない理由で「そもそも投資に興味がないから」と回答した者の特徴

・有価証券投資が必要ない理由として「投資への興味のなさ」をあげた層では、「金融・投資教育経験率」や「マネープラン作成経験率」は１割程度と低いものの、積立貯蓄は、３割強が実施している。
将来のマネープラン（ライフプラン）を考える機会の提供や、積立貯蓄の経験が活かせる積立投資の提案などで、まずは「投資への興味・関心」を喚起する必要があると思われる。

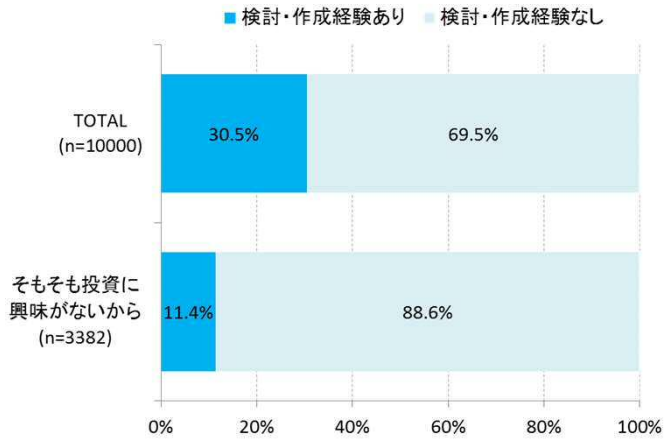
Q. ＜今までに有価証券を保有したことがなく、今後も投資は必要ないとお答えの方に＞ 有価証券（※）への投資は資産形成のために必要ないと思うのは何故ですか。あなたのお気持ちにあてはまるものをすべてお答えください。〔MA〕 ※ 有価証券・・・株式、国債などの債券、投資信託、REIT、ETFを指します。預貯金や不動産、FX等は含みません。

＜「そもそも投資に興味がないから」と回答した者の、貯蓄実施状況／金融・投資教育経験有無／将来のマネープラン作成経験有無／年代構成＞

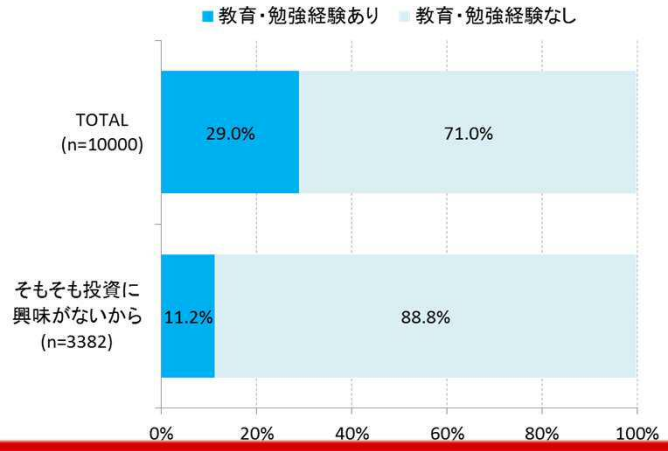
積立貯蓄実施状況



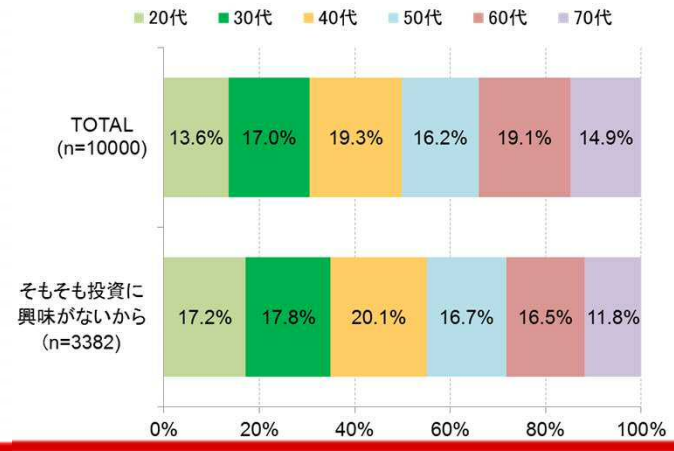
検討・作成経験有無 将来のマネープラン



金融・投資教育経験有無



年代構成



Copyright© 2016 INTAGE Inc. All Rights Reserved.

Ⅲ. 調査結果

有価証券投資は必要ない理由で「投資は損をするリスクがあり、怖いものだと思うから」と回答した者の特徴

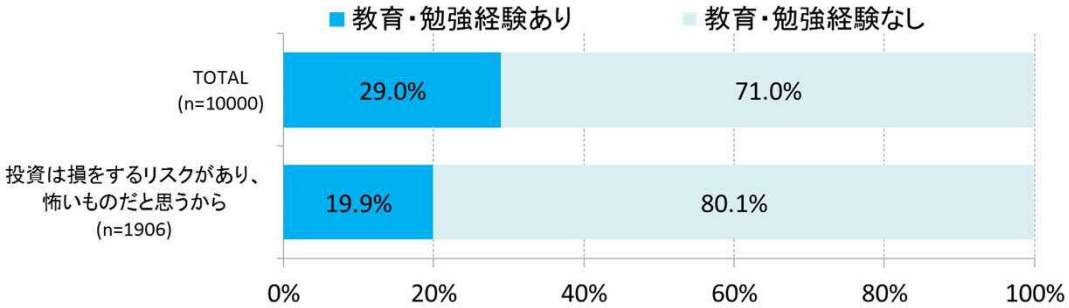
・投資は必要ない理由として、「投資は損するリスクがあり怖いもの」との理由を挙げている層では、金融・投資教育の経験が2割程度に留まっている。

・同層の「投資信託」「株式」に対するイメージでは、「資金面／リスク認識／知識／仕組み／必要性」のいずれの要素でもネガティブなイメージが強いが、その一方で、「中長期の資産形成に役立てるもの」とのイメージが高いことから、長期投資の効果を訴求することで、投資への関心が高まる可能性が考えられる。

Q. ＜今までに有価証券を保有したことがなく、今後も投資は必要ないとお答えの方に＞ 有価証券（※）への投資は資産形成のために必要ないと思うのは何故ですか。あなたのお気持ちにあてはまるものをすべてお答えください。〔MA〕 ※ 有価証券・・・株式、国債などの債券、投資信託、REIT、ETFを指します。預貯金や不動産、FX等は含みません。

＜「投資は損をするリスクがあり、怖いものだと思うから」と回答した者の、金融・投資教育経験有無／金融商品「投資信託」「株式」のイメージ＞

教育経験有無 金融・投資



「株式」のイメージ 金融商品「投資信託」

・・・TOTALより15%以上高い

		n	資金面		リスク認識		知識		仕組み		必要性		活用法		あてはまるものはない
			形成に役立つもの少額からでも資産	お金持ちがやるものゆとりがある人や資金にある程度の	活用できるもの素人でも十分にリスクが比較的低く、	素人には危険なものリスクが比較的高く、	十分に活用できるもの必要なく、素人でも高度な知識は必ずしも	専門家向けのもので、高度な知識が必要で、	分かりやすいシンプルで、仕組みが複雑で、よく分からない商品やサービスの	商品やサービスの	必要なもの限らず一般の人にもいわゆる投資家に	必要のないもの一般の人には	適しているものに資産形成を行うのに短期の売買を繰り返すことに利益を出すことに	適しているものに、中長期のせずに短期の値動きを気に	
投資信託	TOTAL	(10000)	12.0%	35.9%	12.8%	34.0%	13.4%	33.3%	8.6%	38.4%	12.6%	31.2%	9.4%	32.0%	37.6%
投資信託	投資は損をするリスクがあり、怖いものだと思うから	(1906)	4.8%	57.2%	6.4%	55.0%	5.9%	56.0%	3.3%	60.1%	5.8%	52.3%	11.9%	38.8%	22.5%
株式	TOTAL	(10000)	11.4%	42.0%	8.0%	46.9%	11.0%	41.5%	12.9%	35.8%	14.0%	33.4%	24.1%	22.6%	31.8%
株式	投資は損をするリスクがあり、怖いものだと思うから	(1906)	5.6%	63.7%	3.6%	69.5%	5.2%	64.1%	5.4%	60.4%	8.5%	53.0%	28.7%	28.5%	15.9%

Copyright© 2016 INTAGE Inc. All Rights Reserved.

Ⅲ. 調査結果

有価証券投資は必要ない理由で「自分には投資の知識がなく、投資を資産形成に役立てられるとは思わないから」と回答した者の特徴

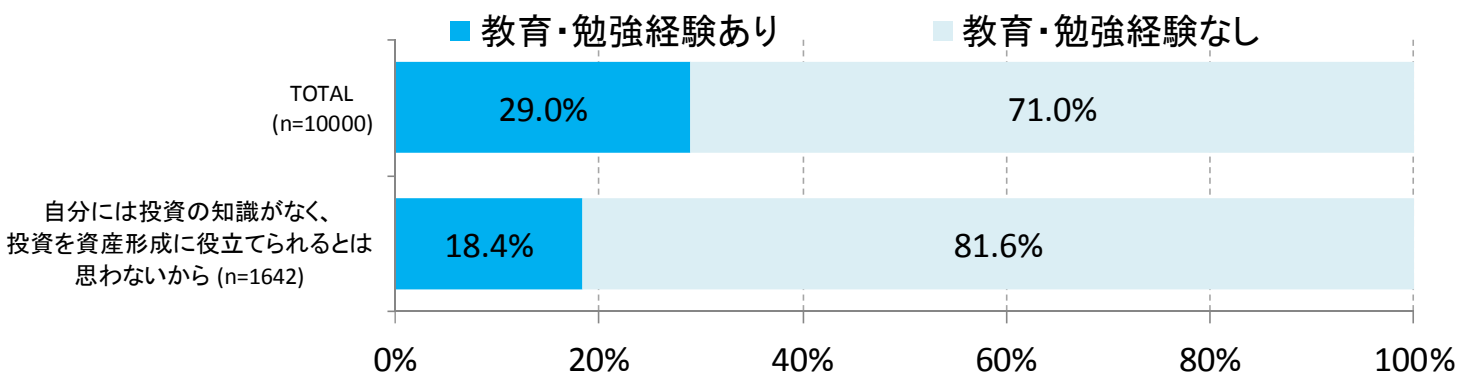
・有価証券への投資が必要ない理由として、「知識不足」と回答している層は、「金融・投資教育経験」は少ないが、マネープランの作成経験は全体と同程度となる。

投資教育とマネープラン作成、そして、投資の実践が一体的に提供されておらず、投資知識が体系的に身についていない可能性が考えられる。

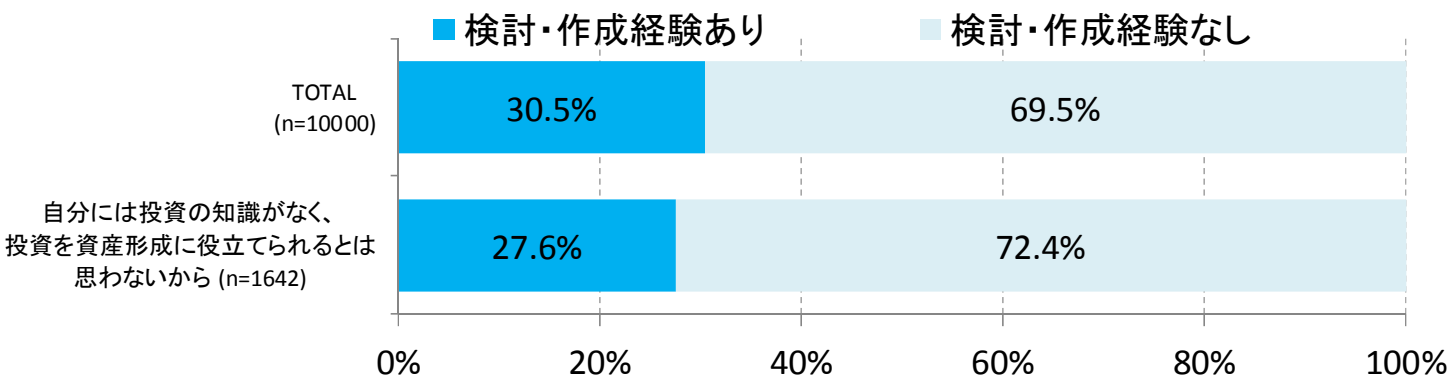
Q. ＜今までに有価証券を保有したことがなく、今後も投資は必要ないとお答えの方に＞ 有価証券（※）への投資は資産形成のために必要ないと思うのは何故ですか。あなたのお気持ちにあてはまるものをすべてお答えください。〔MA〕 ※ 有価証券・・・株式、国債などの債券、投資信託、REIT、ETFを指します。預貯金や不動産、FX等は含みません。

＜「自分には投資の知識がなく、投資を資産形成に役立てられるとは思わないから」と回答した者の、金融・投資教育経験有無／将来のマネープラン検討・作成経験有無＞

金融・投資教育経験有無



検討・作成経験有無 将来のマネープラン



Copyright© 2016 INTAGE Inc. All Rights Reserved.

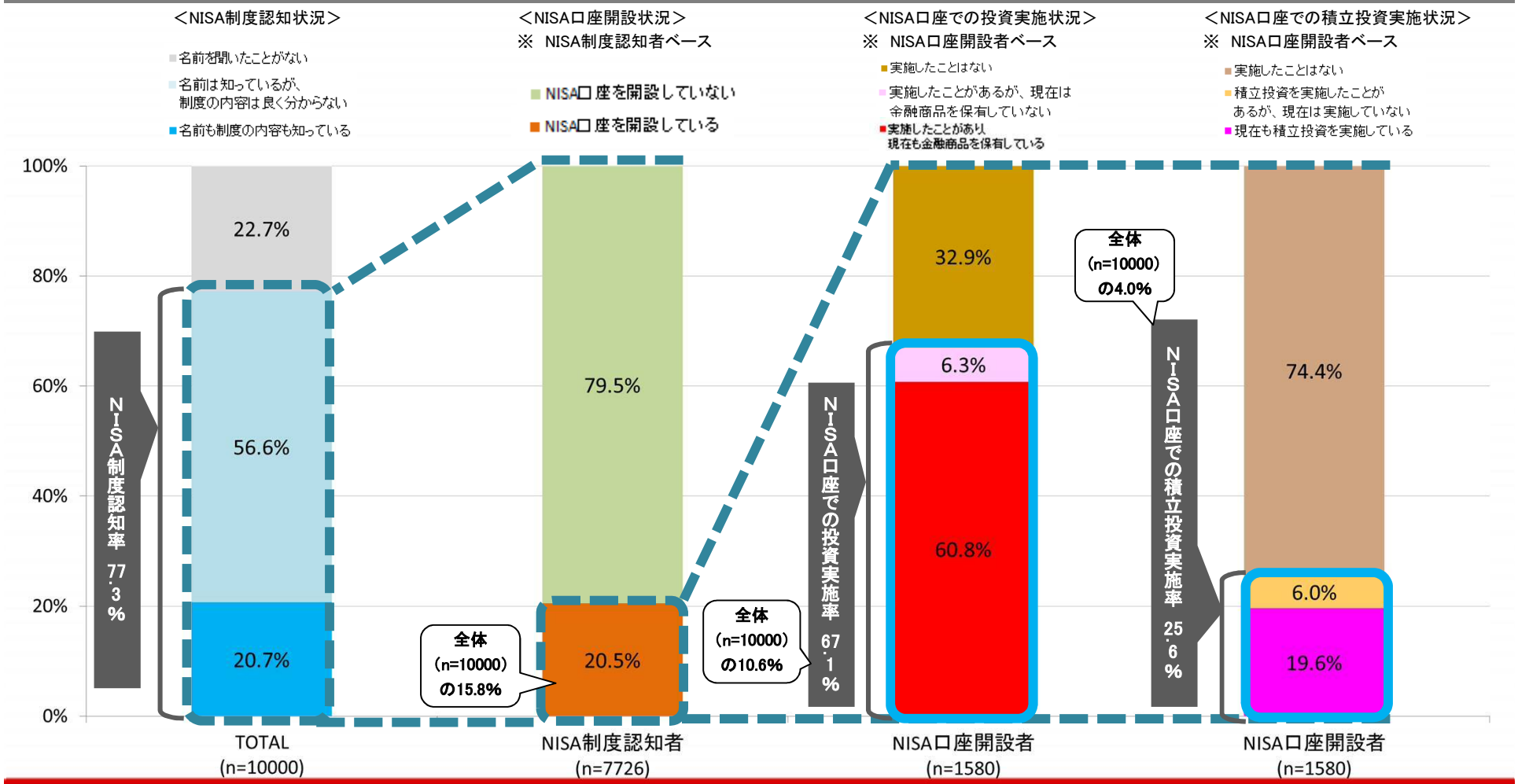
Ⅲ. 調査結果

NISA制度浸透状況

・認知率は8割弱と高いものの、内容認知は2割に留まる。口座開設率は認知者の2割（全体の1割半程度）と、改善余地は大きい。

・口座開設者の現在投資実行率は約6割、積立投資実施率は4人に一人の割合。（※　実際の口座稼働率は5割程度）

Q. あなたはNISA制度を知っていますか。またご存知の方は、NISA口座の開設の有無についても教えてください。〔SA〕
　※　現在、NISAの口座開設を申込み中の方は、「NISA口座を開設している」とお答えください。
Q. あなたはNISA口座を使って一度でも金融商品の購入を行いましたか。また、NISA口座内で積立投資（※）を実施したことがありますか。〔SA〕
　※　積立投資とは、毎月定額で事前に指定した株式や投資信託を自動的に買い付ける金融機関のサービスを指します。



Copyright© 2016 INTAGE Inc. All Rights Reserved.

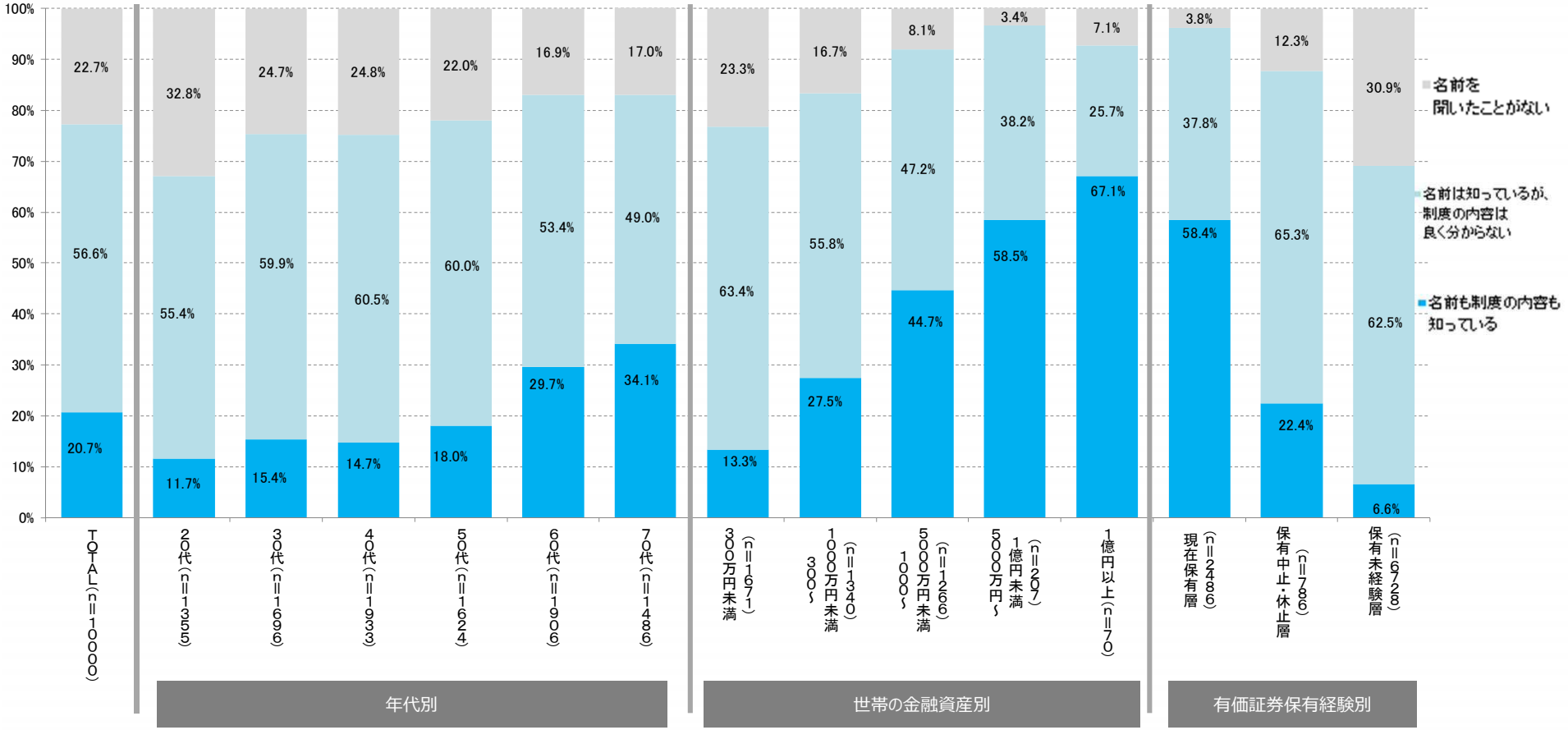
Ⅲ. 調査結果

NISA制度認知状況　－属性別－

・年代別の認知率は、60代以上のシニア層で8割を超えている一方で、20代では7割弱となる。
投資未経験者でも7割程度の認知率となり、全体的に認知そのものは高いものの、「名前だけの認知（制度内容は不明）」が全体で6割弱を占め、
今後のNISA制度の利用促進においては、制度内容の認知率の向上は欠かせないものと思われる。（特に若年層や、有価証券の保有未経験層）

Q. あなたはNISA制度を知っていますか。またご存知の方は、NISA口座の開設の有無についても教えてください。〔MA 「特に理由はない・分からない」は排他〕
※ 現在、NISAの口座開設を申込み中の方は、「NISA口座を開設している」とお答えください。

＜NISA制度認知状況＞



Copyright© 2016 INTAGE Inc. All Rights Reserved.

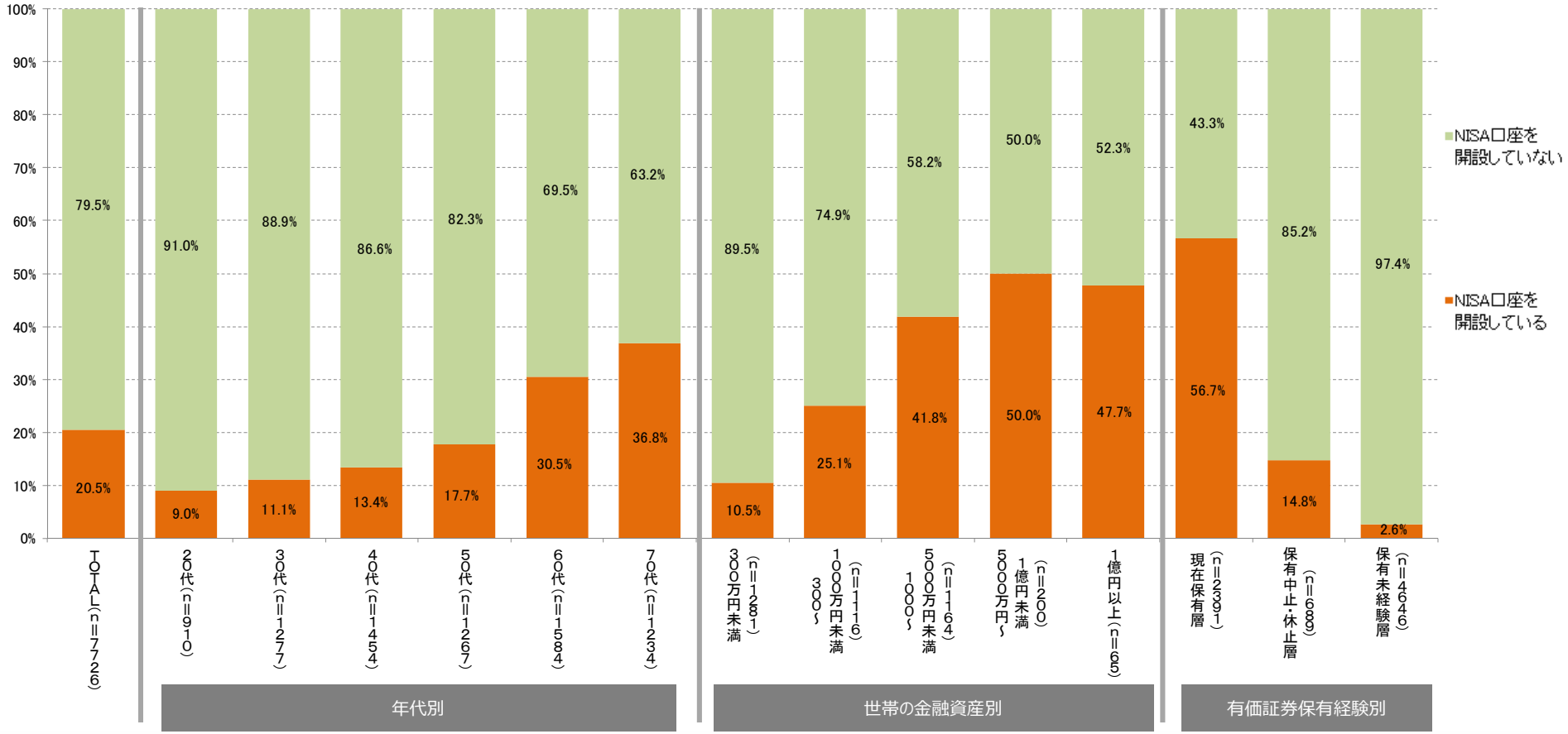
Ⅲ. 調査結果

NISA口座開設状況(NISA制度認知者ベース) －属性別－

・NISA制度認知者を対象に口座開設状況をみると、60代以上のシニア層では3割を超える開設率となっているが、30代以下の若年層では1割程度に留まっており、若年層の口座開設余地は大きい。
また金融資産別では「1000万円未満」の世帯で口座開設率が3割未満、有価証券保有経験別では「保有中止・休止層」「保有未経験層」で口座開設率が2割未満と低く、開設の余地が大きい。

Q. あなたはNISA制度を知っていますか。またご存知の方は、NISA口座の開設の有無についても教えてください。〔SA〕
※ 現在、NISAの口座開設を申込み中の方は、「NISA口座を開設している」とお答えください。

＜NISA口座開設状況＞ ※ NISA制度認知者ベース



Copyright© 2016 INTAGE Inc. All Rights Reserved.

Ⅲ. 調査結果

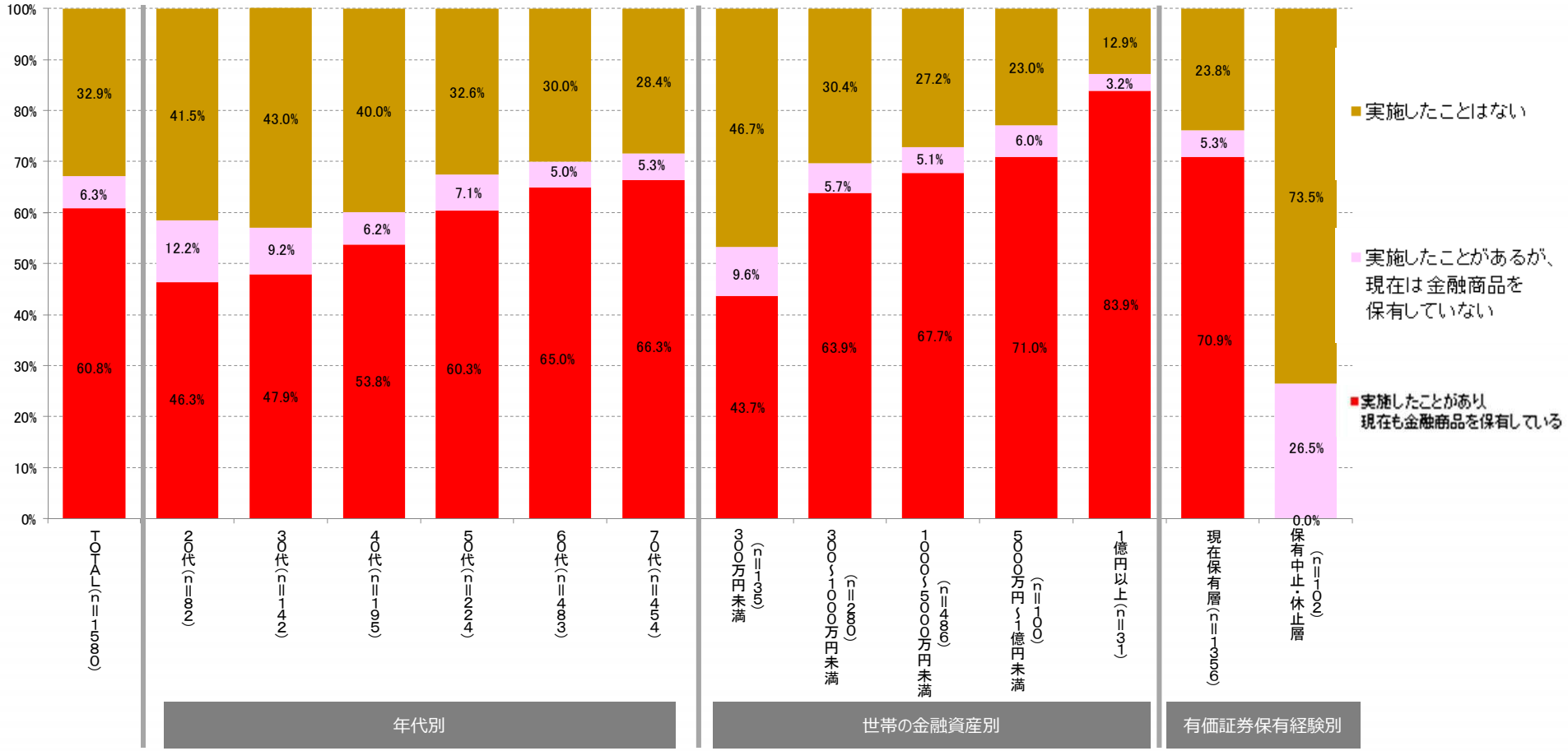
NISA口座での投資実施状況（NISA口座開設者ベース） －属性別－

・年代別でみると、30代以下の若年層では投資実施率が6割程度に留まり、また1割強が既に金融商品をすべて売却して現在NISA口座での保有はなくなっている。若年層に対しては、口座開設だけではなく、NISA口座での投資商品の買い付けや長期保有を促すことが求められる。

・シニア層では、投資実行率も高く、売却率も低く、NISA口座を使いこなす姿勢が見られる。

Q. あなたはNISA口座を使って一度でも金融商品の購入を行いましたか。また、NISA口座内で積立投資（※）を実施したことがありますか。〔SA〕
※ 積立投資とは、毎月定額で事前に指定した株式や投資信託を自動的に買い付ける金融機関のサービスを指します。

＜NISA口座での投資状況＞ ※ NISA口座開設者ベース



Copyright© 2016 INTAGE Inc. All Rights Reserved.

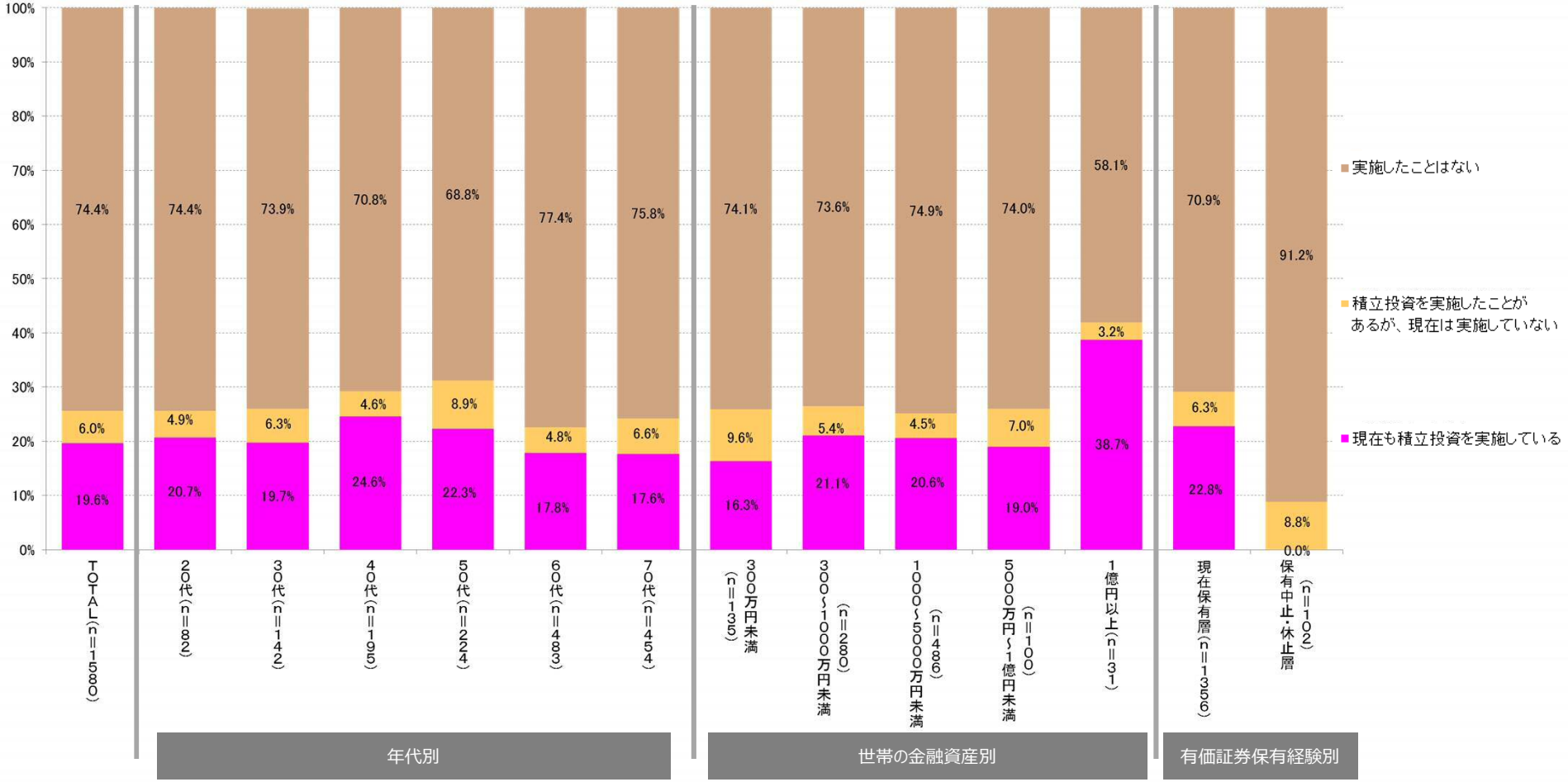
Ⅲ. 調査結果

NISA口座での積立投資実施状況（NISA口座開設者ベース） －属性別－

・いずれの年代も7～8割弱がNISA口座での積立投資実施経験がなく、資産形成の為の積立投資実施を促す余地は大きい。

Q. あなたはNISA口座を使って一度でも金融商品の購入を行いましたか。また、NISA口座内で積立投資（※）を実施したことがありますか。〔SA〕
※ 積立投資とは、毎月定額で事前に指定した株式や投資信託を自動的に買い付ける金融機関のサービスを指します。

＜NISA口座での積立投資状況＞ ※ NISA口座開設者ベース



Copyright© 2016 INTAGE Inc. All Rights Reserved.

Ⅲ. 調査結果

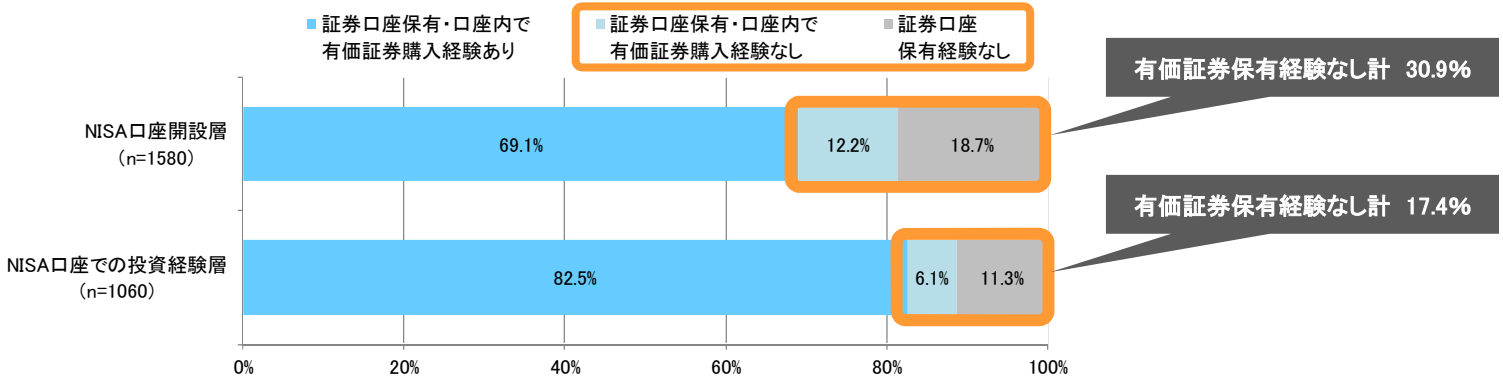
NISA口座開設前の投資経験

・口座開設者のうち、投資経験がない割合は3割を占める。NISA制度を介して投資のきっかけとなっており、投資家のすそ野拡大に寄与している模様。

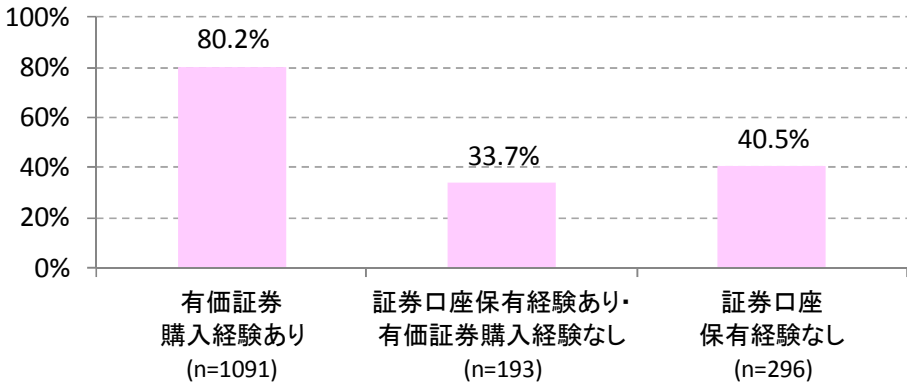
・NISA口座での投資や積立投資の実施状況では、NISA口座開設前の投資経験者と投資未経験者で実施率に大きな開きがあり、投資未経験者には、口座開設だけでなく投資実行も促すことが求められる。

Q. ＜NISA口座開設者に＞あなたはNISA口座の開設以前に、証券口座（一般口座・特定口座等）を保有していたことがありますか。あてはまるものを教えてください。〔SA〕

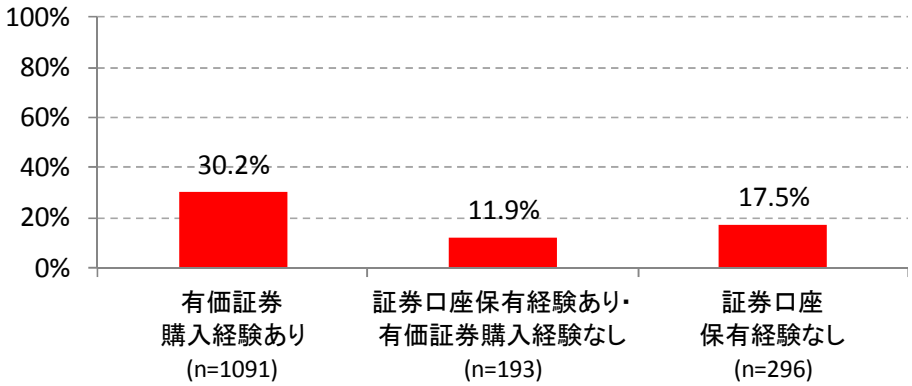
＜NISA口座開設者の、NISA口座開設前投資経験＞



＜NISA口座開設前投資経験別の、NISA口座での金融商品購入実施率＞



＜NISA口座開設前投資経験別の、NISA口座での積立投資実施率＞



Copyright© 2016 INTAGE Inc. All Rights Reserved.

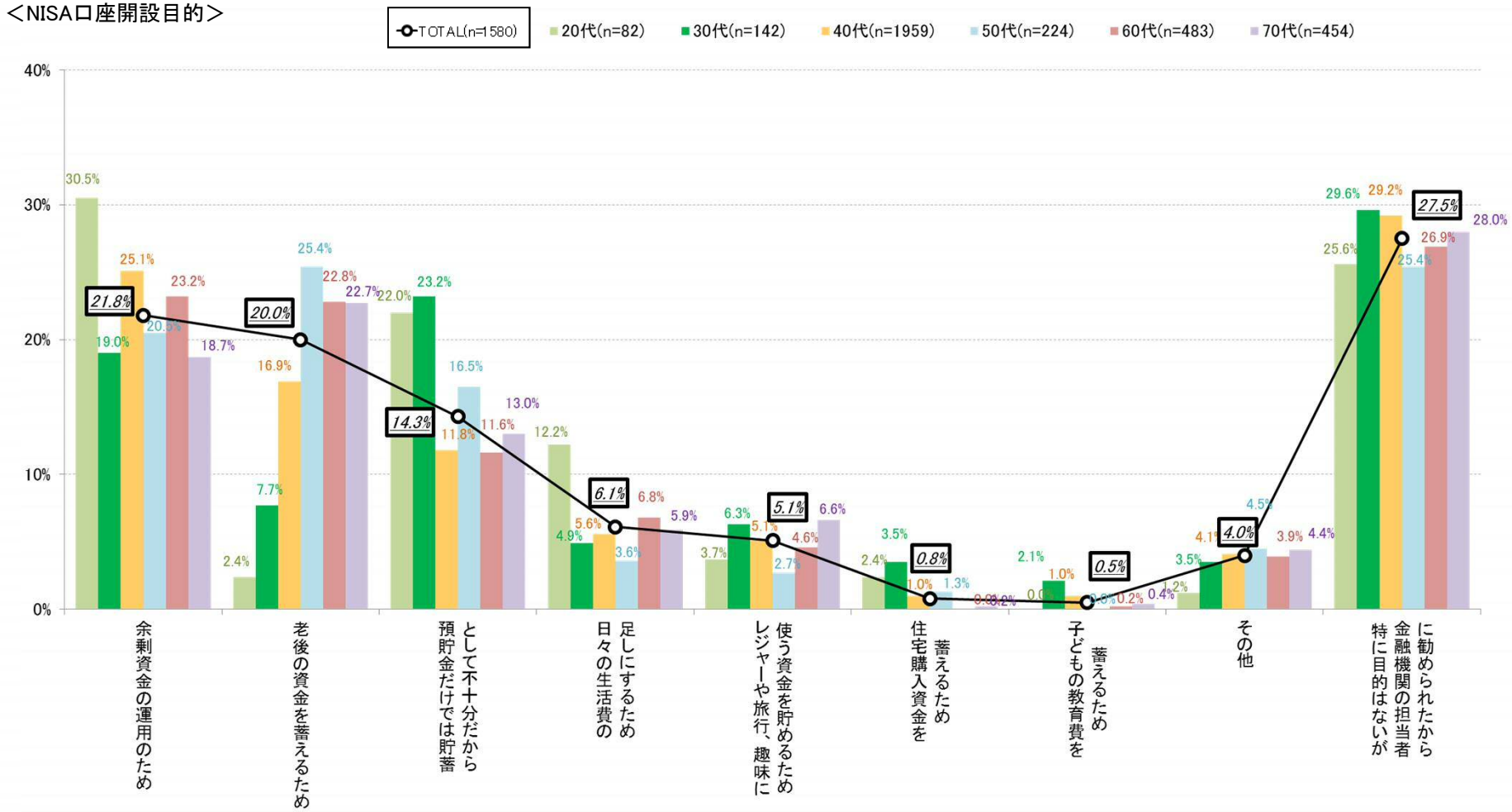
Ⅲ. 調査結果

NISA口座開設の目的

・NISA口座開設の目的をみると、全体では「余剰資金の運用」「老後資金の準備」が2割程度、「預貯金だけでは貯蓄として不十分」が1割以上となった。
　30代以下の若年層では、「預貯金では不十分」が高く、「老後資金の準備」は20代から増加し、50代をピークに減少に転じる傾向。
・「金融機関の担当者に勧められた」とする回答は3割弱と多く、目的が曖昧なままでの開設が実際の投資行動に結びついていない可能性も考えられる。

Q. ＜NISA口座開設者に＞あなたがNISA口座を開設した目的として、もっともあてはまるものを教えてください。〔SA〕

＜NISA口座開設目的＞



Copyright© 2016 INTAGE Inc. All Rights Reserved.

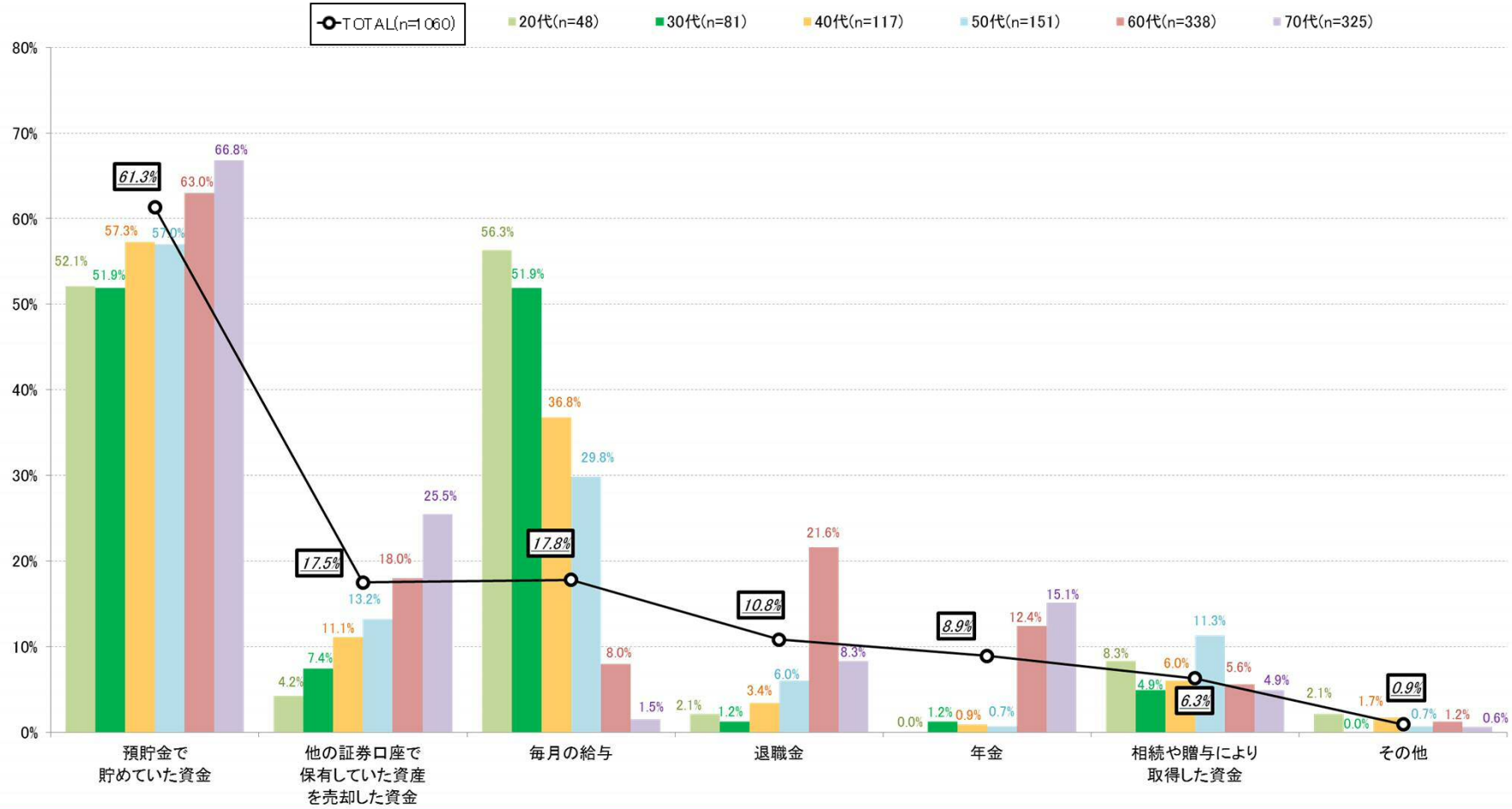
Ⅲ. 調査結果

NISA口座運用資金の拠出元（NISA口座での投資実施者ベース）

・資金の拠出元は、「預貯金」が6割と高く、「他の証券口座での保有商品の売却資金」は2割弱に留まる。預貯金から投資へ資金がシフトしている様子がうかがわれる。
・30代以下の若年層では「毎月の給与」の割合が高く、毎月の積立投資は馴染みやすいものと期待される。
　60代以上のシニア層では、預貯金の他に既存商品の売却資金、退職金、年金の資金と幅広い拠出元の資金を投資している傾向がみられる。

Q. ＜NISA口座での金融商品購入経験者に＞あなたがNISA口座で運用している、あるいは運用していた資金の拠出元について、あてはまるものをすべてお答えください。〔MA〕

＜口座運用資金の拠出元＞　※NISA口座での投資実施者ベース



Copyright© 2016 INTAGE Inc. All Rights Reserved.

Ⅲ. 調査結果

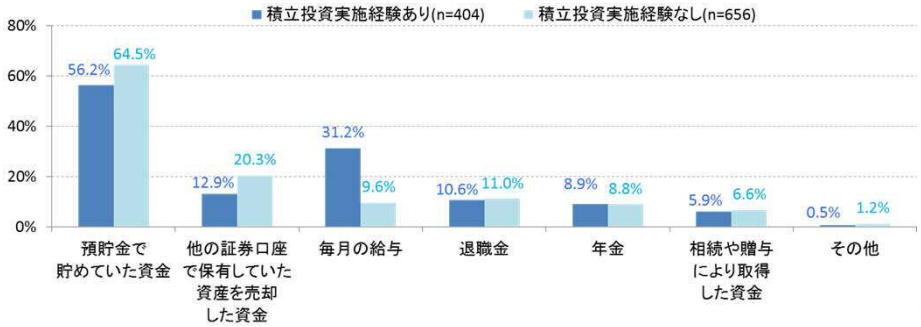
NISA口座での積立投資実施者の属性

・積立投資実行者では、拠出元として「預貯金」が「毎月の給与」に比べ多く、資産形成だけでなく、貯蓄資金の投資手法としても利用されている様子。
また口座開設目的をみると、「老後資金の準備」が最上位となっており、長期に亘る資産形成を企図している様子がうかがわれる。

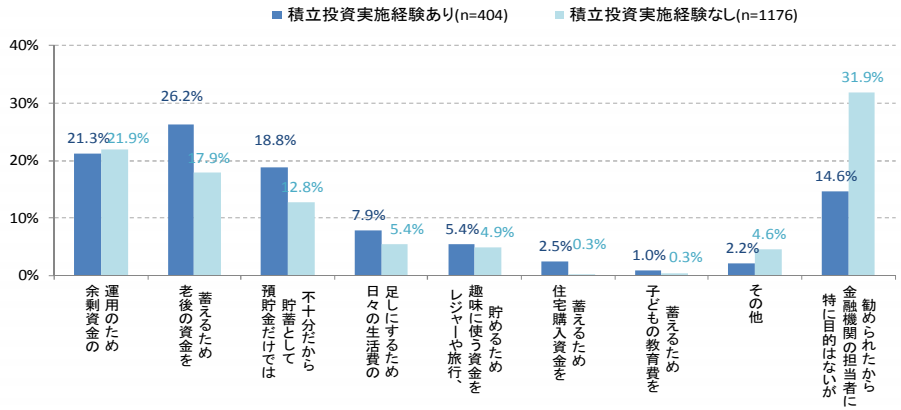
・「金融・投資教育」の経験がある層や、金融リテラシーが高い層、現在積立貯蓄を実施している層は、NISAでも積立投資を利用する割合は高い。

Q. ＜NISA口座開設者に＞あなたがNISA口座を開設した目的として、もっともあてはまるものを教えてください。〔SA〕
Q. ＜NISA口座での金融商品購入経験者に＞あなたがNISA口座で運用している、あるいは運用していた資金の拠出元について、あてはまるものをすべてお答えください。〔MA〕

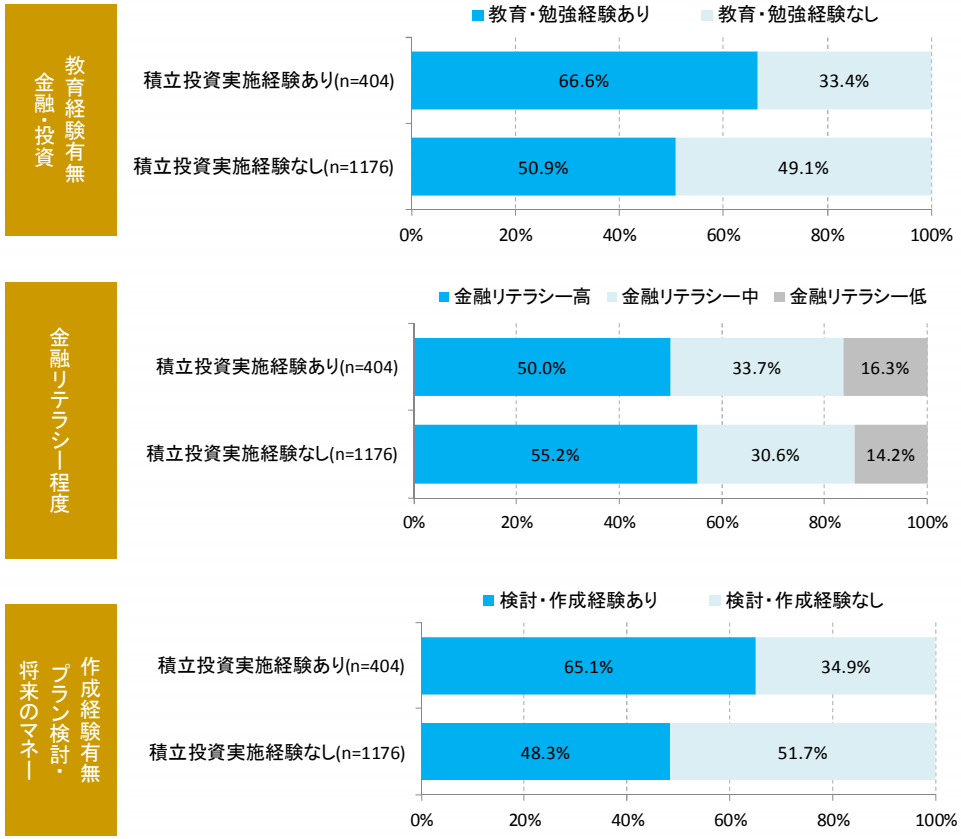
＜NISA口座での積立投資実施別における、NISA口座運用拠出元＞
※ NISA口座内での投資実施者ﾍﾞｰｽ



＜NISA口座での積立投資実施別における、NISA口座開設目的＞



＜NISA口座での積立投資実施別における、金融・投資教育経験／金融リテラシー程度／将来のマネープラン作成経験有無＞



Copyright© 2016 INTAGE Inc. All Rights Reserved.

Ⅲ. 調査結果

NISA口座開設意向（NISA口座未開設者ベース）

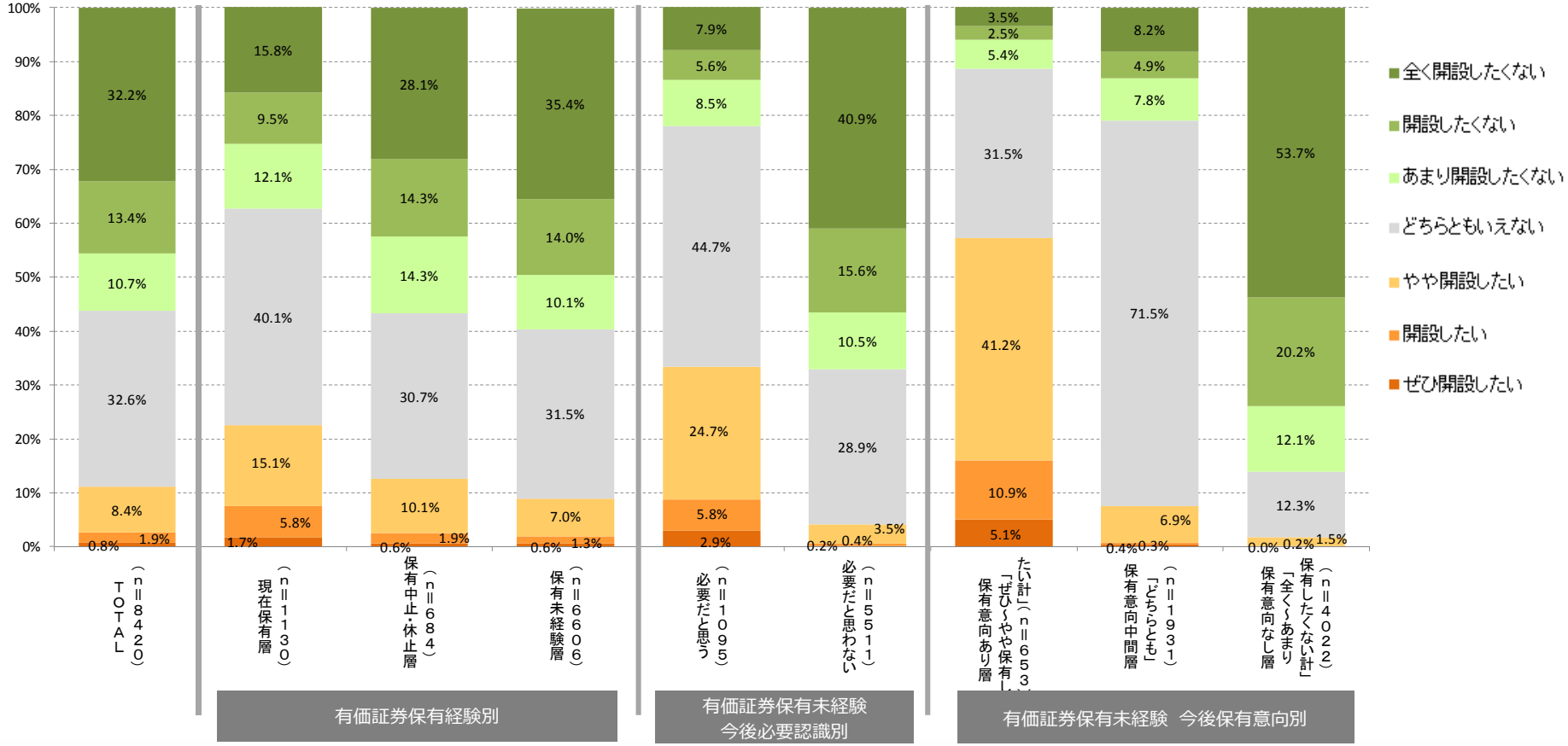
・NISA口座非開設者全体では、「ぜひ～やや開設したい」を合わせて1割程度の口座開設意向に留まる。

・有価証券保有経験別でみると「現在保有層」での開設意向が高くなるが、保有未経験層でも「今後保有が必要と思う層」や「保有意向がある層」では開設意向が3～5割台と高く、今後これらの層の取り込みが期待される。

Q. ＜NISA口座非開設者に　※ NISA非認知者を含む＞ 以下は、NISA制度について説明したものです。あなたは今後、NISA口座を開設してみようと思いますか。〔SA〕

NISAは、年間120万円（制度開始当初は100万円）の投資上限額の範囲内で行われた株式や投資信託などの一定の金融商品への投資について、その投資から得られた利益が非課税となる制度です。現在は、平成35年までの期間限定の制度とされています。

＜NISA口座開設意向＞



Copyright© 2016 INTAGE Inc. All Rights Reserved.

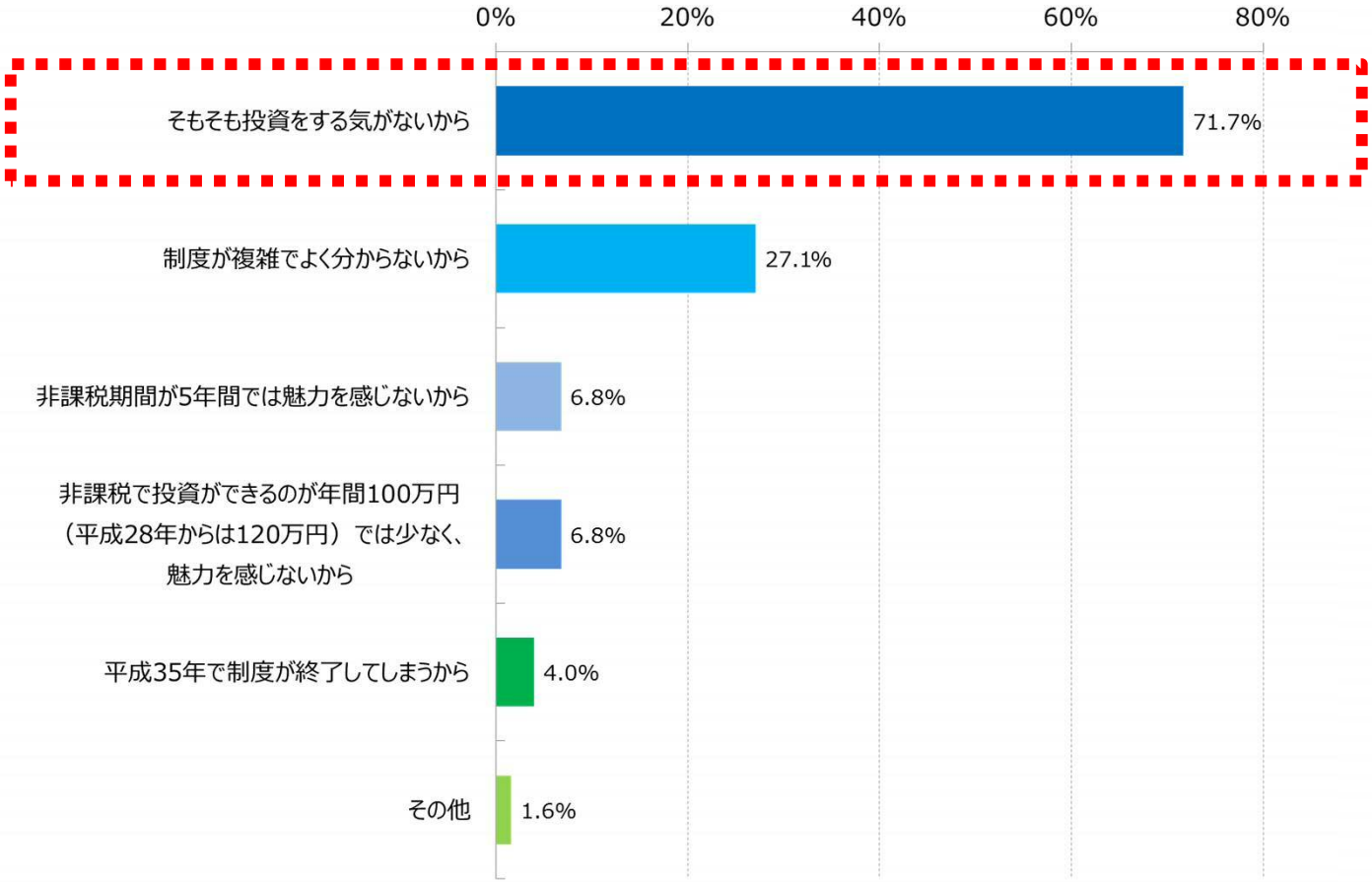
Ⅲ. 調査結果

NISA口座非開設意向理由

・NISA口座の開設意向がない理由は、「そもそも投資をする気がない」が7割強で突出。
　制度を起因とした理由では、「複雑でよく分からない」が3割弱で最も多い。
・その他の制度要因（「非課税期間が5年間」「非課税投資枠が少ない」「35年で制度が終了」）は、口座開設の大きな障害とはなっていない様子。

Q. ＜NISA口座非開設者　且つ　今後のNISA口座開設意向がない者に＞　あなたがNISA口座を開設したいと思わない理由をすべてお答えください。〔MA〕

＜NISA口座非開設意向理由＞　n=7489



Copyright© 2016 INTAGE Inc. All Rights Reserved.

Ⅲ. 調査結果

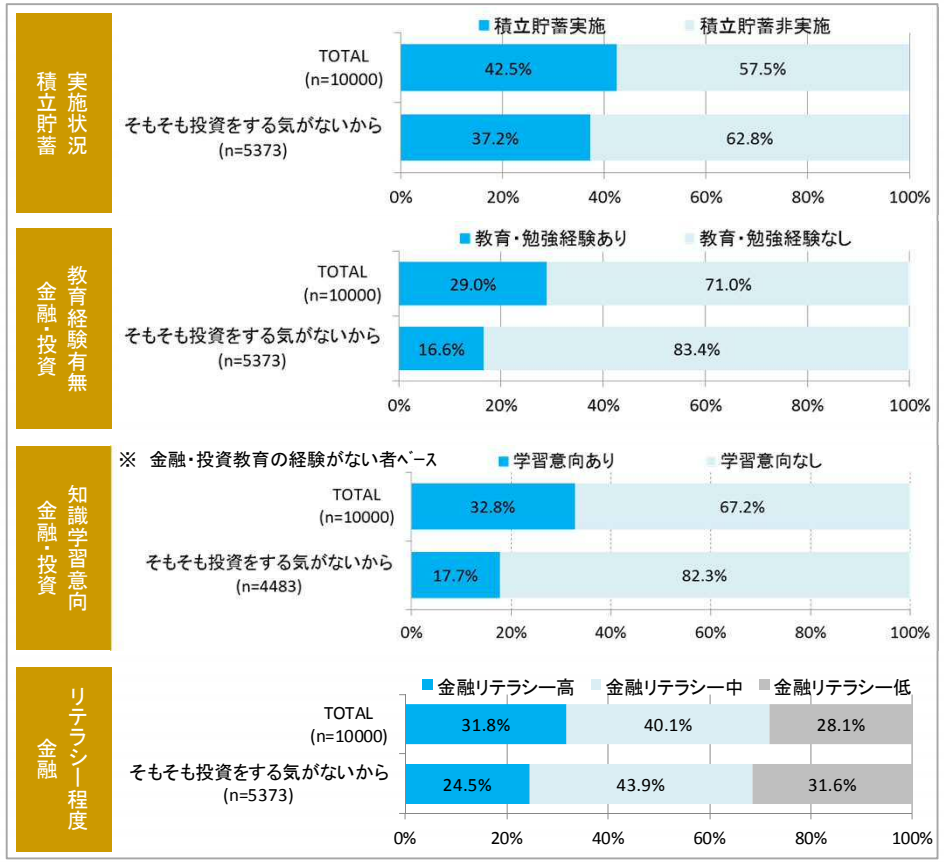
NISA口座非開設意向理由

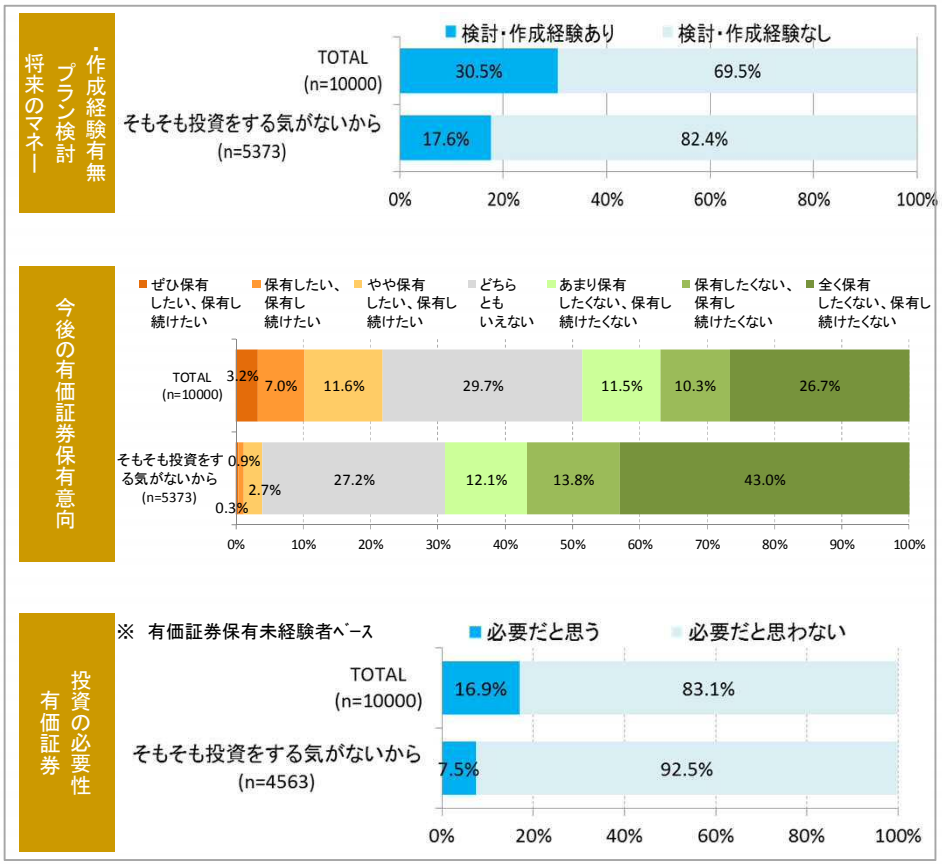
・「そもそも投資をする気がない」非開設者は、「金融・投資教育経験」が少なく「金融リテラシー」が低い。また「金融・投資知識学習意向」や「今後の有価証券保有意向」も低い。「将来のマネープラン作成経験」も少なく「有価証券保有の必要性」もあまり感じていないことから、「投資による将来に備えた資産形成の必要性」が理解されていない可能性がある。

・積立貯蓄の経験は4割弱を占め全体と大きな差はなく、NISA口座で少額積立投資を提案することで、口座開設意向が高まる可能性も考えられる。

Q. ＜NISA口座非開設者　且つ　今後のNISA口座開設意向がない者に＞　あなたがNISA口座を開設したいと思わない理由をすべてお答えください。〔MA〕

＜積立貯蓄実施状況／金融・投資教育経験有無／金融・投資知識学習意向／金融リテラシー程度／将来のマネープラン検討・作成経験有無／今後の有価証券保有意向／有価証券投資の必要性＞





Copyright© 2016 INTAGE Inc. All Rights Reserved.

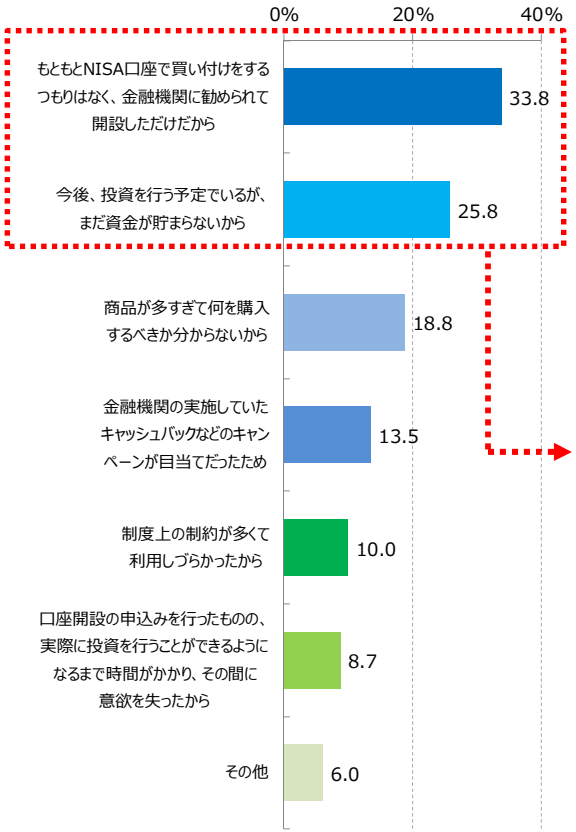
Ⅲ. 調査結果

NISA口座開設・非投資理由

・NISA口座での非投資理由をみると、「金融機関に勧められて開設しただけ」が3割以上と高く、次いで、「資金が貯まらない」が2割強で続く。
・「金融機関に勧められて開設しただけ」と答えた者は、「金融・投資教育経験」が半数近くあり、また「積立貯蓄」の実施率も高い。
・「投資予定だが、まだ資金が貯まらない」と答えた者は、株式に対して「資金にある程度のゆとりがある人」向けで、「リスクが比較的高く」「専門家向け」「一般の人には不要」「短期売買」とのイメージが高い。一方、投資信託に対しては「少額から役立つ」「中長期の資産形成に適している」「素人でも十分活用可能」「一般の人に必要」とのイメージが相対的に高く、また積立貯蓄の実施率も高い。NISA制度で少額積立での投資信託の活用を促すことで、投資実施に繋がる可能性が考えられる。

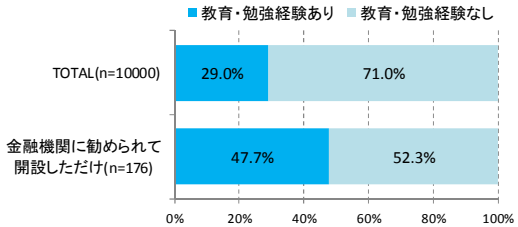
Q. ＜NISA口座を開設しているが、口座での金融商品の購入経験はない者に＞
あなたが、NISA口座を開設したにもかかわらず、実際に投資を行っていない理由として、あてはまるものをすべてお答えください。〔MA〕

＜NISA口座開設・非投資理由＞ n=520

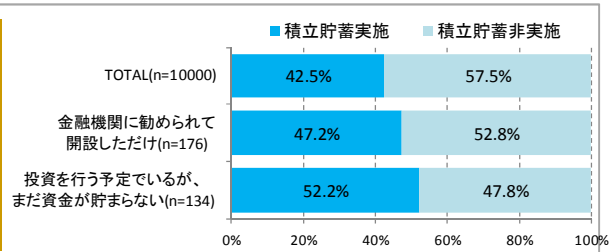


＜NISA口座非開設・非投資意向理由で「金融機関に勧められただけ」「まだ資金がたまらない」「制約が多く利用しづらい」と回答した者の貯蓄実施状況／NISA制度改善要望点＞

Q25 教育・勉強経験別 金融・投資の



Q6 積立貯蓄実施状況



Q9「投資信託」「株式」のイメージ

・・・各TOTALより15%以上高い

		n	資金面 少額からでも資産形成に役に立つもの	資金面 資金にある程度のゆとりがある人やお金持ちがやるもの	リスク認識 リスクが比較的低く、素人でも十分に活用できるもの	リスク認識 リスクが比較的高く、素人には危険なもの	知識 高度な知識は必ずしも必要なく、素人でも十分に活用できるもの	知識 高度な知識が必要で、専門家向けのもの	仕組み 商品やサービスの仕組みがシンプルで、分かりやすい	仕組み 商品やサービスの仕組みが複雑で、よく分からない	必要性 いわゆる投資家に限らず一般の人にも必要なもの	必要性 一般の人には必要のないもの	活用法 短期の売買を繰り返し利益を出すことに適しているもの	活用法 短期の値動きを気にせず、中長期の資産形成を行うのに適しているもの	あてはまるものはない
投資信託	TOTAL	(10000)	12.0%	35.9%	12.8%	34.0%	13.4%	33.3%	8.6%	38.4%	12.6%	31.2%	9.4%	32.0%	37.6%
投資信託	今後、投資を行う予定でいるが、まだ資金が貯まらないから	(134)	31.3%	44.0%	26.9%	44.8%	28.4%	41.0%	20.9%	46.3%	29.1%	34.3%	12.7%	51.5%	18.7%
株式	TOTAL	(10000)	11.4%	42.0%	8.0%	46.9%	11.0%	41.5%	12.9%	35.8%	14.0%	33.4%	24.1%	22.6%	31.8%
株式	今後、投資を行う予定でいるが、まだ資金が貯まらないから	(134)	17.9%	61.9%	11.9%	67.2%	17.9%	56.7%	24.6%	45.5%	20.1%	49.3%	42.5%	31.3%	8.2%

Copyright© 2016 INTAGE Inc. All Rights Reserved.

Ⅲ. 調査結果

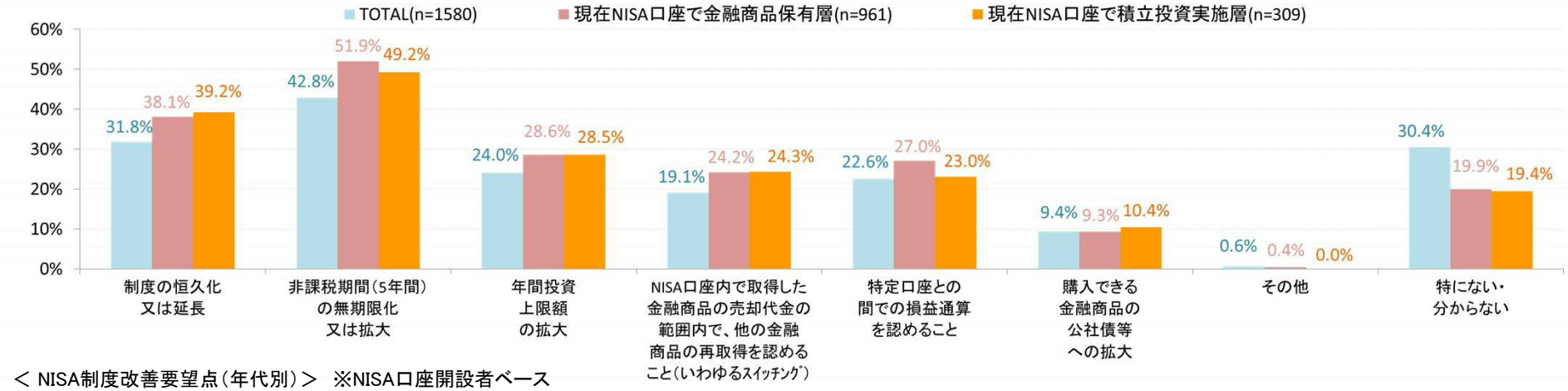
NISA制度改善要望点（NISA口座開設者ベース）

・口座開設層全体の制度改善要望は、「非課税期間の無期限化」「制度の恒久化」を望む割合が高い。また現在NISA口座で投資を行っている層や積立投資を行っている層では、半数程度が「非課税期間の無期限化」を要望しており、5年間の非課税期間では不十分だと感じている様子がうかがわれる。

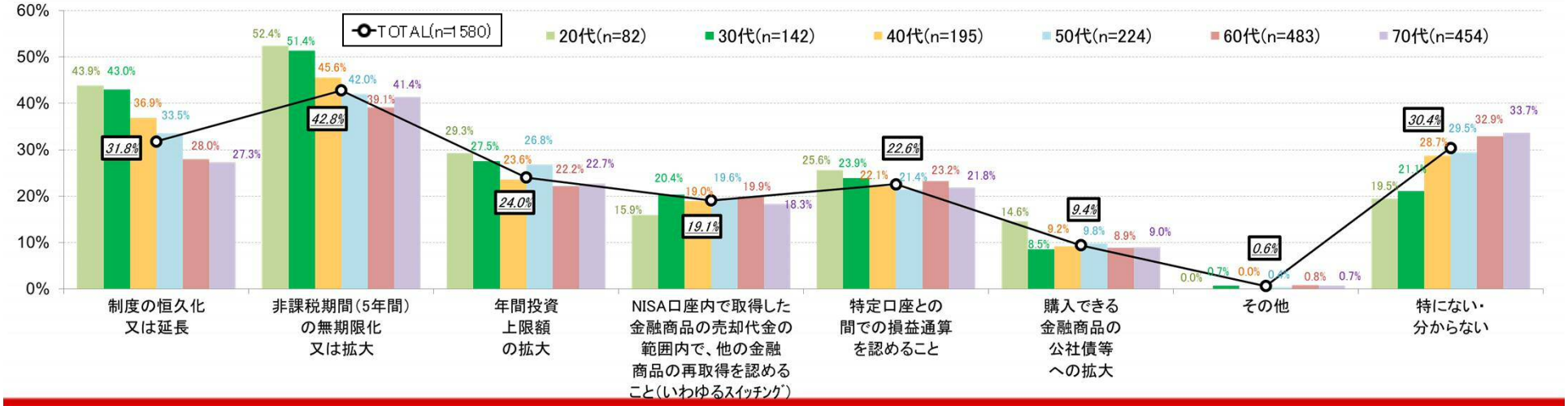
・年代別にみると、若年層ほど「非課税期間の拡大」や「制度恒久化」への要望が高まる傾向。

Q. NISA制度について改善が必要と考える点をすべてお答えください。〔MA 「特にない・分からない」は排他〕

＜NISA制度改善要望点＞ ※NISA口座開設者ベース



＜ NISA制度改善要望点（年代別）＞ ※NISA口座開設者ベース



Copyright© 2016 INTAGE Inc. All Rights Reserved.

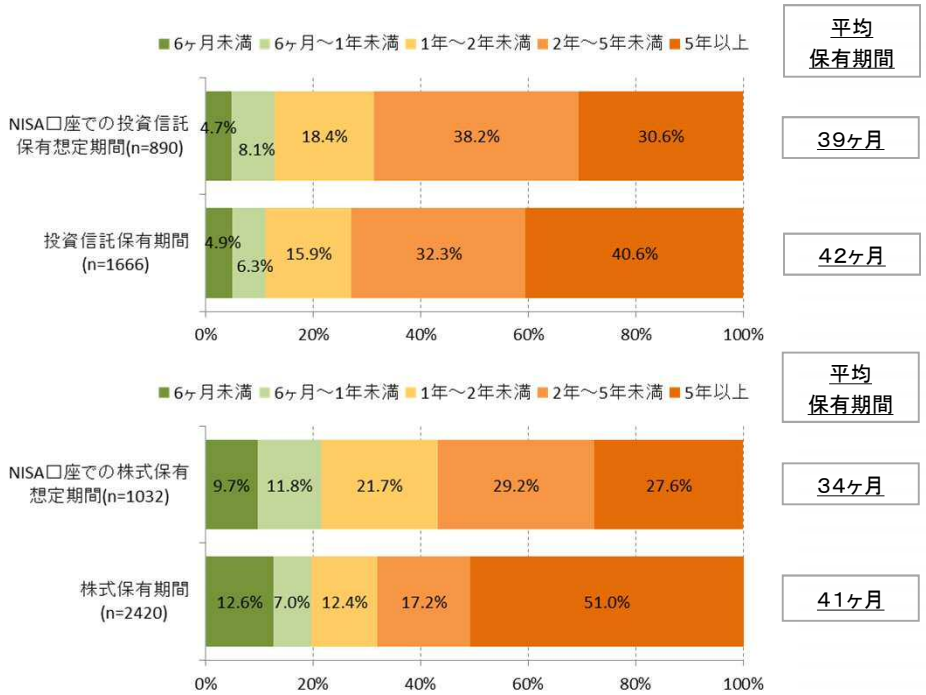
Ⅲ. 調査結果

NISA口座開設者の、NISA口座での投資信託・株式保有想定期間

・NISA口座での「投資信託」「株式」の保有想定期間をみると、「5年以上」とする割合が、保有実績期間に比べ大幅に低い。
またNISA制度の改善要望では、「非課税期間の無期限化」に対する回答が高く、非課税期間である5年間が、NISA制度での想定保有期間や長期投資を実践する上での抑制要因となっている可能性が考えられる。

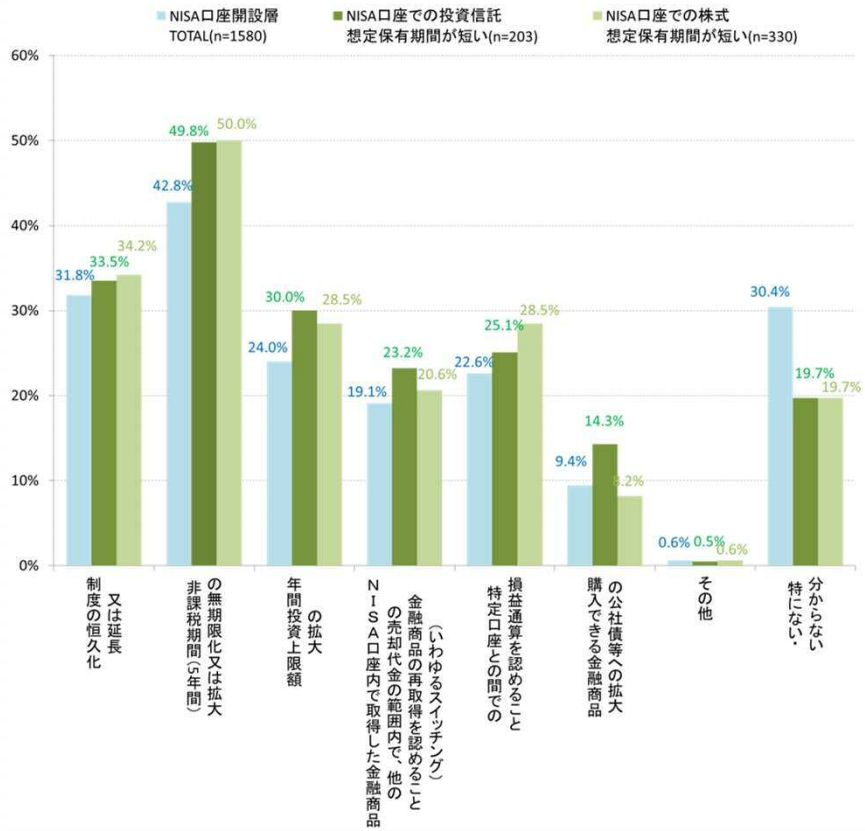
Q. ＜NISA口座開設者に＞
あなたはNISA口座内で購入した有価証券（※）について、売却までの間、概ねどの程度の期間、保有することを想定していますか。株式と投資信託についてお答えください。〔SA〕
※ 有価証券・・・株式、国債などの債券、投資信託、REIT、ETFを指します。預貯金や不動産、FX等は含みません。

＜NISA口座での投資信託・株式想定保有期間＞
※ 投資信託・株式共にQ33では「NISA口座で保有したことがない／保有しようと思わない」との回答者を除いて掲載。



【平均保有期間の算出におけるウエイト値は以下の通り】
1ヶ月未満:0.5ヶ月／1ヶ月～3ヶ月未満:2ヶ月／3ヶ月～6ヶ月未満:4.5ヶ月／6ヶ月～9ヶ月未満:7.5ヶ月／9ヶ月～1年未満:10.5ヶ月／1年～1年6ヶ月未満:15ヶ月／1年6ヶ月～1年9ヶ月未満:19.5ヶ月／1年9ヶ月～2年未満:22.5ヶ月／2年～5年未満:42ヶ月／5年以上:60ヶ月

＜株式・投資信託保有経験期間に比べ、Q33NISA口座での投資信託・株式想定保有期間が短い者における、Q38NISA制度改善要望＞



Copyright© 2016 INTAGE Inc. All Rights Reserved.

Ⅲ. 調査結果

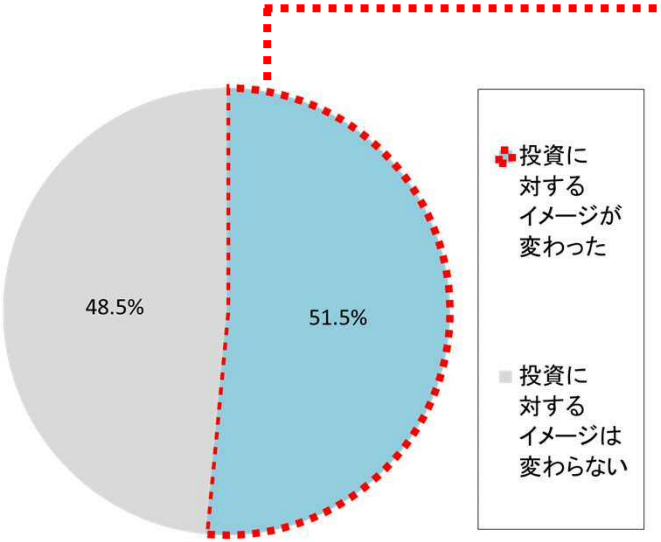
NISA口座開設による投資イメージの変化

・NISA口座開設によって投資に対するイメージが変わったとする割合は、過半数に達しており、何らかのイメージの変化を醸成させている。
イメージの変化ではポジティブな変化が多くを占めており、NISAによって投資がより身近なものに感じるようになった様子がうかがえる。

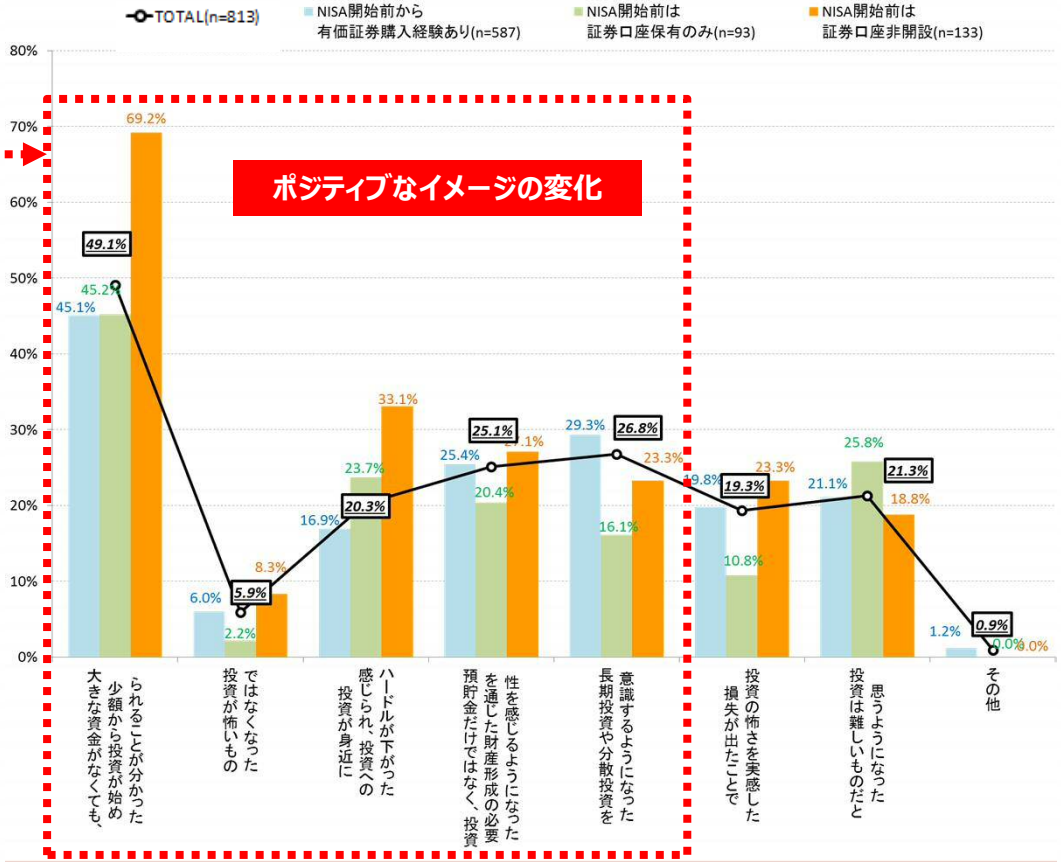
・投資未経験者では、「少額投資」「ハードルが下がった」とのイメージが高まった一方で、既存投資家では、「長期投資や分散投資を意識するようになった」が全体に比べ高く、特徴的な変化となる。

Q. ＜NISA口座開設者に＞
あなたはNISA口座を開設したことを通じて、有価証券（※）への投資に対するイメージは変わりましたか、また、意識するようになったことはありますか。あてはまるものをすべてお答えください。
〔MA 「投資に対するイメージは変わらない」は排他〕　※ 有価証券・・・株式、国債などの債券、投資信託、REIT、ETFを指します。預貯金や不動産、FX等は含みません。

＜NISA口座開設による投資イメージの変化の有無＞ n=1580



＜NISA口座開設による投資イメージの変化＞　※イメージが変わった者ベース



Copyright© 2016 INTAGE Inc. All Rights Reserved.

Ⅲ. 調査結果

ジュニアNISA制度浸透状況　－属性別－

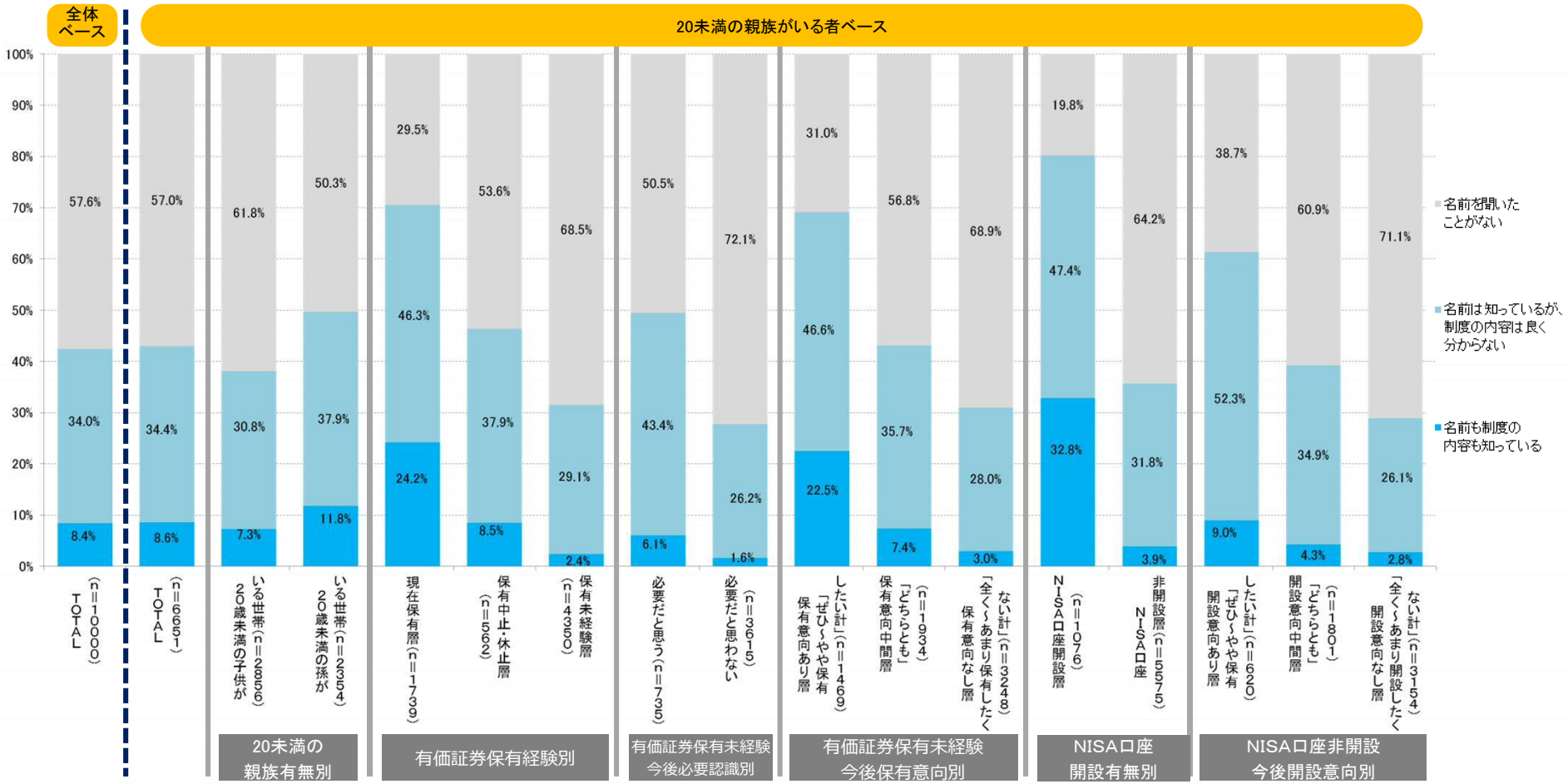
・ジュニアNISAの認知率は、全体、未成年者の親族がいる層でともに4割程度。内容認知は1割を下回る状況にあり、制度説明情報が必要と思われる。

・未成年者の親族がいる層でも、現投資家層では7割の認知率、（成人）NISA口座開設層では8割の認知率と非常に高い。

これは取引先や口座開設している金融機関からの情報を得ているものと考えられ、情報取得の格差が生じている。

Q. あなたはジュニアNISA制度を知っていますか。またご存知の方は、ジュニアNISA口座の開設の有無についても教えてください。〔SA〕
※　現在、ジュニアNISAの口座開設を申込み中の方は、「ジュニアNISAの口座を開設している」とお答えください。

＜ジュニアNISA制度　浸透状況＞



Copyright© 2016 INTAGE Inc. All Rights Reserved.

Ⅲ. 調査結果

ジュニアNISA口座開設意向（20歳未満の親族のいる、口座未開設者ベース）

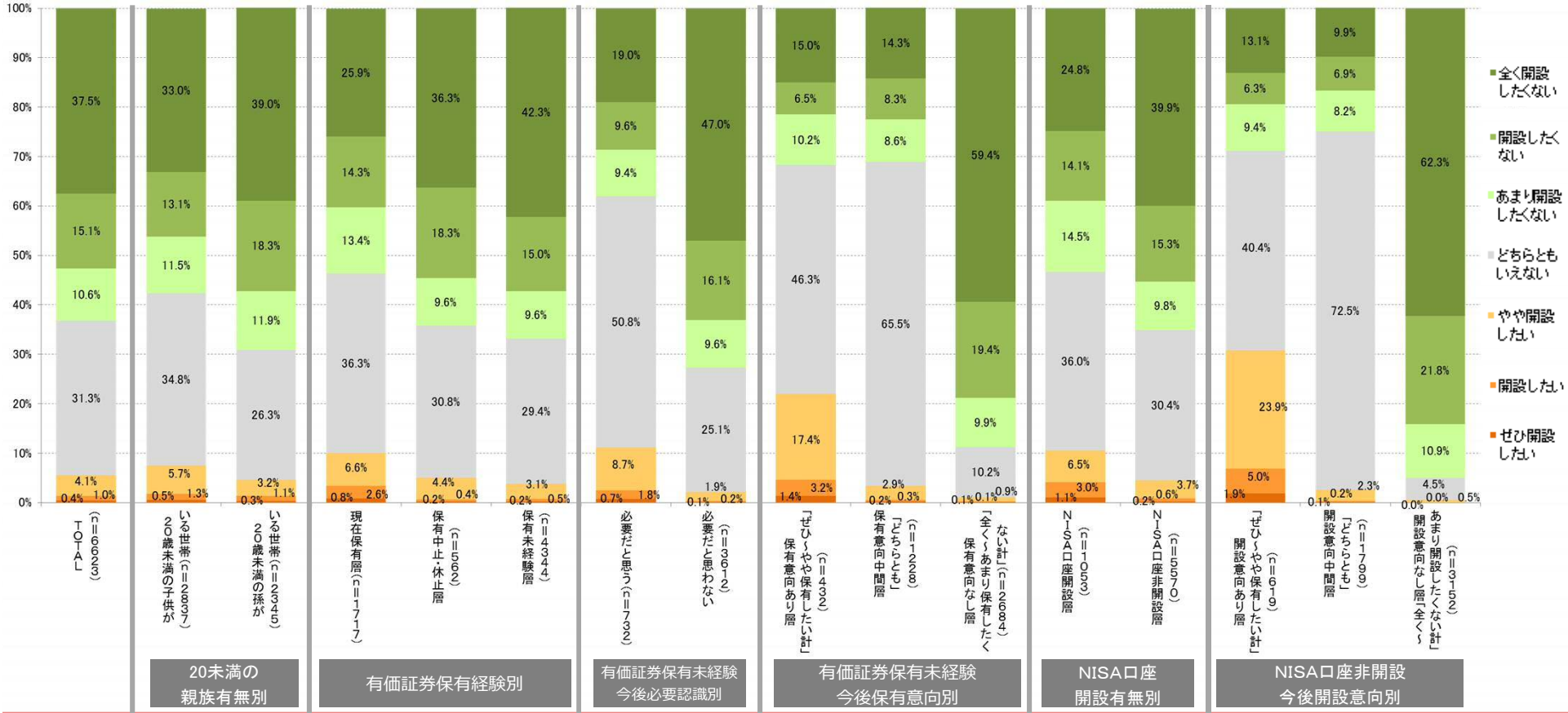
・ジュニアNISAの口座開設意向は、「ぜひ～やや開設したい」を合わせて5%程度に留まり、調査時点の2月においては全般的に関心は低い様子。

・（成人）NISA口座開設者では、1割程度の口座開設意向を示している。また祖父母世代（孫がいる層）よりも親世代（子供のいる層）のほうが口座開設意向が高い。
また現在保有層や、有価証券保有未経験で今後保有意向のある層での口座開設意向が高く、これらの層から利用が始まるものと思われる。

Q. ＜20歳未満の親族在住者で、ジュニアNISA口座非開設者に＞ ※ ジュニアNISA非認知者を含む
以下は、ジュニアNISA制度について説明したものです。ジュニアNISAは平成28年1月から口座開設の申込みが可能となっていますが、あなたは今後、ジュニアNISA口座を開設してみようと思いますか。〔SA〕

ジュニアNISAは、平成35年までの間、日本に住む0歳～19歳までの未成年者の方が未成年者専用NISA口座を開設することができる制度です（投資上限額は年間80万円）。
ただし、NISAと異なり、子どもが18歳になるまでは、口座内の金融資産や資金を払いだすことができません。また、資金の拠出や口座の管理等は主に
未成年者本人以外の人（未成年者の親や祖父母）が行うことが想定されていますが、口座内の金融資産や資金は、子どものためにのみ用いることができます。

＜ジュニアNISA口座開設意向＞ ※20歳未満の親族がおり、現在ジュニアNISA口座を開設していない者ベース



Copyright© 2016 INTAGE Inc. All Rights Reserved.

Ⅲ. 調査結果

ジュニアNISA想定資金拠出者・想定運用口座管理者/ジュニアNISA利用目的（どちらも20歳未満の親族在住者で、ジュニアNISA口座開設者および口座開設意向者ベース）

・ジュニアNISA利用形態の想定をみると、資金の拠出者・運用管理をともに親とする割合は5割強、ともに祖父母とする割合は2割弱。

・利用目的（複数回答）をみると、「教育資金の準備」が7割弱、「未成年者の手持ち資金の準備」が4割強。

祖父母世代（孫のいる層）では、孫の教育資金の準備意識が親世代（子供のいる層）より高い模様。

Q. ジュニアNISAの利用に当たって、資金は実質的に誰が拠出することを想定していますか。また、誰がジュニアNISA口座を管理したり口座内の資産を運用することを想定していますか。〔SA〕
Q. ジュニアNISAの利用目的として、あてはまるものをすべてお答えください。〔MA〕

＜ジュニアNISA想定資金拠出者・想定運用口座管理者＞
※ ジュニアNISA口座開設者および口座開設意向者ベース(n=392)

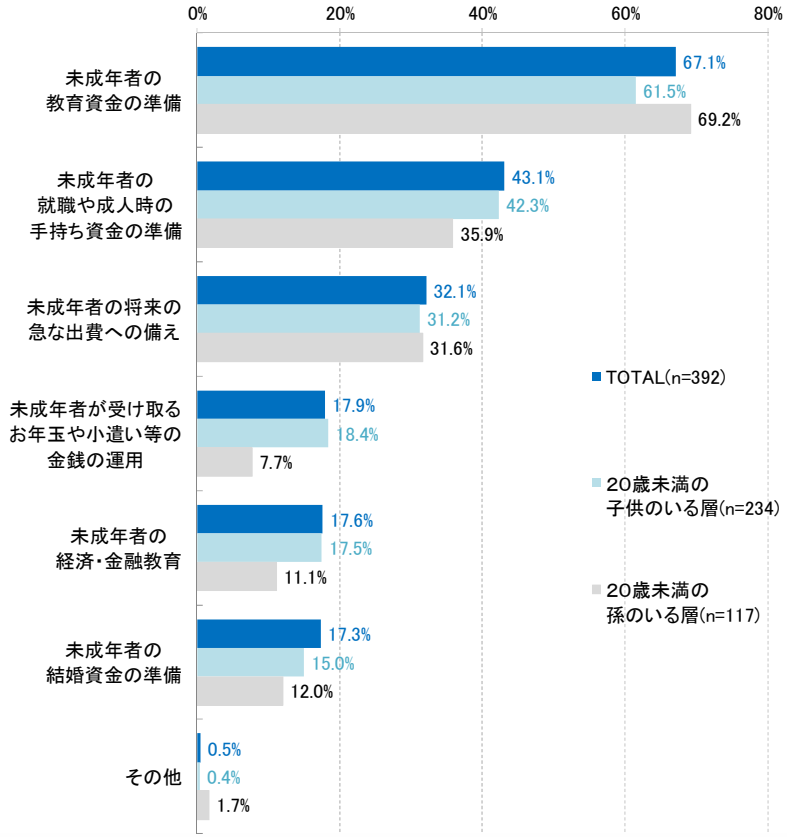
	未成年者にとっての祖父母	未成年者にとっての親	未成年者にとっての両親・祖父母以外の親族	未成年者本人	その他	分からない
〔想定〕資金拠出者	27.3	58.7	2.8	-	-	11.2
〔想定〕口座管理者	17.6	63.5	4.1	3.3	0.3	11.2

(%)

＜ジュニアNISA　想定資金拠出者×想定運用口座管理者　組み合わせランキングTOP3＞

20歳未満の親族のいる層TOTAL (n=392)	①	資金拠出者【親】 × 口座管理者【親】	:	53．1%
	②	資金拠出者【祖父母】 × 口座管理者【祖父母】	:	16．8%
	③	資金拠出者【祖父母】 × 口座管理者【親】	:	9．7%
20歳未満の子供のいる層 (n=234)	①	資金拠出者【親】 × 口座管理者【親】	:	67．9%
	②	資金拠出者【祖父母】 × 口座管理者【親】	:	6．8%
	③	資金拠出者【祖父母】 × 口座管理者【祖父母】	:	4．7%
20歳未満の孫のいる層 (n=117)	①	資金拠出者【祖父母】 × 口座管理者【祖父母】	:	50．4%
	②	資金拠出者【祖父母】 × 口座管理者【親】	:	15．4%
	②	資金拠出者【親】 × 口座管理者【親】	:	15．4%

＜ジュニアNISA利用目的＞
※ジュニアNISA口座開設者および口座開設意向者ベース(n=392)



Copyright© 2016 INTAGE Inc. All Rights Reserved.

Ⅲ. 調査結果

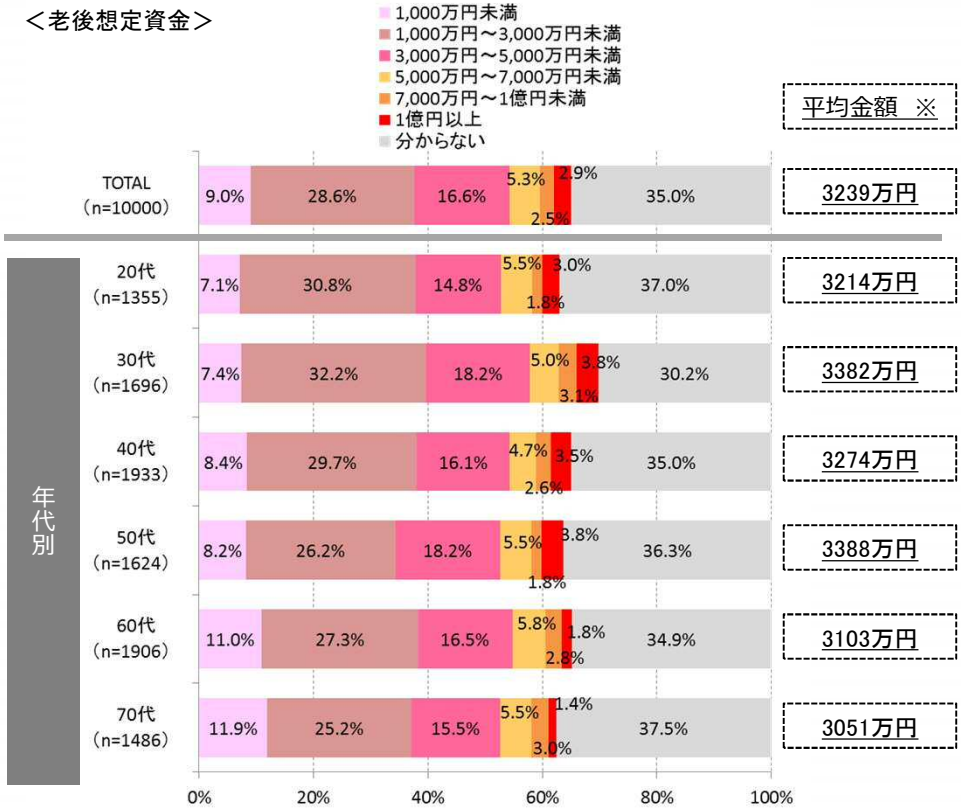
老後資金想定額/将来の自己資産相続準備状況

・老後資金の想定額は、各年代ともに3千万円台前半程度。ただし、「分からない」とする回答が各年代ともに3割以上を占めており、具体的に老後の生活が想像できていない人が多い様子。

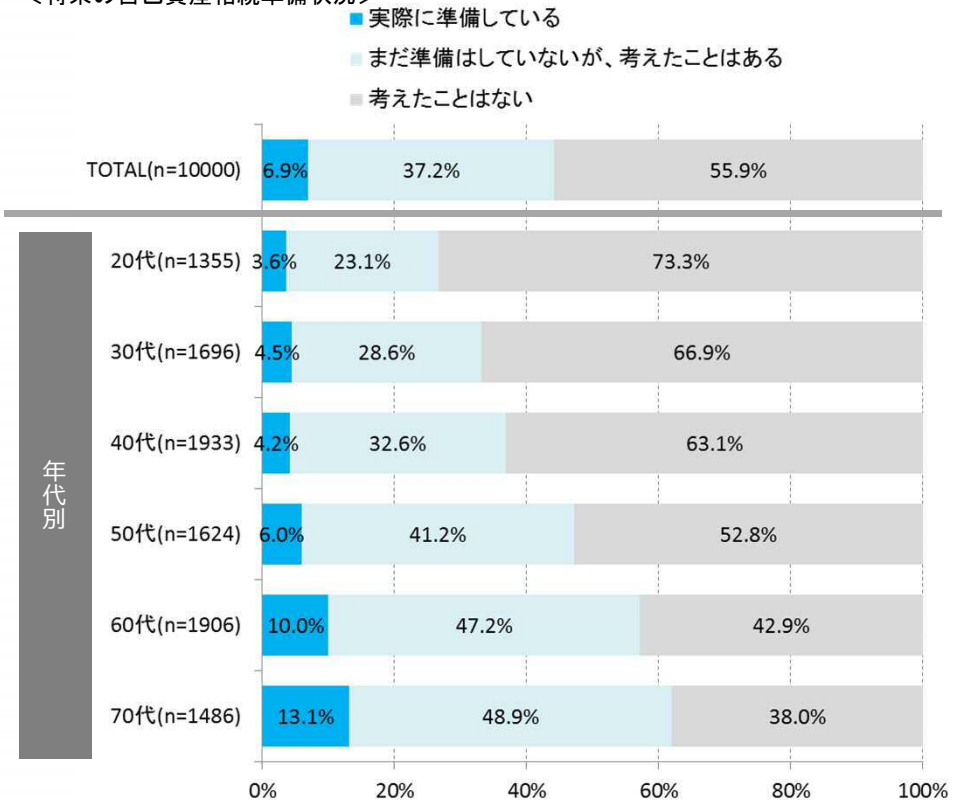
・自身の資産の相続に対して、「準備している」割合は70代でも1割強に留まっている。「考えたことがある」割合は、半数程度を占めている ので、具体性を欠いてはいるものの、相続準備を考えている人は多い。

Q. あなたが自分の老後の備えとして、準備しておきたい金額はどれくらいですか。〔SA〕
※ 65歳以降の生活費として、年金以外に準備しておきたい資産額についてお答え下さい。(65歳以上の方は、来年以降の生活費の総額として年金以外に準備しておきたい資産額をお答え下さい)
Q. あなたの世帯では、将来の相続(自分の資産をどのように相続させるか等)について考えたり準備したりしていますか。〔SA〕

＜老後想定資金＞



＜将来の自己資産相続準備状況＞



※ 平均金額が、「分からない」との回答者を除いて算出。また平均金額算出にあたっての各選択肢のウエイト値は以下の通り。
1000万円未満:499.5万円／1000万円～3000万円未満:1999.5万円／3000万円～5000万円未満:3999.5万円／5000万円～7000万円未満:5999.5万円／7000万円～1億円未満:8499.5万円／1億円以上:10000万円

Copyright© 2016 INTAGE Inc. All Rights Reserved.

Ⅲ. 調査結果

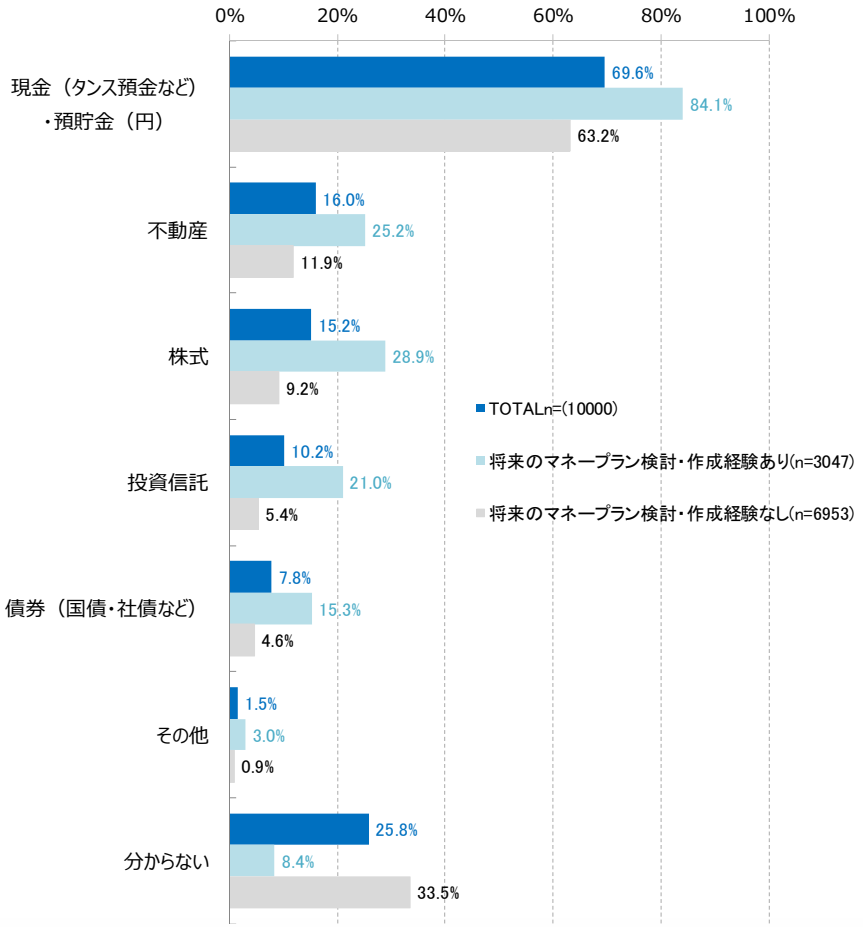
老後資産準備形態／老後資金準備形態理由

・全体では老後資産の準備形態は、「現金・預貯金」での準備が7割程度と高く、準備形態理由は「価格の安定性」や「現在保有していること」が高い。

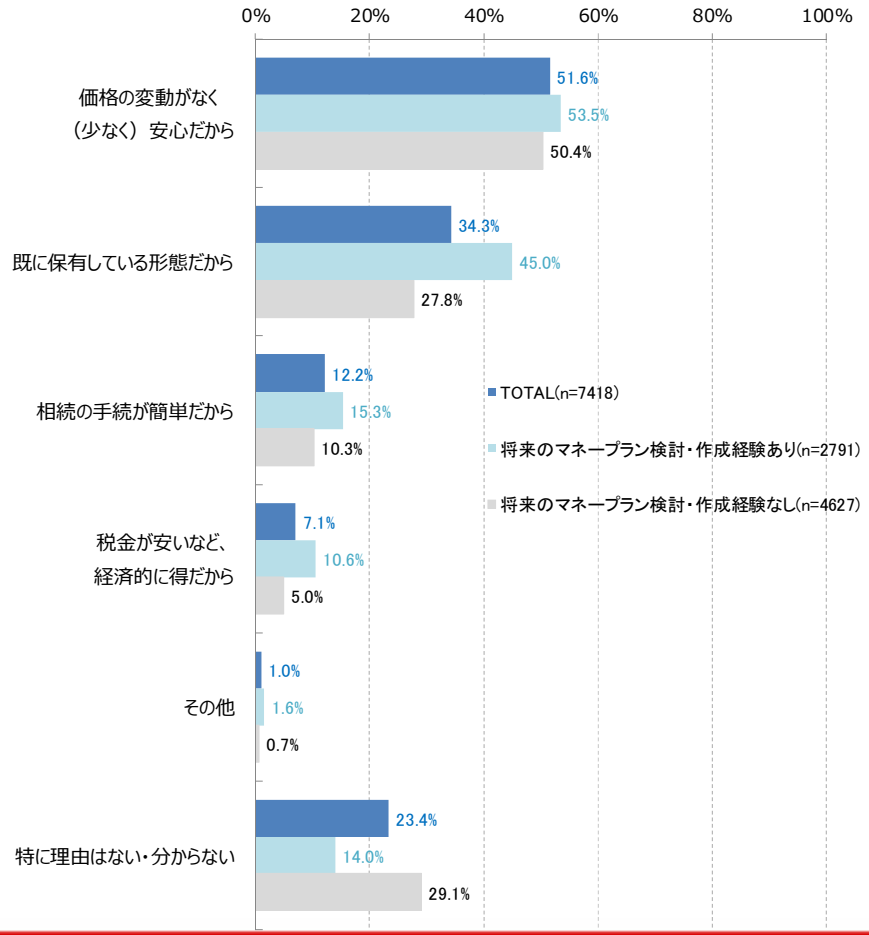
・マネープランの作成経験がある層では、「分からない」との回答が、準備形態とのその理由共に低く、広範囲に準備をしている様子。

Q. あなたが自分の老後の備えとして、準備しておきたい金額は、どのような資産の形で保有したいと思いますか。あてはまるものをすべてお答えください。〔MA 「分からない」は排他〕
Q. 前問で選択した資産の形で老後の備えを準備しておきたいと思う理由は何ですか。あてはまるものをすべてお答えください。〔MA 「特に理由はない・分からない」は排他〕

＜老後資産準備形態＞



＜老後資産準備形態理由＞



Copyright© 2016 INTAGE Inc. All Rights Reserved.

intage

THE INTELLIGENCE PROVIDER ™

知からチカラを。チカラに知を。

Copyright© 2016 INTAGE Inc. All Rights Reserved.